

Privia

取扱説明書

PX-S7000

はじめの準備



電源の準備



電源の入れ方、切り方



ペダルを使う



ヘッドホン(市販品)を使う

鍵盤で演奏する



さまざまな音色で演奏する



2つの音色を重ねる(レイヤー)



鍵盤を左右に分けて使う(スプリット)



メトロノームを使う

音に効果をかける



サウンドモード
(ホールシミュレーター/
リバーブとサラウンド)
を使う



コーラス(コーラス、
フランジャー、ショート
ディレイ)を使う



マイクエフェクトを使う



アコースティックピアノ
の音の特徴を調整する
(アコースティック
シミュレーター)

ミキサーを使う



各パートの音量・
ステレオ定位・エフェクト
のかかり方を調節する

設定を登録する



演奏に使う設定を
登録する・呼び出す
(レジストレーション)

演奏を録音する



MIDIレコーダーで
演奏を録音する

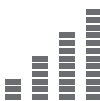


オーディオレコーダーで
演奏を録音する

音の高さを調節する



半音単位で変更する
(トランスポーズ)



音の高さを微調整する
(マスターチューニング)

スマートデバイスと接続する



専用アプリを使う

- 電池だけで本機を使用しているときに、大きな音量で演奏や曲再生をすると、音が歪んで聞こえる場合があります。
これは、ACアダプターと電池の違いによるもので、故障ではありません。音の歪みが気になる場合は、ACアダプターでご使用いただくか、音量を下げてください。

本書の内容について

- 本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- 本書のイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、カシオ計算機(株)はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- 本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

目次

本機の概要と使用前の準備	6
各部の名称	6
タッチ操作と本書での表記	9
電源の準備	10
AC アダプターを使う	10
電池を使う	11
電源の入れ方、切り方	14
オートレジューム機能	15
オートパワーオフ機能	15
オートパワーオフ機能を無効にする	15
電源切り忘れお知らせ機能とイルミネーション演出	16
電源切り忘れお知らせ機能の動作について	16
フロントパネルの消灯について	16
液晶画面のコントラストを調整する	17
音量を調節する	17
ヘッドホン（市販品）を使う	17
ヘッドホンの接続中にスピーカーから音を出す	18
ヘッドホンモードについて	18
マイク（市販品）を使う	18
ボタン操作のロックについて（オペレーションロック）	19
スマートデバイス・パソコン・外部オーディオ機器との接続方法一覧	20
付属のワイヤレス MIDI & AUDIO アダプターを使う	21
本機を工場出荷時の状態に戻す	21
共通の操作	22
タッチボタンとタッチリングについて	22
タッチリングの基本操作	22
タッチボタンとタッチリングの感度設定	23
タッチリング操作音の音量設定	23
液晶画面表示と基本操作	24
操作項目を選ぶ	24
設定項目の階層を移動する	26
F ボタンメニューと FUNCTION メニュー	27
F ボタンメニューを使う	27
FUNCTION メニューを使う	29
文字を入力する	31
ピアノの音響設定とデモ演奏	34
設置場所に応じた音響設定を選ぶ（ピアノポジション）	34
デモ演奏を聴く	35

さまざまな音色で演奏する	37
音色を選ぶ	37
音色を番号順に選ぶ	37
音色をカテゴリーから選ぶ	38
音色ボタンを使って選ぶ	38
音色を F ボタンで選ぶ	39
ギター音色とベース音色について	39
2 つの音色を重ねる (レイヤー)	40
レイヤーを使って 2 音色を重ねて鳴らす	40
レイヤーをオフにする	41
鍵盤を左右に分けて使う (スプリット)	42
鍵盤の低音部と高音部で音色を変える	42
スプリットポイントを変更する	43
スプリットをオフにする	43
各パートの設定 (音量、オクターブシフト、チューニングなど) を変更する	44
音に効果をかける	45
サウンドモード (ホールシミュレーター／リバーブとサラウンド) を使う	45
ホールシミュレーター／リバーブとサラウンドのオン / オフを切り替える	45
ホールシミュレーター／リバーブのタイプを選ぶ	46
ホールシミュレーター／リバーブのかかり方を調節する	47
サラウンドのタイプを選ぶ	47
コーラス (コーラス、フランジャー、ショートディレイ) を使う	48
コーラスタイプを変更する	48
コーラスのかかり方を調節する	48
ブリリアンスを調節する	49
アコースティックピアノの音の特徴を調整する (アコースティックシミュレーター)	50
アコースティックピアノ音の設定項目一覧	51
マイクエフェクトを使う	52
マイクエフェクトのオン / オフを切り替える	52
マイクエフェクトのタイプを選ぶ	52
マイクエフェクトの設定を変更する	53
ミキサーを使う	55
各パートの音量・ステレオ定位・エフェクトのかかり方を調節する	55
ミキサー設定項目一覧	56
演奏しながら音の鳴らし方を変える	57
ペダルを使う	57
PEDAL UNIT 端子	57
EXPRESSION/ASSIGNABLE 端子	57
各パート (Upper 1/Upper 2/Lower) に対するペダル操作の有効／無効を切り替える	61
EX ボタンを使う	62
EX ボタンに割り当てる機能を変更する	62
CONTROL ボタンを使う	64
CONTROL ボタンに割り当てる機能を切り替える	64
ポルタメントタイムを設定する	65

ピッチベンドホイールで音の高さを変える	66
ピッチベンドレンジを変更する	66
各パート (Upper 1/Upper 2/Lower) に対するピッチベンドホイール操作の 有効／無効を切り替える	67
ピッチベンドホイールの照光設定を変更する	67
メトロノームを使う	68
メトロノームをスタート／ストップする	68
メトロノームの設定を変更する (テンポ・拍子・パターンなどを変える)	68
アルペジオを自動的に鳴らす (アルペジエーター)	71
アルペジエーターのオン / オフを切り替える	71
アルペジエーターのパターンや各種設定を変更する	71
演奏に使う設定を登録する・呼び出す (レジストレーション)	73
レジストレーションに登録する	74
レジストレーションのバンク名を変更する	75
レジストレーションを呼び出す	76
フリーズ機能について	77
ペダルまたは EX ボタンを使ってレジストレーションを呼び出す (シーケンシャルリコール)	78
レジストレーションに登録される設定項目	80
外部機器への保存について	81
F ボタンセットを活用する	82
プリセットの F ボタンセット一覧	82
F ボタンセットを編集する	83
F ボタンに機能を割り当てる (ユーザー F ボタンセットの作成)	83
F ボタンセットの名前を変更する	88
F ボタンセットを消去する	90
F ボタン機能一覧	91
曲を聴く (SONG モード)	94
再生できるデータの種類	94
MIDI データやオーディオデータを再生する	95
MIDI データ関連の各種操作	97
MIDI データの再生中にメトロノームを鳴らす	97
MIDI データの再生音量を調節する (ミキサー設定)	97
ユーザー曲を消去する	97
オーディオデータ関連の各種操作	98
オーディオデータのセンターキャンセル (ボーカルカット)	98
オーディオデータの再生音量や再生時のエフェクトのかかり方を調節する (ミキサー設定)	98

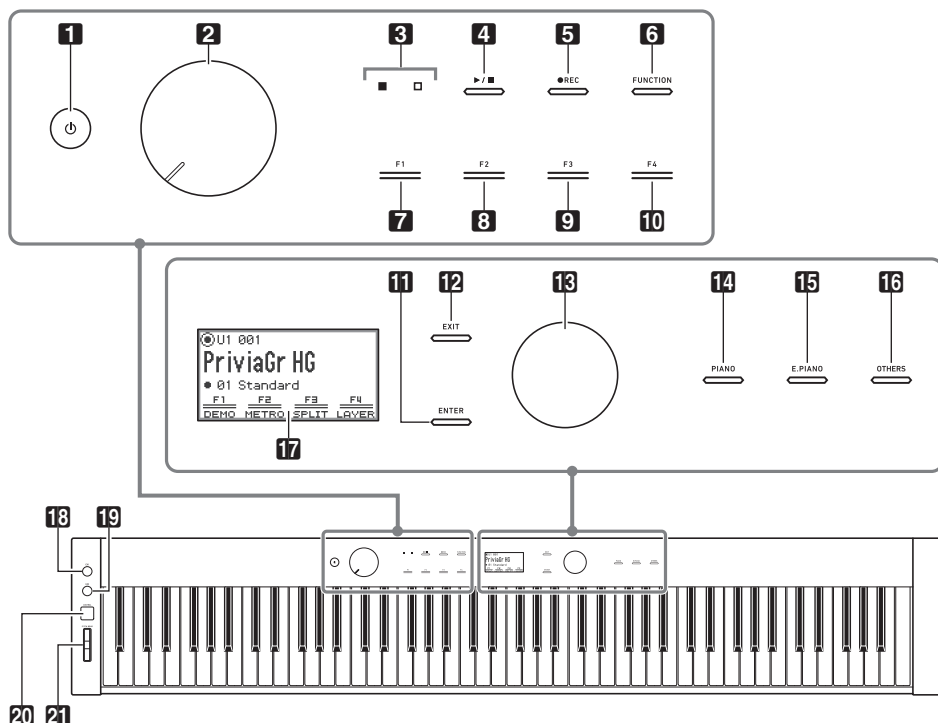
演奏を録音する	99
MIDI レコーダーとオーディオレコーダーの特長	99
MIDI レコーダーで演奏を録音する	101
MIDI レコーダーで録音する	101
2 つめのトラックに重ねて録音する (システムトラック+ソロトラック)	104
MIDI レコーダー曲を再生する	105
MIDI レコーダー曲を消去する (曲全体 / トラック別)	106
MIDI レコーダー曲に記録される内容について	107
オーディオレコーダーで演奏を録音する	109
オーディオレコーダーで録音する	109
オーディオレコーダー曲を再生する	111
オーディオレコーダー曲を消去する	112
鍵盤の感度を調節する	113
鍵盤を押す強弱で音量を変える (タッチレスポンス)	113
タッチレスポンスの感度を変更する	113
押鍵から音が鳴るまでのタイミングを調節する (ハンマーレスポンス)	114
ハンマーレスポンスを調節する	114
離鍵中の消音タイミングを調節する (キーオフレスポンス)	115
キーオフレスポンスを調節する	115
音の高さを調節する	116
半音単位で変更する (トランスポーズ)	116
トランスポーズする	116
音の高さを微調整する (マスターチューニング)	116
各パート (Upper 1/Upper 2/Lower) を個別にチューニングする (パートファインチューン)	117
音の高さをオクターブ単位で変更する (オクターブシフト)	118
各パート (Upper 1/Upper 2/Lower) を個別にオクターブシフトする	118
鍵盤の音律を変える (スケールチューニング)	119
音律を変える	119
ストレッチチューニングのオン / オフを切り替える	120
鍵盤を左右に分けて 2 人で弾く (デュエット)	121
デュエット機能を使う	121
デュエット機能の設定を変更する	123
USB メモリーを使用する	124
USB メモリーの準備	124
使用可能な USB メモリー	124
本機で扱えるデータの種類	125
USB メモリーを本機に装着する・取り外す	127
USB メモリーをフォーマットする	128
本機で再生するための MIDI ファイルやオーディオファイルを USB メモリーに保存する	129
本機データを USB メモリーに保存する	129
USB メモリーのファイルを本機に読み込む	131
USB メモリーのファイルを消去する	132
USB メモリーのファイルの名前を変える	133

MIDI 設定を変更する	134
ワイヤレス接続する	135
ワイヤレス (Bluetooth) 接続の設定	135
ワイヤレス接続状態を確認する	135
ワイヤレス機能のオン / オフを切り替える	135
ワイヤレス接続時・切断時の通知音について	136
Bluetooth Low Energy MIDI 接続する	137
Bluetooth オーディオ接続する	138
オーディオペアリングする	138
ペアリング登録を消去する	139
専用アプリを使う	140
スマートデバイス用アプリ (CASIO MUSIC SPACE) について	140
外部機器と接続する	141
スマートデバイスの音を鳴らす (Bluetooth オーディオ接続)	141
スマートデバイスなど Bluetooth オーディオ対応デバイスの音を本機で鳴らす	141
Bluetooth オーディオの再生音量や再生時のエフェクトのかかり方を調節する (ミキサー設定)	141
Bluetooth オーディオのセンターキャンセル (ボーカルカット) について	142
パソコンやスマートデバイスと接続して MIDI を使う	143
パソコンと USB MIDI 接続する	143
スマートデバイスと USB MIDI 接続する	145
本機の音をアンプやオーディオ機器に出力する (LINE OUT 端子)	147
オーディオ機器と接続する場合	147
楽器用アンプと接続する場合	147
本機に記録されているデータをまとめて消去する	148
困ったときは	149
エラー表示一覧	151
資料	153
製品仕様	153
ご使用上の注意	156
FUNCTION メニュー項目一覧	159
マイクエフェクター一覧	167
マイクエフェクトのタイプ一覧	167
マイクエフェクトのモジュール内エフェクター一覧	168
モジュール内のエフェクト別パラメーター一覧	169
アルペジエーター一覧	174
MIDI インプリメンテーション・チャート	

本機の概要と使用前の準備

各部の名称

■フロントパネル



1 ㊤ (電源) ボタン

2 音量つまみ

3 LED (赤・白)

4 ▶/■ ボタン
演奏/停止

5 ●REC ボタン
録音

6 FUNCTION ボタン
ファンクション

7 F1 ボタン
エフ1

8 F2 ボタン
エフ2

9 F3 ボタン
エフ3

10 F4 ボタン
エフ4

入る
11 ENTER ボタン

戻る
12 EXIT ボタン

13 タッチリング
ピアノ

14 PIANO ボタン
エレクトリックピアノ

15 E. PIANO ボタン
アザーズ

16 OTHERS ボタン

17 液晶画面

イーエックス1
18 EX1 ボタン

イーエックス2
19 EX2 ボタン

コントロール
20 CONTROL ボタン

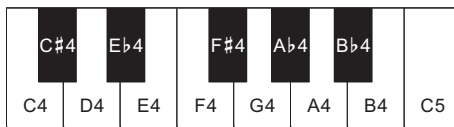
ピッチベンド
21 PITCH BEND ホイール

タッチボタンとタッチリングについて

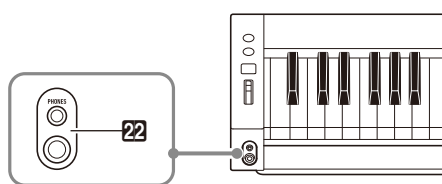
フロントパネル上のタッチボタン(4～12、14～16)とタッチリング(13)は、電源を入れると点灯します。上記のイラストは、すべてのボタンが点灯した状態を示しています。実際には、その時々で利用可能なボタンだけが、点灯(または点滅)します。

鍵盤の音名と音高について

本書では鍵盤の音名と音高を国際式(中央ド＝「C4」)で表記しており、一番低いドの鍵盤を「C1」、一番高いドの鍵盤を「C8」と呼びます。各鍵盤の音名表記は下記のとおりです(図はC4からC5までの例です)。



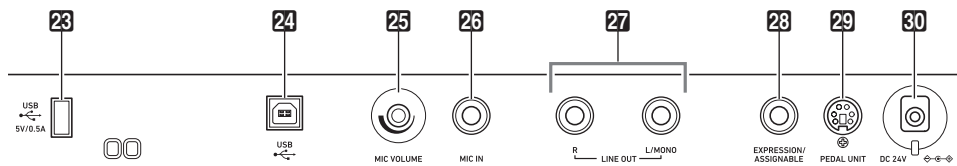
■前面端子部



22 PHONES端子

(上:ステレオミニフォンジャック(ミニTRSフォン)、
下:ステレオ標準フォンジャック(TRSフォン))

■背面端子部



23 USB Type A端子

24 USB Type B端子

25 マイク音量つまみ

26 MIC IN端子

27 LINE OUT R、L/MONO 端子

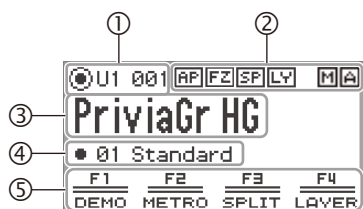
28 EXPRESSION/ASSIGNABLE端子

29 PEDAL UNIT端子

30 電源端子 (DC 24V)

■液晶画面（トップ画面）

トップ画面は、本機の電源を入れたときに表示される画面です。

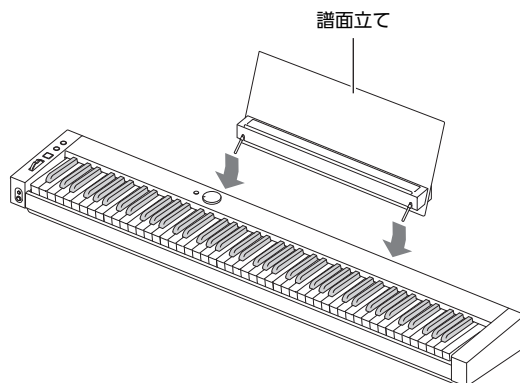


- ① パート名と音色番号
- ② インジケーター
- ③ 音色名
- ④ Fボタンセット名
- ⑤ Fボタンメニュー

反転液晶について

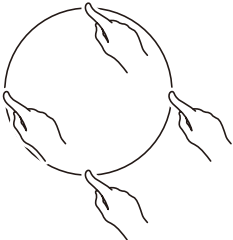
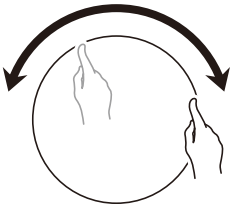
本機の液晶画面は黒地に白で表示されますが、本書では上のイラストのように白地に黒で示しています。

■譜面立ての準備



タッチ操作と本書での表記

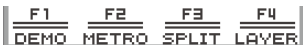
■タッチリングの操作と表記

この操作は	このように表記します
タッチリングの上端、下端、左端、右端にタッチして、すぐに離す 	リングの上、下、左、右にタッチします。 下記のようにも表記します： • リングを使って、値を変更します。 • リングを使って、“〇〇”を選びます。
タッチリングの円周上を、反時計回りまたは時計回りに指でなぞる  (設定を変えるコントローラーとして働きます。)	リングをなぞります。 下記のようにも表記します： • リングを使って、値を変更します。 • リングを使って、“〇〇”を選びます。

■タッチボタンの操作と表記

この操作は	このように表記します
EXIT ボタンにタッチして、すぐに離す	EXIT ボタンにタッチします。
EXIT ボタンを2秒ほど押さえ続けてから、離す	EXIT ボタンを長押しします。

■Fボタン(F1～F4)の操作と表記

この操作は	このように表記します
F1ボタンにタッチして、すぐに離す 液晶画面のFボタンメニュー表示： 	F1ボタン(DEMO)にタッチします。 下記のようにも表記します： • “DEMO”が割り当てられているFボタンにタッチします。

電源の準備

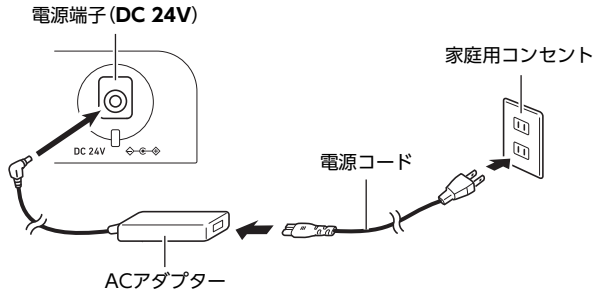
本機は電源として、ACアダプターまたは単3形電池（アルカリ乾電池または充電式ニッケル水素電池）をご使用いただけます。

ACアダプターを使う

本機付属のACアダプター（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）を使用してください。他のACアダプターを使用すると発煙や故障の原因になることがあります。

<本機付属のACアダプターの型式：AD-E24250LW>

ACアダプターの接続には、付属の電源コードをご使用ください。



本ACアダプターは、修理することができません。

本ACアダプターの使用環境：温度0～40℃

湿度10%～90%RH

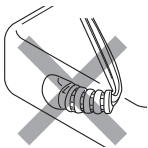
出力形式：⬡—C—⬡

重要

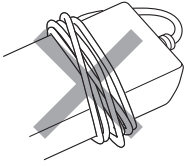
- 本機付属のACアダプターおよび電源コードは、他の機器には絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
- ACアダプター本体を抜き差しするときは、必ず電源を切ってから行ってください。
- ACアダプターは長時間使用すると、若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- 本機を長い間使用しないときには、ACアダプターをコンセントから外してください。

■断線防止のための注意点

- (1) コードを強く引っ張らない
- (2) コードを繰り返し引っ張らない
- (3) コードの根元部分を折り曲げない



- (4) コードをACアダプター本体に巻き付けない



- (5) 楽器本体を移動させるときは、必ずACアダプターを家庭用コンセントから外す

■使用する場所について

- ACアダプターは、下記の場所でご使用ください。
 - － 水滴のかからない場所
屋内専用なので、水滴のかかる場所に置いたり、水の入った花瓶などをACアダプターの上に乗せたりしないでください。
 - － 湿気のない場所
 - － 広々とした換気のよい場所
新聞紙、テーブルクロス、カーテンなどで覆わないでください。
 - － コンセントが本機の近くにある場所
不具合が生じたとき、コンセントから直に取り外せるようにしてください。
- ACアダプターは、ラベル貼り付け面が下向きになるように床に置いてご使用ください。逆向きに置くと電磁波が発生しやすくなる場合があります。

電池を使う

❗ 重要

- 電池を入れる前に、必ず本機の電源を切ってください。
- 電池は市販の単3形アルカリ乾電池または単3形eneloop（エネループ）をご使用ください。
- 電池が消耗すると、本機が正常に動作しなくなる場合があります。このような現象が発生したときは、新しい電池に交換する、または充電電池を充電してください。
- 電池を入れるために本機を裏返すときは、次のことにご注意ください。
 - － 本機の下に手を挟まないようご注意ください。けがの原因となります。
 - － 不用意に倒すなどして、本機に衝撃を与えないでください。音量つまみや鍵盤が破損する原因となります。
- 電池消耗状態のお知らせが表示されなくても、1年に一度は必ず電池交換をしてください。特に消耗した充電電池を本機に入れたままにすると、充電電池を劣化させる恐れがあるので、すぐに取り出してください。

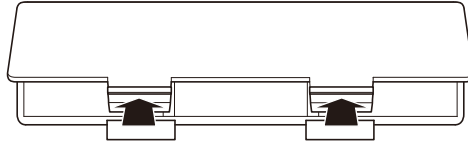
■充電電池について

充電電池を使用するときは、次のことに注意してください。

- 充電電池は、パナソニックグループ製の単3形eneloop（エネループ）をご使用ください。これ以外の充電電池は使用しないでください。
- 充電電池の充電は、必ず専用の充電器をご使用ください。
- 充電電池を製品本体にセットしたままでは充電できません。
- 消耗した充電電池を本機に入れたままにすると、充電電池を劣化させる恐れがあります。電池消耗状態のお知らせが表示されたときは、すぐに取り出してください。
- 充電電池および専用の充電器を使用する場合は、各製品に付属の取扱説明書や注意書きをお読みいただき、条件を守ってご使用ください。

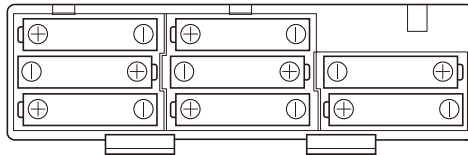
■電池を入れるには

1. 本機の裏側にある電池ケースのフタを開けます。



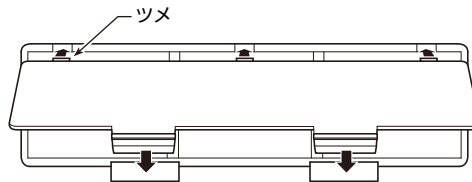
2. 市販の単3形電池8本を電池ケースに入れます。

- ⊕⊖の向きを間違えないように入れてください。



3. 電池ケースの穴にツメを差し込み、フタを閉じます。

- 電池の種類を設定してください。

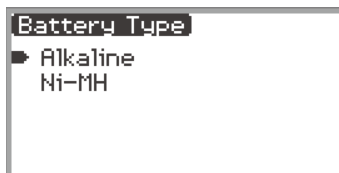


■電池の種類を設定するには

本機の電池ケースに入れた電池の種類に応じて、下記の操作で電池の種類を選びます。

1. **FUNCTION**ボタンにタッチします。
FUNCTIONメニューが表示されます。
2. リングの上、下にタッチして“SYSTEM”を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
3. リングの上、下にタッチして“Battery Type”を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
“Battery Type”画面が表示されます。

4. リングの上、下にタッチして、電池の種類を選びます。



Alkaline: アルカリ乾電池
Ni-MH: 充電式ニッケル水素電池

■電池消耗・交換時期のお知らせ表示

電池が消耗してくると、液晶画面にアイコンが表示されます。

電池消耗のお知らせ表示

電池消耗お知らせアイコン (点灯)



電池交換時期のお知らせ表示

電池交換お知らせアイコン (点滅)

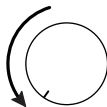


❗ 重要

- 本機は電池ケースのフタを閉じてから使用してください。けがの原因となります。
- 使用中に本機の裏面(電池ケースのフタ周辺)が熱くなることがありますが、故障ではありません。
- 電池が消耗したまま本機の使用を続けると、自動的に電源が切れることがあります。この場合、本機に記録しているデータが破損・消失する恐れがあります。

電源の入れ方、切り方

1. 電源を入れる前に、音量つまみを下図の位置まで回しておきます。



2. **⏻ (電源)** ボタンを押して、本機の電源を入れます。

電源が入ると液晶画面に“Welcome”と表示されます。

- トップ画面に切り替わったら、本機が使用できる状態になります。
- 内蔵メモリーの使用状況によって、本機が使用できる状態になるまでの時間が変わります。



トップ画面

- 電源を入れるときには、ピッチベンドホイールに触らないようにしてください。
- **⏻ (電源)** ボタンを押してからトップ画面に切り替わるまでは、ペダルを踏まないでください。
- **⏻ (電源)** ボタンを軽く押しても電源が入らない場合がありますが、故障ではありません。その場合は**⏻ (電源)** ボタンをしっかりと押し直してください。

3. 音量つまみを使って、音量を調節します。

4. 本機の電源を切るには、**⏻ (電源)** ボタンをしばらく押し続けます。

- リングの光が1周して消灯し、液晶画面に“Bye”と表示されたら、ボタンを離してください。



- 本機の初期状態では、ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを装着せずに電源を入れると、本機のトップ画面の右上に **[M] [A]** インジケーターがしばらく点滅してワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターが装着されていないことをお知らせします。
- **⏻ (電源)** ボタンで電源を切ったあとも、本機は微電流が流れているスタンバイ状態になっています。本機を長時間使用しないとき、あるいは落雷のおそれがあるときは、必ずACアダプターをコンセントから外してください。
- オートリジューム (15ページ) が“Off”のときは、本機の電源を切ると各種設定が初期化されますが、下記の設定は保持されます。

チューニング、LCDコントラスト、ペアリング情報 (Bluetooth接続履歴)、エクスプレッションペダルのタイプ、エクスプレッションペダルのキャリブレーション、タッチボタン感度、タッチリング感度、タッチリング操作音の音量、オートパワーオフ、ワイヤレス接続時・切断時の通知音の音量、電池の種類

オートレジューム機能

本機の電源を切ると、音色番号などの各種設定が初期化されます。FUNCTIONメニュー (29ページ) の“SYSTEM” > “Auto Resume”を“On”にしておくと、電源を切ってもほとんどの設定が保持されます。

オートパワーオフ機能

本機を何も操作せずに一定時間が経過すると、無駄な電力消費を防ぐため自動的に電源が切れます。電源が切れるまでの時間は、約4時間 (ACアダプター使用時) / 6分 (電池使用時) です。

オートパワーオフ機能を無効にする

コンサートなどで演奏の合間に電源が切れないよう、オートパワーオフ機能を無効にすることができます。



- 本機とワイヤレス接続しているスマートデバイスからの入力があるとき、オートパワーオフ機能は働きません。

1. **FUNCTION**ボタンにタッチします。
FUNCTIONメニューが表示されます。
2. リングの上、下にタッチして“SYSTEM”を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
3. リングの上、下にタッチして“Auto Power Off”を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
“Auto Power Off”画面が表示されます。
4. リングの上、下にタッチして、“Off”を選びます。



電源切り忘れお知らせ機能とイルミネーション演出

「電源切り忘れお知らせ機能」(Power On Alert)は、電源の入った本機を操作せずに約6分が過ぎたときに働く、本機の機能です。このときの動作の1つが「イルミネーション演出」です。電源切り忘れお知らせ機能は、本機をACアダプターで使用しているときだけ働きます。

電源切り忘れお知らせ機能の動作について

本機とBluetooth®接続したスマートデバイスからのオーディオ入力(138ページ)がある場合とない場合で、下記動作をします。

- オーディオ入力がある場合(イルミネーション演出あり):
本機フロントパネルのLEDが、曲に合わせて点灯・消灯するイルミネーション演出が実施されます。
- オーディオ入力がない場合(イルミネーション演出なし):
本機フロントパネルの液晶画面やLEDはすべて消灯し、ピッチベンドホイールだけが点灯します。ボタンにタッチしたり鍵盤を押したりするなど、何らかの操作をすると、通常の状態に復帰します。電源を切り忘れていた場合は、液晶画面に「Bye」と表示されるまで $\odot$ (電源)ボタンを押し続けて、本機の電源を切ってください。

メモ

- 本機をACアダプターで使用しているときは、電源の入った本機の $\odot$ (電源)ボタンを短く押すとすぐに、電源切り忘れお知らせ機能が働いたときと同じ状態になります。オーディオ入力がある場合は、イルミネーション演出が実施されます。なお本機を電池で使用しているときに $\odot$ (電源)ボタンを短く押した場合は、タッチボタンが順番に点灯と消灯を繰り返します(イルミネーション演出は実施されません)。
- FUNCTIONメニュー(29ページ)の“SYSTEM” > “Power On Alert”を“Off”にすると、電源切り忘れお知らせ機能は働きません。

フロントパネルの消灯について

トップ画面(電源をオンにした直後の画面)の表示中に、**EXIT**ボタンをリングの光が一周して消灯するまで長押しすると、**FUNCTION**ボタンを除くボタンとタッチリングが消灯します(パネル消灯状態)。フロントパネルの光がごくわずかになるため、鍵盤演奏に集中しやすくなり、省電力にもなります。このパネル消灯状態は、鍵盤演奏やペダル、ピッチベンドホイール、**EX**ボタン、**CONTROL**ボタンを操作しても、維持されます。**FUNCTION**ボタンにタッチするか、 $\odot$ (電源)ボタンを短く押すと、解除されます。

メモ

- 本機の電源として電池を使用しているときは、約1分間フロントパネル(タッチボタンやタッチリング)の操作をしないと、省電力のため自動的にパネル消灯状態になります。
- ACアダプターを使用しているときでも、一定時間ボタン操作をしなかったときに、省電力のため自動消灯させるように設定できます(初期設定では自動消灯しません)。FUNCTIONメニュー(29ページ)の“SYSTEM” > “Panel Light”を使って、消灯するまでの時間(5, 30, 60, 120秒のいずれか)を指定してください。
- 曲の再生中や録音中、スマートデバイスからのデータ転送中は、パネル消灯状態にはなりません。

液晶画面のコントラストを調整する

液晶画面のコントラストを調節するときは、FUNCTIONメニュー (29ページ) の“SYSTEM” > “LCD Contrast”を使います。

音量を調節する

本機全体の音量は、音量つまみを使って調節します。



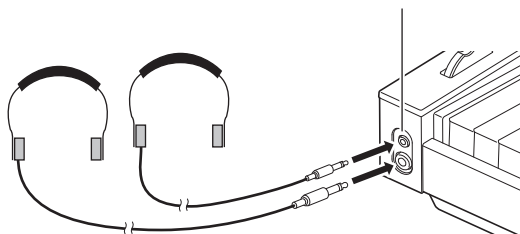
- ミキサー機能 (55ページ) を使うと、鍵盤演奏の音量や曲の再生音量、MIC IN端子からの入力音量などを、個別に調節することができます。

ヘッドホン(市販品)を使う

ヘッドホンを使用すると内蔵スピーカーから音が出なくなり、夜間でも周囲に気兼ねなく演奏が楽しめます。

- 本機の音量を絞ってから、ヘッドホンを接続してください。

PHONES端子
(上:ステレオミニフォンジャック(ミニTRSフォン) /
下:ステレオ標準フォンジャック(TRSフォン))



重要

- 大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害になる恐れがあります。
- ステレオミニフォンジャックにヘッドホンを接続する場合、必ずステレオミニフォンプラグ(ミニTRSフォン)をご使用ください。それ以外のタイプは適応しません。
- ヘッドホンのコードを本機から抜くときは、変換プラグだけを本機に残さないようにご注意ください。プラグが残っていると演奏しても音が出ません。
- 以下の条件に適合するヘッドホン(市販品)をご使用ください。
 - 最大入力:150mW以上
 - インピーダンス:32Ω以上
- 別売品CP-16の使用は推奨しません。

ヘッドホンの接続中にスピーカーから音を出す

FUNCTIONメニュー (29ページ) の“SYSTEM”> “Speaker Out”を“On”にすると、**PHONES**端子にプラグが差し込まれていても、スピーカーから音が出ようになります。

- 本項目の設定値と設定内容は、下表のとおりです。

設定値	設定内容
Off	PHONES 端子にプラグが挿入されていてもいなくても、スピーカーから音が出ません。
On	PHONES 端子にプラグが挿入されていてもいなくても、スピーカーから音が出ます。
Auto	PHONES 端子にプラグが挿入されているとき本機のスピーカーから音は出ず、挿入されていないとき音が出ます。

ヘッドホンモードについて

FUNCTIONメニュー (29ページ) の“SYSTEM” > “Headphone Mode”が“On” (初期値) のときは、ヘッドホンを使用しているときに自動的に音質を補正して、アコースティックピアノを弾いているとき耳に届く音の自然な広がり方を再現します。

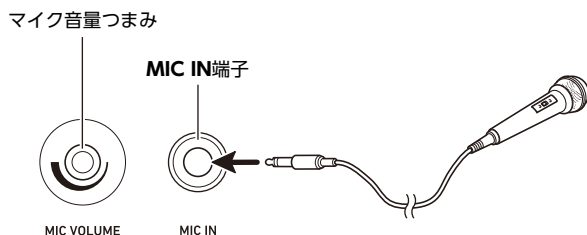


- Headphone Modeの設定は、**PHONES**端子にプラグが挿入されているときに有効となります。
- Headphone Modeの設定にかかわらず、**PHONES**端子からの出力音と**LINE OUT**端子からの出力音は同じです。

マイク (市販品) を使う

市販のダイナミックマイクを**MIC IN**端子に接続すると、マイクから入力した音声を本機から鳴らすことができます。

マイクからの入力音声の音量は、マイク音量つまみを使って、本機全体の音量とは独立して調節することができます。



- 接続する前に、本機とマイクの電源を切ってください。
- 接続する前に、本機の音量つまみとマイク音量つまみの両方を最小まで絞っておき、マイクを接続後、適切な音量に調節してください。

メモ

- マイクを接続する場合、必ず標準フォンプラグ(TSフォン)をご使用ください。それ以外のタイプは適応しません。
- マイクからの入力音声に対して、さまざまなエフェクトをかけることができます。詳しくは、[52ページ「マイクエフェクトを使う」](#)をご参照ください。
- ミキサー機能を使うと、マイク入力音声の音量や、ホールシミュレーター／リバーブへのセンド値を、独立して調節することが可能です。詳しくは、[55ページ「ミキサーを使う」](#)をご参照ください。

ボタン操作のロックについて(オペレーションロック)

オペレーションロックを有効(“On”または“Auto”)にすると、**⏻**(電源)ボタンとオペレーションロック解除操作以外のボタン操作が効かなくなり、演奏中の誤操作を防ぐことができます。

- FUNCTION**ボタンにタッチします。
FUNCTIONメニューが表示されます。
- リングの上、下にタッチして“SYSTEM”を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
- リングの上、下にタッチして“Operation Lock”を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
“Operation Lock”画面が表示されます。



- リングの上、下にタッチして、設定値を変更します。

設定値	設定内容
Off	オペレーションロックを無効にします。
On	FUNCTION ボタンを除くすべてのボタンが消灯し、 ⏻ (電源)ボタンと FUNCTION ボタンを除くボタンの操作が効かなくなります。
Auto	演奏している間、すべてのボタン操作が無効になります。演奏を止めると、約1秒後に通常の状態(“Operation Lock”が“Off”のときと同じ状態)に復帰します。

- EXIT**ボタンを長押しして、設定を終了します。
“On”を選んだ場合は、**FUNCTION**ボタンを除くすべてのボタンが消灯します。

スマートデバイス・パソコン・外部オーディオ機器との接続方法一覧

外部機器との接続は、行いたいことによって接続方法が異なります。下表の「行いたいこと」に応じて、「接続方法」の参照先をお読みください。



- 下表の「スマートデバイス」は、スマートフォン (iPhone, Android) またはタブレット (iPad, Android) です。
- 下表の「カシオの専用アプリ」については、[140ページ「スマートデバイス用アプリ \(CASIO MUSIC SPACE\) について」](#)をご参照ください。

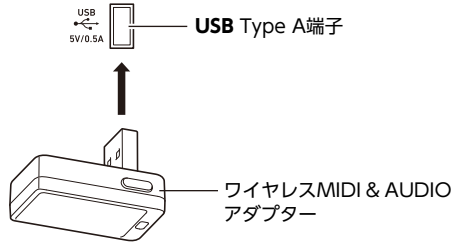
接続方法 行いたいこと	ワイヤレスで接続※1		ケーブルで接続	
	Bluetooth オーディオ	Bluetooth Low Energy MIDI	USBケーブル	オーディオ ケーブル
スマートデバイスで、カシオの専用アプリを使いたい	140ページ「専用アプリを使う」			—
スマートデバイスの出力音を、Bluetoothオーディオを使って本機から鳴らしたい	141ページ「スマートデバイスの音を鳴らす (Bluetoothオーディオ接続)」	—	—	—
パソコンやスマートデバイスを本機と接続して、MIDIを使いたい	—	※2	143ページ「パソコンやスマートデバイスと接続してMIDIを使う」	—
外部のスピーカーやオーディオ機器から本機の音を出したい	—	—	—	147ページ「本機の音をアンプやオーディオ機器に出力する (LINE OUT 端子)」

※1 付属のワイヤレスMIDI & AUDIOアダプター使用。

※2 カシオの専用アプリ以外での使用は、動作保証外となります。

付属のワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを使う

本機とBluetooth®無線技術に対応した外部機器をペアリングするには、ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを**USB Type A**端子に接続してください。



❗ 重要

- ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを取り外すときは、本機の電源を切ってください。

本機を工場出荷時の状態に戻す

本機のデータや設定などシステムの内容をすべて初期化して、工場から出荷したときの状態に戻すことができます。詳しくは[148ページ「本機のすべての設定やデータを工場出荷時の状態に戻すには\(ファクトリーリセット\)」](#)をご参照ください。

共通の操作

❗ 重要

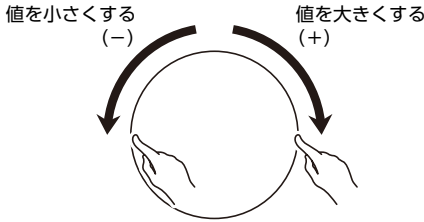
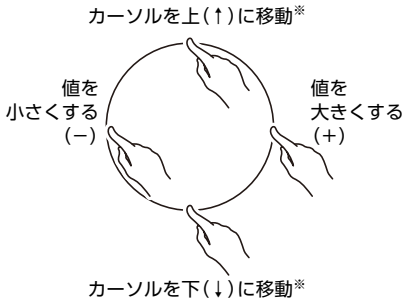
- 本書中の操作手順は、特に断りがなければ、本機の電源を入れた直後の状態から操作を開始することが前提となっています。操作がうまくいかないと感じたときは、いったん本機の電源を切り、電源を入れ直すことをおすすめします。
- 何らかの操作の途中で本機の電源を切ると、未保存のデータは消失します。

タッチボタンとタッチリングについて

本機の電源を入れると、タッチボタンとタッチリングが点灯します。

タッチリングの基本操作

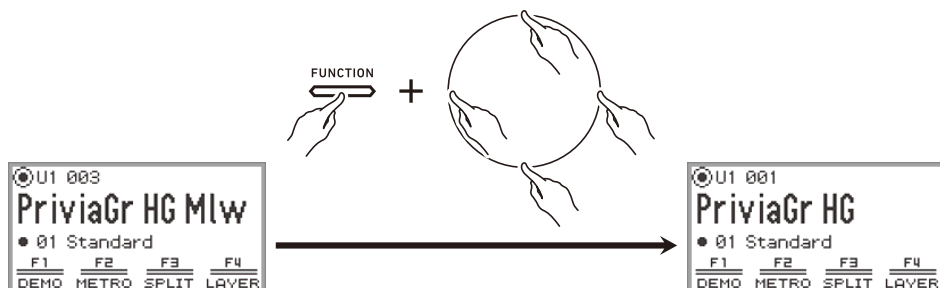
タッチリングは、項目間でのカーソル移動や、値を変更するときに使います。

• リングをなぞると、画面上で現在選択されている項目の値を、連続的に変更できます。	• リングの左、右にタッチすると、値を1つずつ変更できます。上、下にタッチすると、項目間でカーソルが移動します※。
 値を小さくする (-) 値を大きくする (+)	 カーソルを上(↑)に移動※ 値を小さくする (-) 値を大きくする (+) カーソルを下(↓)に移動※
リングを時計回り (+) になぞって最大値まで変更したり、反時計回り (-) になぞって最小値まで変更したりすると、そこでストップします。	最小値のときに左 (-) にタッチすると、最大値になります。また、最大値のときに右 (+) にタッチすると、最小値になります。

※クローズアップ画面 (25ページ) や値一覧画面 (26ページ) の表示中は、上、下にタッチしても値が変更されません。

メモ

- タッチリングを使った具体的な操作例は、[24ページ「液晶画面表示と基本操作」](#)をご参照ください。
- 画面上で現在選択されている項目の値を初期値に戻すには、**FUNCTION**ボタンにタッチしたままリングの上、下、左、右のいずれかにタッチします。



タッチボタンとタッチリングの感度設定

FUNCTIONメニュー ([29ページ](#)) の“SYSTEM” > “Touch Btn Sense”を使って、タッチボタンの感度を調節することができます。また、“SYSTEM” > “Touch Ring Sense”を使って、タッチリングの感度を調節することができます。

■感度を低めに設定して操作がしづらくなったときは

FUNCTIONメニューを使ってタッチボタンやタッチリングの感度を低めに設定したあとで、操作がしづらくなったり操作できなくなったりしたときは、下記の手順でタッチボタンとタッチリングの感度を通常よりも高めに設定することができます。

1. 本機の電源を切ります。
2. C8鍵盤 (右端の鍵盤) を押しながら、**⏻** (電源) ボタンを押します。
 - C8鍵盤は、液晶画面に“Welcome”と表示されるまで、離さないでください。**⏻** (電源) ボタンは離して構いません。

タッチリング操作音の音量設定

FUNCTIONメニュー ([29ページ](#)) の“SYSTEM” > “Op. Click Volume”を使って、タッチリングを操作したときに鳴るクリック音の音量を調節することができます。

液晶画面表示と基本操作

操作項目を選ぶ

本機の液晶画面に表示されているドット(●)は、リングや**ENTER**ボタンで操作できる項目です。

- ー ドットにカーソルがある(●)とき、リングをなぞることで、その項目の値を変更できます。
- ー ドットにカーソルがある(●)とき、**ENTER**ボタンにタッチすることで、その項目に対応する一覧画面(カテゴリー一覧画面または値一覧画面)が表示されます*。
- ー カーソル(○)は、リングの上下にタッチして移動できます。

※**ENTER**ボタンにタッチした場合の操作については後述します。



操作対象の項目を選んで、リングを使って値を変更してみましょう。下記の操作をお試ください。

1. 本機の電源を入れます。

トップ画面が表示されます。



2. リングの上、下にタッチします。

タッチするたびに、ドットの間でカーソル(○)が移動します。



3. 値を変更したい項目にカーソル(○)を移動します。
例えば「パート名と音色番号」に、カーソル(○)を移動します。



4. リングをなぞるか、リングの左、右にタッチします。
カーソル位置の値(この例では音色番号)が変わります。



- リングをなぞるかリングの左、右にタッチする代わりに、**ENTER**ボタンにタッチすると表示される値一覧を使うこともできます。操作については、下記をご参照ください。

[26ページ「設定項目の階層を移動する」](#)

[27ページ「Fボタンメニューを使う」](#)

[29ページ「FUNCTIONメニューを使う」](#)

■値の拡大表示について

FUNCTIONメニュー(29ページ)の“SYSTEM” > “Close-up” の設定を“Off”(初期値)から“On”に変更すると、リングをなぞることで値を変更する際に、値を拡大表示する「クローズアップ画面」に切り替わります。例えば上記手順4では、下記のような画面が表示されます。



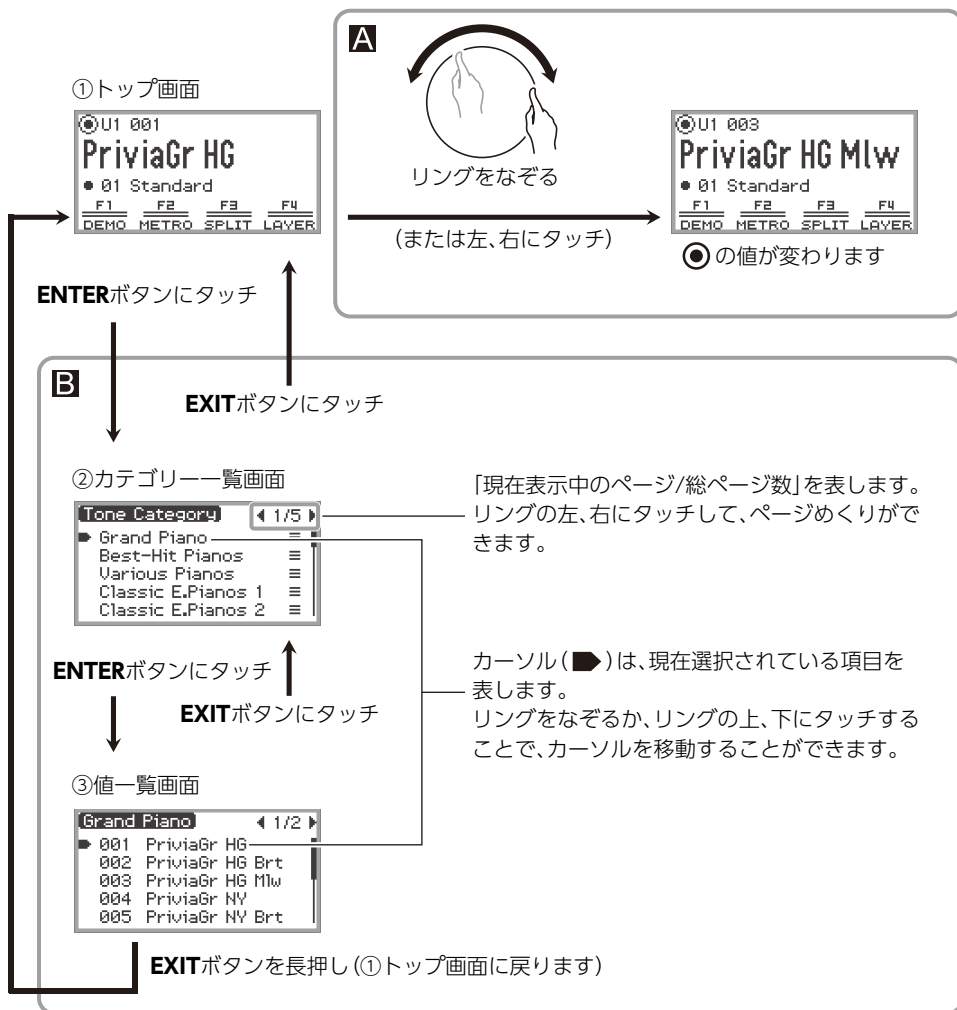
- クローズアップ画面の表示中は、リングの左、右だけでなく、上、下にタッチして値を変更することもできます。
- リングから指を離すと、約5秒後に元の画面に戻ります。
- すぐに元の画面に戻るには、**EXIT**ボタンにタッチします。

設定項目の階層を移動する

音色や機能、特定の設定などをたくさんの選択肢から選ぶときには、設定項目の一覧画面を使います。下記は、設定項目の階層間で移動したり、カテゴリや設定値などを選んだりする操作の流れを、模式的に示したものです。

- A** リングをなぞる、または左、右にタッチすると、カーソル(○)がある項目の設定値をダイレクトに選べます。
- B** ENTERボタンにタッチすると、カーソル(○)がある項目の選択肢の一覧画面になり、一覧を見ながらリングを使って設定値を選べます。

下記を見ながら、**ENTER**ボタン、**EXIT**ボタン、リング操作をお試しください。



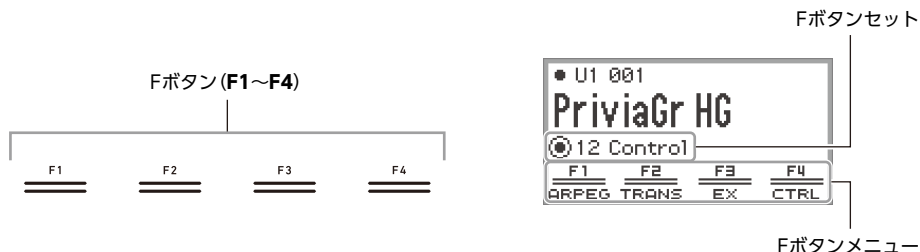
メモ

- **EXIT** ボタンを長押しすると、どの画面からでもトップ画面に戻ることができます。
- 本書中の各操作手順の説明では、操作の終わりに、**EXIT** ボタンを使って最初の画面に戻る手順は省略しています。

FボタンメニューとFUNCTIONメニュー

Fボタンメニューを使う

液晶画面の下部に表示されているFボタンメニューは、Fボタン(**F1**～**F4**)にタッチすると働く機能を表しています。



Fボタンメニューに表示される機能は、Fボタンセット (01～30) を変更することで、切り替わります。

■Fボタンセットを変更するには

1. トップ画面でリングの上、下にタッチして、Fボタンセットの行にカーソル(○)を移動します。
2. リングをなぞるか、リングの左、右にタッチします。
Fボタンセットが変更され、Fボタンメニューの内容が切り替わります。



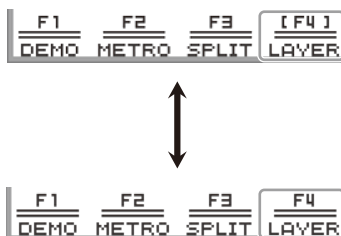
- 手順2で**ENTER**ボタンにタッチすると表示されるFボタンセットの一覧画面を使って、Fボタンセットを変更することもできます。



- 30個のFボタンセットには、プリセット14個(Fボタンの機能とセット名固定)と、ユーザーが機能とセット名を自由に割り当てることができるエリア(ユーザーFボタンセット)16個が含まれています。詳しくは、[82ページ\[Fボタンセットを活用する\]](#)をご参照ください。

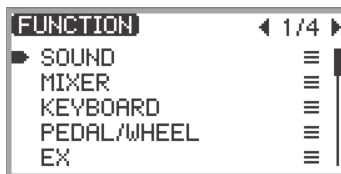
■Fボタンメニューの [] 囲みについて

ボタンをタッチするたびにオン/オフを切り替えるタイプの機能がFボタンに割り当てられている場合、機能がオンのときはそのFボタン名が [] 囲みで表示されます。オフのときは、[] が消えます。



FUNCTIONメニューを使う

FUNCTIONボタンにタッチすると、FUNCTIONメニューが表示されます。このメニューを使って、本機のほとんどの機能や設定にアクセスすることが可能です。



■FUNCTIONメニューの操作例

ここでは例として、“Hammer Response”（ハンマーレスポンス）の設定を変更する操作を説明します。

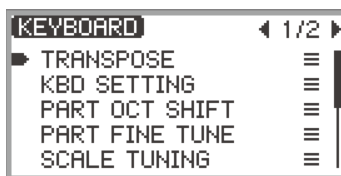
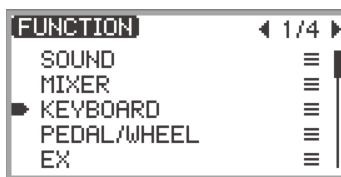
1. FUNCTIONボタンにタッチします。

FUNCTIONメニューが表示されます。

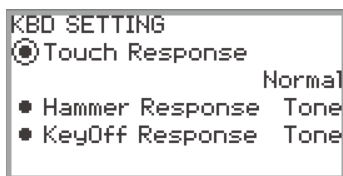
2. リングを使って、“KEYBOARD” > “KBD SETTING” > “Hammer Response”の順に選びます。

- 本書中では、メニュー操作を上記の要領で示しています。具体的な操作は、下記のとおりです。

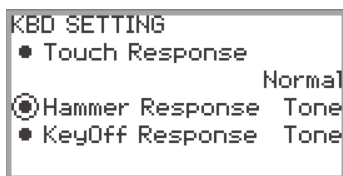
(1) リングをなぞって“KEYBOARD”にカーソル(▶)を移動し、**ENTER**ボタンにタッチします。



- (2) リングをなぞって“KBD SETTING”にカーソル(●)を移動し、**ENTER**ボタンにタッチします。

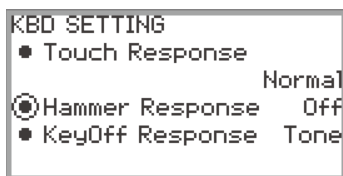


- (3) リングの上、下にタッチして“Hammer Response”にカーソル(○)を移動します。
(このとき、**ENTER**ボタンにタッチする必要はありません。)

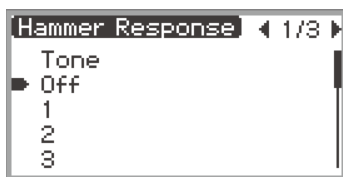


3. 値を変更します。

- リングをなぞるか、リングの左、右にタッチします。



- **ENTER**ボタンにタッチして値一覧画面を表示し、値を変更することもできます。



- **FUNCTION**ボタンにタッチしたままリングの上、下、左、右のいずれかにタッチすると、初期値に戻ります。



- FUNCTIONメニューでは、**EXIT**ボタンにタッチするたびに、現在表示中の1つ上の階層に移動します。どの階層を表示しているときでも、**EXIT**ボタンを長押しするとトップ画面に戻ります。
- FUNCTIONメニュー全項目については、[159ページ\[FUNCTIONメニュー項目一覧\]](#)をご参照ください。

文字を入力する

レジストレーションバンク (75ページ) やFボタンセット (88ページ) の名前を変更したり、USBメモリーに保存するデータに名前を付けたりする (129ページ) ときは、下記の操作で文字を入力・編集します。



- USBメモリー (124ページ) のファイル名の最大文字数は231です。
- 画面に表示できる最大文字数は8です。

■文字を変更するには

1. 文字の編集画面でリングの左、右にタッチして、変更したい文字にカーソルを移動します。



2. リングをなぞって、文字を変更します。

- **F3**ボタン (A/a) にタッチすると、カーソル位置の文字がアルファベットのときは、大文字と小文字の間で切り替わります。カーソル位置の文字が数字または記号のときは、Aに切り替わります。
- **F4**ボタン (123/#) にタッチすると、カーソル位置の文字が数字または記号のときは、数字と記号の間で切り替わります。カーソル位置の文字がアルファベットのときは、0に切り替わります。
- Fボタンセットやレジストレーションバンクの名前に使用可能な文字は、下表のとおりです。

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V
W	X	Y	Z	a	b	c	d	e	f	g
h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r
s	t	u	v	w	x	y	z	!	"	#
\$	%	&	'	(	)	*	+	,	-	.
/	:	;	<	>	=	?	@	[	]	\
^	_	`	{	}						

(表の最初のセルは空白)

- exFATでフォーマットされたUSBメモリーのファイル名に使用可能な文字は、下表のとおりです。

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V
W	X	Y	Z	a	b	c	d	e	f	g
h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r
s	t	u	v	w	x	y	z	!	#	\$
%	&	'	(	)	+	,	-	.	;	=
@	[	]	^	_	`	{	}	~		

(表の最初のセルは空白)

- FAT32でフォーマットされたUSBメモリーのファイルに使用可能な文字は、下表のとおりです。

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
U	V	W	X	Y	Z	\$	&	'	(
)	-	@	^	_	`	{	}	~	

3. 手順1、2の操作を、必要なだけ繰り返します。

■文字を挿入するには

1. 文字の編集画面でリングの左、右にタッチして、文字を挿入したい位置にカーソルを移動します。

- 文字列の末尾に文字を挿入(追加)したい場合は、一番右の文字にカーソルを移動して、さらにリングの右にタッチします。

2. F2ボタン(INS)にタッチします。

カーソル位置に“A”が挿入されます。

- この状態で、挿入された“A”を別の文字に変更できます。上記「文字を変更するには」の手順2以降を実行してください。

■文字を削除するには

1. 文字の編集画面でリングの左、右にタッチして、削除したい文字にカーソルを移動します。

2. F1ボタン(DEL)にタッチします。

■編集内容を保存するには

1. 文字の編集画面で**ENTER**ボタンにタッチします。

確認画面が表示されます。文字の編集画面に戻って編集を続けるには、ここでリングの左 (NO) にタッチします。



2. 編集内容を保存するには、リングの右 (YES) にタッチします。

“Complete”と表示され、編集画面に入る前の画面に戻ります。

■編集内容を破棄するには

1. 文字の編集画面で**EXIT**ボタンにタッチします。

確認画面が表示されます。文字の編集画面に戻って編集を続けるには、ここでリングの左 (NO) にタッチします。



2. 編集内容を破棄するには、リングの右 (YES) にタッチします。

編集操作を開始する前の画面に戻ります。

ピアノの音響設定とデモ演奏

設置場所に応じた音響設定を選ぶ(ピアノポジション)

本機を置く場所に応じた音響設定を選ぶことができます。

1. Fボタンセットの“04 Listening”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。



2. F3ボタン(PPOSI)にタッチします。
“PIANO POSITION”画面が表示されます。



3. リングをなぞって、本機の設置場所に合う設定を選びます。

設定値	設定内容
Standard	スタンドに設置する場合の標準的な設定
Wall	壁ざわに設置する場合を想定した設定
Center	部屋の中央付近に設置する場合を想定した設定
Table	テーブルに設置する場合の標準的な設定

実際の設置環境に応じて、お好みの音響設定を選択してください。

デモ演奏を聴く

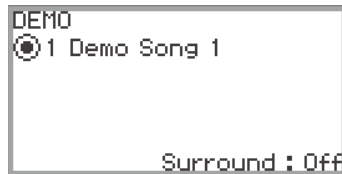
下記操作で、内蔵デモ曲を連続再生できます。

1. Fボタンセットの“01 Standard”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。



2. F1ボタン(DEMO)にタッチします。

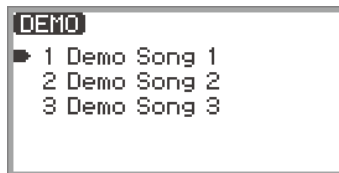
▶/■ボタンが点滅し、デモ演奏の開始待ち状態になります。



3. 曲を選びたいときは、リングをなぞります。

- 下記の操作で曲を選ぶこともできます。

(1) **ENTER**ボタンにタッチして、曲の一覧画面を表示します。



(2) リングをなぞるか、リングの上、下にタッチして、選びたい曲にカーソルを移動します。

(3) **EXIT**ボタンにタッチして、手順2の画面に戻ります。

- 曲を選ぶ操作は、デモ演奏中も可能です。

4. デモ演奏を開始するには、▶/■ボタンにタッチします。

- この後▶/■ボタンにタッチするたびに、デモ演奏が停止、または再開されます。

5. トップ画面に戻るには、EXITボタンにタッチします。



- オートパワーオフ機能 (15ページ) が有効なときは、デモ演奏中でも一定時間で電源が切れます。
- デモ演奏に合わせて鍵盤で演奏することができます。このとき鍵盤の音色は、再生されている曲のメロディー音色となります (音色を変更することはできません)。
- デモ演奏中は、**CONTROL**ボタン、**EX1**ボタンおよび**EX2**ボタンに、それぞれ下記の機能が割り当てられます (変更することはできません)。

CONTROLボタン: Modulation

EX1ボタン: Arpeg On/Off

EX2ボタン: Arpeg Hold

さまざまな音色で演奏する

音色を選ぶ

本機には、数多くの音色が用意されています。好きな音色を選んで弾いてみましょう。



- 音色のカテゴリーや音色名について詳しくは、別冊「内蔵音楽データ一覧」をご参照ください。

音色を番号順に選ぶ

1. トップ画面でリングの上、下にタッチして、パート名と音色番号にカーソル(○)を移動します。

パート名:U1 (Upper 1)



- パート名の表示が“U1”のときは、鍵盤を弾くと“Upper 1”というパートの音色が鳴ります。パートについて詳しくは、[40ページ「2つの音色を重ねる\(レイヤー\)」](#)および[42ページ「鍵盤を左右に分けて使う\(スプリット\)」](#)をご参照ください。

2. リングをなぞります。

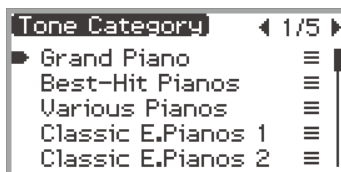
音色が番号順に切り替わります。



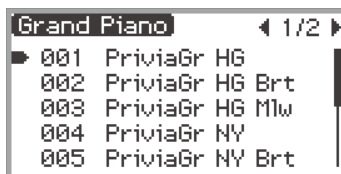
3. 希望する音色名が表示されたら、リングから指を離します。

音色をカテゴリーから選ぶ

1. トップ画面でリングの上、下にタッチして、パート名と音色番号にカーソル(○)を移動します。
2. **ENTER**ボタンにタッチします。
音色カテゴリー名の一覧が表示されます。



3. リングを使って音色カテゴリーを選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
音色名の一覧が表示されます。



4. リングを使って音色を選びます。
5. 希望する音色を選んだら、**EXIT**ボタンを長押しします。
トップ画面に戻ります。

音色ボタンを使って選ぶ



音色ボタンの1つにタッチするたびに、ボタンごとに決まった音色カテゴリーの先頭音色が順番に選ばれます。

音色をFボタンで選ぶ

1. Fボタンセットの“07 Piano Collect”または“08 E.PianoCollect”を選びます (28ページ[Fボタンセットを変更するには])。



2. 選びたい音色に応じて、**F1～F4**ボタンにタッチします。

- 下表の音色をワンタッチで選ぶことができます。

	07 Piano Collect	08 E.PianoCollect
F1 ボタン	001 Privia GRAND HG	049 SPACE BOY EP
F2 ボタン	004 Privia GRAND NY	044 JUST THE WAY EP
F3 ボタン	007 Privia GRAND BN	056 INDESTRUCTIBLE EP
F4 ボタン	011 CLOCK PIANO	059 WHERE IT IS EP



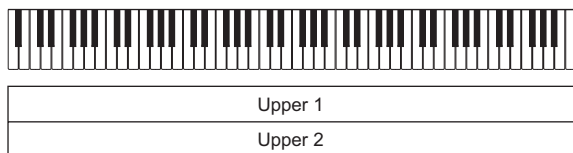
- 機能が未登録のFボタンセットを使って、各Fボタンに自分の好きな音色を割り当てることができます。詳しくは、[82ページ\[Fボタンセットを活用する\]](#)をご参照ください。

ギター音色とベース音色について

本機が内蔵しているギター音色とベース音色は、サウンド(音高や強弱)によってはストラムノイズやゴーストノートなどの効果音が含まれることがあります。別冊「内蔵音楽データ一覧」をご参照ください。

2つの音色を重ねる(レイヤー)

下図のように、“Upper 1”と“Upper 2”という2つのパートに異なる音色を割り当てることで、鍵盤演奏時に2つの音色を同時に鳴らすことができます。この機能を「レイヤー」と呼びます。レイヤーをオンにすると、Upper 1、Upper 2両方のパートの音が同時に鳴ります。

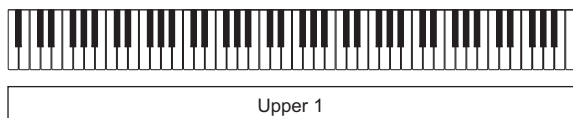


レイヤー:オン、スプリット:オフ※

※スプリットについては、[42ページ「鍵盤を左右に分けて使う\(スプリット\)」](#)をご参照ください。



- レイヤーとスプリットがどちらもオフのときに鍵盤を弾くと、Upper 1パートの音だけが鳴ります。



レイヤー:オフ、スプリット:オフ

レイヤーを使って2音色を重ねて鳴らす

- 37ページ「音色を選ぶ」の操作で、Upper 1音色を選びます。
- Fボタンセットの“01 Standard”を選びます(28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。



3. F4ボタン(LAYER)にタッチします。

レイヤーがオンに切り替わり、液晶画面に **[LY]** インジケーターが表示されます。

パート名:U2(Upper 2)

レイヤーがオンのとき表示されます



4. 37ページ「音色を選ぶ」の操作で、Upper 2音色を選びます。

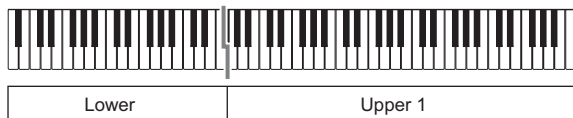
レイヤーをオフにする

1. Fボタンセットの“01 Standard”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
2. F4ボタン(LAYER)にタッチして、液晶画面の **[LY]** インジケーターを消します。

鍵盤を左右に分けて使う(スプリット)

下図のように、鍵盤の低音部に“Lower”というパートを割り当てることで、鍵盤の低音部と高音部でそれぞれ別の音を鳴らすことができます。この機能を「スプリット」と呼びます。スプリットをオンにすると、下記のことができます。

- 低音部ではLowerパートの音、高音部ではUpper 1パートの音を鳴らします(レイヤーがオフの場合※)。



- 低音部ではLowerパートの音、高音部ではUpper 1パートとUpper 2パートの音を鳴らします(レイヤーがオンの場合※)。



※レイヤーについては、[40ページ「2つの音色を重ねる\(レイヤー\)」](#)をご参照ください。

鍵盤の低音部と高音部で音色を変える

1. [37ページ「音色を選ぶ」](#)の操作で、高音部の音色(Upper 1音色)を選びます。
2. Fボタンセットの“01 Standard”を選びます([28ページ「Fボタンセットを変更するには」](#))。
3. **F3**ボタン(SPLIT)にタッチします。

スプリットがオンに切り替わり、液晶画面に**[SP]**インジケーターが表示されます。

パート名:L(Lower)

スプリットがオンのとき表示されます



4. 37ページ「音色を選ぶ」の操作で、低音部の音色 (Lower音色) を選びます。

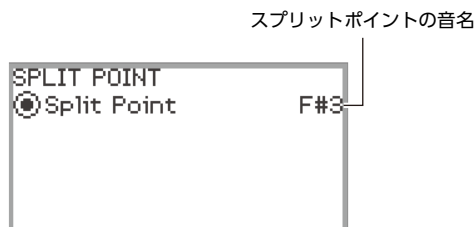


- スプリットとレイヤーを両方同時に使うには、40ページ「レイヤーを使って2音色を重ねて鳴らす」の操作に続いて、上記の操作の手順3～4を実行します。

スプリットポイントを変更する

初期値では、高音部の最低音 (スプリットポイントと呼びます) はF#3です。

1. Fボタンセットの“01 Standard”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
2. F3ボタン(SPLIT)を長押しします。
“SPLIT POINT”画面が表示されます。



3. スプリットポイント (高音部の最低音) にしたい鍵盤を押します。
スプリットポイントの音名が、押した鍵盤のものに変更されます。
 - リングをなぞったり、ENTERボタンにタッチして音名の一覧を表示したりして、スプリットポイントを変更することもできます。
4. EXITボタンにタッチして、設定を終了します。

スプリットをオフにする

1. Fボタンセットの“01 Standard”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
2. F3ボタン(SPLIT)にタッチして、液晶画面の[SP]インジケータを消します。

各パートの設定(音量、オクターブシフト、チューニングなど)を変更する

レイヤー (40ページ) を使ったときのUpper 1パートとUpper 2パート、スプリット (42ページ) を使ったときのLowerパート、それぞれのパートについて個別に、音量、オクターブシフト、チューニングなどの設定を変更することができます。詳しくは、下表の参照先をお読みください。

変更できる設定項目	参照先
各パートの音量、ステレオ定位、ホールシミュレーター／リバーブのかかり方、コーラスのかかり方	55ページ「ミキサーを使う」
各パートのオクターブシフト	118ページ「音の高さをオクターブ単位で変更する(オクターブシフト)」
各パートのチューニングの微調整	117ページ「各パート (Upper 1/Upper 2/Lower) を個別にチューニングする (パートファインチューン)」
各パートに対するペダル操作の有効/無効	61ページ「各パート (Upper 1/Upper 2/Lower) に対するペダル操作の有効/無効を切り替える」
各パートに対するピッチベンドホイール操作の有効/無効	67ページ「各パート (Upper 1/Upper 2/Lower) に対するピッチベンドホイール操作の有効/無効を切り替える」

音に効果をかける

サウンドモード(ホールシミュレーター／リバーブとサラウンド)を使う

本機の「サウンドモード」には、下記のエフェクトが含まれています。

・ホールシミュレーター／リバーブ

音の響きを変えるタイプのエフェクトです。

ホールシミュレーター	透明感のある端正な響きや、伸びやかで華やかな響きなど、世界的に有名なコンサートホールや建築物内の、それぞれに異なる音響特性をシミュレートします。
リバーブ	部屋の中、あるいはホール内といった、空間の残響を再現するタイプのエフェクトです。

・サラウンド

本機のスピーカーからの出力音にサラウンド効果(広がり効果)がかかります。



- サラウンドは、本機の**PHONES**端子および**LINE OUT R,L/MONO**端子からの出力音にはかかりません。

ホールシミュレーター／リバーブとサラウンドのオン/オフを切り替える

初期設定では、ホールシミュレーター／リバーブはオン、サラウンドはオフの状態になっています。下記の操作で、それぞれのオン/オフを切り替えることができます。

1. Fボタンセットの“04 Listening”を選びます(28ページ[Fボタンセットを変更するには])。
2. F2ボタン(SMODE)にタッチします。
“Sound Mode”画面が表示されます。



3. リングの上、下にタッチして、設定値を変更します。

設定値	設定内容
Off	両方ともオフにする。
Hall/Rev.	ホールシミュレーター／リバーブだけをオンにする。
Surround	サラウンドだけをオンにする。
Hall/Rev. + Srnd	両方ともオンにする。

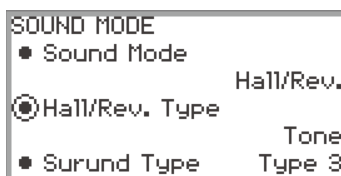
ホールシミュレーター／リバーブのタイプを選ぶ

ホールシミュレーター／リバーブのタイプを選ぶときは、あらかじめホールシミュレーター／リバーブをオンにしてください。操作については、[45ページ「ホールシミュレーター／リバーブとサラウンドのオン/オフを切り替える」](#)をご参照ください。



- 下記手順2の“SOUND MODE”画面は、“SMODE”が割り当てられているFボタンを長押しして表示することもできます。

- 1. FUNCTION**ボタンにタッチして、FUNCTIONメニューを表示します。
- リングを使って、“SOUND” > “SOUND MODE” > “Hall/Rev. Type”の順に選びます。



- リングをなぞって、希望する設定値に変更します。

設定値	設定内容
Tone	選択した音色に合ったタイプが自動的に設定されます。
Salon N.Y. Club Scoring Stage Opera Hall Viennese Hall L.A. Hall Berlin Hall BritishStadium	さまざまなタイプのホールシミュレーターです。例えば “N.Y. Club” はマンハッタンのミュージッククラブ、“Berlin Hall” はベルリンのアリーナ形式クラシックコンサートホールの音響をシミュレートします。
Room 1 Room 2 Room 3 Large Room	室内の残響感を与えるリバーブです。
Hall 1 Hall 2 Hall 3	小規模ホールの残響感を与えるリバーブです。
Stadium	スタジアムの残響感を与えるリバーブです。

ホールシミュレーター／リバーブのかかり方を調節する

ミキサーを使うことで、ホールシミュレーター／リバーブのかかり方を、パート (Upper 1/Upper 2/Lower) やマイク入力音などに対して個別に調節することができます。詳しくは、[55ページ「ミキサーを使う」](#)をご参照ください。

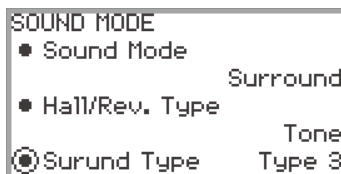
サラウンドのタイプを選ぶ

サラウンドのタイプを選ぶときは、あらかじめサラウンドをオンにしてください。操作については、[45ページ「ホールシミュレーター／リバーブとサラウンドのオン/オフを切り替える」](#)をご参照ください。



- 下記手順2の“SOUND MODE”画面は、“SMODE”が割り当てられているFボタンを長押しして表示することもできます。

1. **FUNCTION**ボタンにタッチして、FUNCTIONメニューを表示します。
2. リングを使って、“SOUND” > “SOUND MODE” > “Surund Type”の順に選びます。



3. リングをなぞって、希望する設定値に変更します。
 - Type 1 (効果小)、Type 2 (効果中)、Type 3 (効果大) の3つから選ぶことができます。選択されている音色や、再生するオーディオの特性によっては、効果が分かりにくい場合があります。

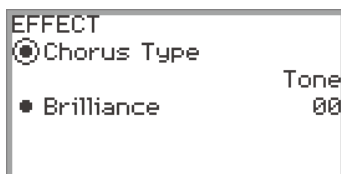
コーラス(コーラス、フランジャー、ショートディレイ)を使う

音を重ねて厚みを増すエフェクトが利用できます。

コーラストypeを変更する

本機は音色ごとに、あらかじめ決まったコーラスのタイプが設定されていますが、下記の操作で別のタイプを選ぶことができます。

1. Fボタンセットの“09 Favorite Piano”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
2. F2ボタン(EFFECT)にタッチします。
“EFFECT”画面が表示されます。
 - “Chorus Type”にカーソル(O)があるのをご確認ください。



3. “Chorus Type”の設定値を変更します。

設定値	設定内容
Tone	選択した音色に合ったコーラスのタイプが自動的に設定されます。
Chorus 1 ～ 4	音の厚みが異なるコーラス4タイプです。
FB Chorus	フィードバックのあるコーラスです。
Deep Chorus	音の厚みが最も深いコーラスです。
Flanger 1 ～ 4	音のうねりや揺らぎが異なるフランジャー 4タイプです。
Short Delay 1, 2	ショートディレイです。2つのタイプから選べます。

- リングをなぞって、希望する設定値に変更します。

コーラスのかかり方を調節する

ミキサーを使うことで、コーラスのかかり方を、パート(Upper 1/Upper 2/Lower)別に調節することができます。詳しくは、55ページ「ミキサーを使う」をご参照ください。

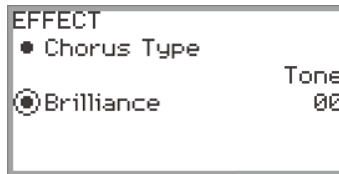
ブリリアンスを調節する

ブリリアンスは、音の明るさを調節するエフェクトです。



- ブリリアンスの効果は、本機から出力される音全体に対してかかります。

1. Fボタンセットの“09 Favorite Piano”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
2. F2ボタン(EFFECT)にタッチします。
“EFFECT”画面が表示されます。
3. リングの上、下にタッチして“Brilliance”を選びます。

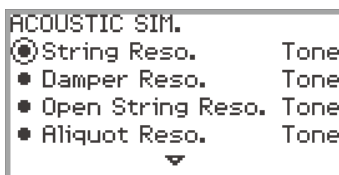


4. “Brilliance”の設定値を変更します。
 - リングをなぞって、希望する設定値に変更します。
 - -12～+12の間で調節できます。+1以上のときは音が明るい感じになり、-1以下のときは暗い感じになります。

アコースティックピアノの音の特徴を調整する (アコースティックシミュレーター)

本機のピアノ音色は、アコースティックピアノの響きを特徴付ける要素を内蔵しています。下記の操作で、音の特徴を調整することができます。

1. Fボタンセットの“09 Favorite Piano”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
2. F1ボタン(ACSIM)にタッチします。
“ACOUSTIC SIM.”画面が表示されます。



3. リングの上、下にタッチして、設定を変更したい項目を選びます。
 - 各設定項目について詳しくは、51ページ「アコースティックピアノ音の設定項目一覧」をご参照ください。
4. 選んだ項目の設定値を変更します。
 - 各項目の設定値は、次の範囲で変更できます。

設定値	設定内容
Tone	選択した音色に合った値が自動的に設定されます。
Off	効果をオフにします。
1 ~ 10	数値が大きくなるほど、効果が大きくなります。

- リングをなぞって、希望する設定値に変更します。

5. 手順3、4の操作を、必要なだけ繰り返します。

アコースティックピアノ音の設定項目一覧

設定項目	詳細
String Reso.	ストリングレゾナンス。アコースティックピアノを弾くと、弾いた鍵盤の倍音となる弦が共鳴します。この共鳴の具合を選ぶことができます。
Damper Reso.	ダンパーレゾナンス。アコースティックピアノでダンパーペダルを踏んだとき、88鍵盤の弦がすべて開放されるため、弾いた鍵盤の倍音となる弦がすべて共鳴します。その共鳴の具合を選ぶことができます。
Open String Reso.	オープンストリングレゾナンス。アコースティックピアノの高音域にはダンパーが無く、常に開放弦（オープンストリング）になっているため、特有の共鳴をします。この共鳴の具合を選ぶことができます。
Aliquot Reso.	アリコートレゾナンス。アリコートとは、アコースティックピアノに採用されることがある、中高音域の弦の一部を利用した共鳴部のことです。デュプレックススケール (Duplex Scale) と呼ぶ場合もあります。この共鳴の量を選ぶことができます。
Damper Noise	ダンパーノイズ。アコースティックピアノでダンパーペダルを踏むと、ダンパーがピアノ線から離れるときに小さく「シャーン」というノイズが出ます。このノイズの音量を選ぶことができます。
Key On Noise	キーオンアクションノイズ。アコースティックピアノで大変弱く鍵盤を弾くと、ハンマーが弦に届かずにピアノの機構的な動作音（ノイズ）だけが聴こえます。このノイズの音量を選ぶことができます。
Key Off Noise	キーオフアクションノイズ。アコースティックピアノの鍵盤から指を離したとき、ピアノの機構的な動作音（ノイズ）が発生します。このノイズの音量を選ぶことができます。

マイクエフェクトを使う

本機の**MIC IN**端子に接続したマイクからの入力音声に対して、さまざまなエフェクトをかけることができます。プリセットされている25種類から選べるほか、エフェクトの設定をお好みで変更することも可能です。



- 本機の**MIC IN**端子から入力された音声の音量、ステレオ定位、ホールシミュレーター／リバーブのかけ方を調節することができます。詳しくは、[55ページ「ミキサーを使う」](#)をご参照ください。

マイクエフェクトのオン/オフを切り替える

1. Fボタンセットの“05 Song Play”を選びます ([28ページ「Fボタンセットを変更するには」](#))。
2. **F4**ボタン (MICFX) にタッチします。
マイクエフェクトがオンに切り替わり、FボタンメニューのF4が [] 囲みで表示されます。

マイクエフェクトがオンのとき表示されます



3. マイクエフェクトをオフにするには、**F4**ボタン (MICFX) にタッチして、F4の [] 囲みを消します。

マイクエフェクトのタイプを選ぶ

1. Fボタンセットの“05 Song Play”を選びます ([28ページ「Fボタンセットを変更するには」](#))。
2. **F4**ボタン (MICFX) を長押しします。
“MIC FX”画面が表示されます。



3. ENTERボタンにタッチして、“MIC FX TYPE”画面を表示します。



4. リングをなぞって、マイクエフェクトのタイプを選びます。

- 25種類のタイプから選ぶことができます。詳しくは、[167ページ「マイクエフェクトのタイプ一覧」](#)をご参照ください。

マイクエフェクトの設定を変更する

マイクエフェクトは、下図のように3つのモジュール (M1～M3) でできています。



- 各モジュールに、それぞれ異なるエフェクト (イコライザーやディレイ、リミッターなど) が入っています。
- マイクエフェクトのタイプごとに、各モジュールに入っているエフェクトは決まっています。詳しくは、[167ページ「マイクエフェクトのタイプ一覧」](#)をご参照ください。

マイクエフェクトの設定を変更するときは、モジュールごとに、中身のエフェクトのパラメーターを調整していきます。

重要

- 下記の操作で変更した設定は、本機の電源を切ると消去されます。変更後の設定を保存したい場合は、レジストレーション機能 ([73ページ](#)) を使って登録してください。

1. Fボタンセットの“05 Song Play”を選びます ([28ページ「Fボタンセットを変更するには」](#))。

2. F4ボタン (MICFX) を長押しします。

“MIC FX”画面が表示されます。



3. ENTERボタンにタッチして、“MIC FX TYPE”画面を表示します。

4. リングをなぞって、設定を変更したいマイクエフェクトのタイプを選びます。

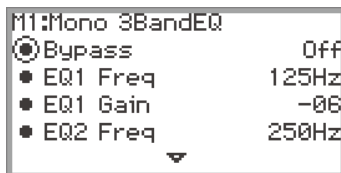
- 選んだら、EXITボタンにタッチして、“MIC FX”画面に戻ります。

5. “FX ON/OFF:OFF”と表示されている場合は、下記の操作でONに切り替えます。

- (1) リングを使って“FX ON/OFF:OFF”を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
- (2) リングを使って設定値を“On”にします。
- (3) **EXIT**ボタンにタッチして、“MIC FX”画面に戻ります。

6. リングを使って“M1”～“M3”の中から設定を変更したいモジュールを選び、**ENTER**ボタンにタッチします。

選んだモジュールに入っているエフェクトの、パラメーター一覧が表示されます。



- “Bypass”は、すべてのモジュールに共通するパラメーターです。表示中のモジュールに入っているエフェクトを使わないときは“On”にします。

7. 各パラメーターの設定を変更します。

- (1) リングの上、下にタッチして、設定を変更したいパラメーターを選びます。
- (2) リングを使って、選んだパラメーターの設定値を変更します。
パラメーターと設定値は[169ページ「モジュール内のエフェクト別パラメーター一覧」](#)をご参照ください。
- (3) 手順 (1)、(2)を必要だけ繰り返します。
- (4) **EXIT**ボタンにタッチして、“MIC FX”画面に戻ります。

8. 必要に応じて、他のモジュールについても手順6～7と同様に操作します。

9. 必要な設定がすべて済んだら、**EXIT**ボタンを長押しして、トップ画面に戻ります。

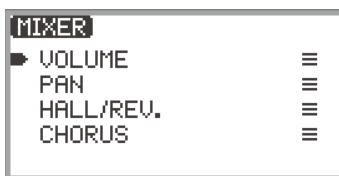
10. 変更後の設定を保存したい場合は、[74ページ「レジストレーションに登録する」](#)の操作でレジストレーションに登録します。

ミキサーを使う

ミキサーを使うと、それぞれのパート(Upper 1/Upper 2/Lower)やマイク入力音などに対して、音量、ステレオ定位、エフェクトのかかり方を個別に調節することができます。

各パートの音量・ステレオ定位・エフェクトのかかり方を調節する

1. Fボタンセットの“04 Listening”を選びます(28ページ[Fボタンセットを変更するには])。
2. **F4**ボタン(MIXER)にタッチします。
“MIXER”画面が表示されます。この画面には、4つのカテゴリーが含まれています。



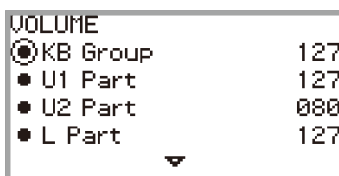
VOLUME: 音量を調節

PAN: ステレオ定位(パン)を調節

HALL/REV.: ホールシミュレーター/リバーブのかかり方を調節

CHORUS: コーラスのかかり方を調節

3. リングを使って調節したいカテゴリーを選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
 - 例えば“VOLUME”を選んで**ENTER**ボタンにタッチすると、下記の画面が表示されます。



4. リングの上、下にタッチして、設定を変更したい項目を選びます。
5. 選んだ項目の設定値を変更します。
 - リングをなぞって、希望する設定値に変更します。
 - 設定項目と設定値について詳しくは、56ページ[ミキサー設定項目一覧]をご参照ください。
6. 設定が済んだら**EXIT**ボタンにタッチして、“MIXER”画面まで戻ります。
7. 手順3～6の操作を、必要なだけ繰り返します。

ミキサー設定項目一覧

カテゴリー	設定項目	設定内容	設定範囲
VOLUME	KB Group	Upper 1、Upper 2、Lower各パートの音量バランスを保ったまま、それら全体の音量を調節します。	000 ～ 127
	U1 Part U2 Part L Part	鍵盤演奏音のUpper 1、Upper 2、Lower各パートの音量を調節します。	
	Audio Song	SONGモード (94ページ) で再生するオーディオデータの音量を調節します。	
	Wireless Audio	ワイヤレス接続した外部機器からの入力音声の音量を調節します。	
	Mic In	MIC IN 端子からの入力音声の音量を調節します。	
	MIDI Song	SONGモード (94ページ) で再生するMIDIデータの音量を調節します。	
PAN	U1 Part U2 Part L Part	Upper 1、Upper 2、Lower各パートのステレオ定位を調節します。	-64 ～ 00 ～ +63 -64：最も左 00：中央 +63：最も右
	Mic In	MIC IN 端子からの入力音声のステレオ定位を調節します。	
HALL/REV.	Hall/Rev. Return	下記の設定項目 (U1 Part Send ～ Mic In Send) のおののちに現在設定されているホールシミュレーター／リバーブの深さ (センド値) のバランスを保ったまま、全体の深さ (リターン値) を調節します。	000 ～ 127
	U1 Part Send U2 Part Send L Part Send	Upper 1、Upper 2、Lower各パートの、ホールシミュレーター／リバーブへのセンド値を調節します。	
	AudioSongSend	SONGモード (94ページ) で再生するオーディオデータの、ホールシミュレーター／リバーブへのセンド値を調節します。	
	Wireless A Send	ワイヤレス接続した外部機器からの入力音声の、ホールシミュレーター／リバーブへのセンド値を調節します。	
	Mic In Send	MIC IN 端子からの入力音声の、ホールシミュレーター／リバーブへのセンド値を調節します。	
CHORUS	U1 Part Send U2 Part Send L Part Send	Upper 1、Upper 2、Lower各パートの、コーラスへのセンド値を調節します。	000 ～ 127

演奏しながら音の鳴らし方を変える

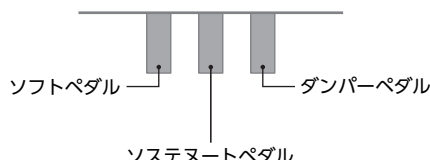
ペダルを使う

本機は2つのペダル接続用端子を備えています。両方の端子にペダルを接続して、同時に利用することもできます。

端子	接続可能なペダル
PEDAL UNIT	付属または別売のペダルユニット (ダンパー、ソフト、ソステヌートの3本ペダルです)
EXPRESSION/ASSIGNABLE	市販のエクスプレッションペダル、または別売のサステインペダル

PEDAL UNIT端子

この端子には、付属のペダルユニット、または別売のペダルユニットを接続します。よりグランドピアノに近い、表現力豊かなペダル演奏が楽しめます。



ダンパーペダル

演奏中にこのペダルを踏むと、鍵盤を離してもその音の余韻が残ります。

- グランドピアノ音色を選んでいる場合は、実際のグランドピアノでダンパーペダルを使用しているときのような共鳴効果(ダンパーレゾナンス)も生み出せます。ペダルの効果は、踏み込む深さに応じて連続的に変化します。

ソフトペダル

演奏中にこのペダルを踏むと、ペダルを踏んでから鍵盤で弾いた音が弱まるだけでなく、音色が柔らかく聞こえる効果が得られます。付属のペダルユニットは、ハーフペダルに対応しています。

ソステヌートペダル

このペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、鍵盤を離してもペダルを離すまでその音の余韻が残ります。

EXPRESSION/ASSIGNABLE端子

この端子には、市販のエクスプレッションペダルまたは別売のサステインペダルを接続します。

■対応エクスプレッションペダル

- エクスプレッションペダルは、最大抵抗値が、 $10k\Omega \pm 20\%$ ～ $50k\Omega \pm 20\%$ の範囲のものをご使用ください。
- 動作確認品(下記)の使用をおすすめします。

動作確認済みペダル(極性タイプ2※)

Roland EV-5 (「ミニマム・ボリューム」を「0」に設定してください。)

KURZWEIL CC-1

FATAR VP-25, VP-26

※58ページ「[ペダルのタイプを選ぶには](#)」の操作で、「Exp.Type2」を選んでください。

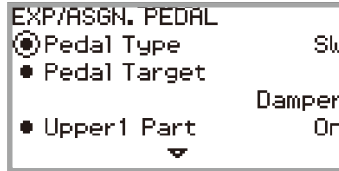
■ペダルのタイプを選ぶには

1. Fボタンセットの“13 KB Setting”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。

2. F3ボタン(PEDAL)にタッチします。

“EXP/ASGN. PEDAL”画面が表示されます。

- “Pedal Type”にカーソル(○)があるのをご確認ください。



3. リングをなぞって、希望する設定値に変更します。

- エクスプレッションペダルの極性タイプは、メーカーによって異なります。エクスプレッションペダルを接続する場合は、ペダルの極性タイプに合わせて、“Exp.Type1”または“Exp.Type2”を選んでください。

設定値	設定内容
Exp.Type1	極性タイプ1（下図）のエクスプレッションペダルを接続する場合に選びます。
Exp.Type2	極性タイプ2（下図）のエクスプレッションペダルを接続する場合に選びます。
SW	別売のサステインペダルを接続する場合に選びます。

■ペダルの機能を選ぶには

58ページ「[ペダルのタイプを選ぶには](#)」の操作で“EXP/ASGN. PEDAL”画面を表示し、“Pedal Target”の設定値を変更してください。設定値のうち“Expression”、“Master Vol”、“Tempo”、“LY Balance”の4つは、エクスプレッションペダル専用です。



- “EXP/ASGN. PEDAL”画面は、**FUNCTION**ボタンにタッチしたまま**EXPRESSION/ASSIGNABLE**端子に接続したペダルを踏むことで表示することもできます（接続されているペダルと現在選択されているペダルタイプが一致している場合）。

設定値	設定内容
Expression	エクスプレッション（MIDI Control Changeの11番）を制御します。
Master Vol	音量を制御します。
Tempo	テンポを制御します。
LY Balance	Upper 1パートとUpper 2パートの音量バランスを制御します。
Damper	演奏中にペダルを踏むと、鍵盤を離してもその音の余韻が残ります。オルガンなど、鍵盤を押している間音が持続する音色では、ペダルを踏んでいる間、音が鳴り続けます。
Sostenuto	ペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、鍵盤を離してもペダルを離すまで音の余韻が残ります。
Soft	ペダルを踏んでいる間に弾いた音が若干小さくなることに加え、音が柔らかく聴こえる効果が得られます。
Arpeggio Hold	アルペジエーター（71ページ）がオンのとき、ペダルを踏むたびに、アルペジオホールドのオン/オフを切り替えます。
Start/Stop	▶/■ボタンと同じ動きをします。
Seq Recall Inc Seq Recall Dec	ペダルを踏むたびに、レジストレーションを順番に呼び出します。詳しくは、78ページ「 ペダルまたはEXボタンを使ってレジストレーションを呼び出す（シーケンシャルリコール） 」をご参照ください。

■エクスプレッションペダルのキャリブレーション

EXPRESSION/ASSIGNABLE端子にエクスプレッションペダルを接続する場合、初回接続時に下記操作でキャリブレーション(調整)を実施します。

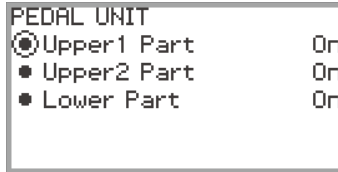
1. **EXPRESSION/ASSIGNABLE**端子にエクスプレッションペダルを接続します。
2. Fボタンセットの“13 KB Setting”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
3. **F3**ボタン(PEDAL)にタッチします。
“EXP/ASGN. PEDAL”画面が表示されます。
4. リングの上、下にタッチして“Exp Calibration”を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
確認画面が表示されます。操作をキャンセルするには、ここでリングの左(NO)にタッチします。



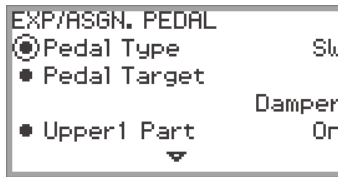
5. キャリブレーションを開始するには、リングの右(YES)にタッチします。
6. “Highest”と表示されたら、エクスプレッションペダルのつま先側を止まるまで踏み込んで、**ENTER**ボタンにタッチします。
7. “Lowest”と表示されたら、エクスプレッションペダルのかかと側を止まるまで踏み込んで、**ENTER**ボタンにタッチします。
正常にキャリブレーションが完了すると、“Complete”と表示されます。

各パート(Upper 1/Upper 2/Lower)に対するペダル操作の有効／無効を切り替える

1. **FUNCTION**ボタンにタッチして、FUNCTIONメニューを表示します。
2. リングを使って“PEDAL/WHEEL”を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
3. どの端子に接続したペダルの設定を変更するかに応じて、下記のメニューを選びます。
 - **PEDAL UNIT**端子に接続したペダルの設定を変更する場合：
リングを使って“PEDAL UNIT”を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。



- **EXPRESSION/ASSIGNABLE**端子に接続したペダルの設定を変更する場合：
リングを使って“EXP/ASGN. PEDAL”を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。



4. リングの上、下にタッチして、“Upper 1 Part”、“Upper 2 Part”、または“Lower Part”を選びます。
5. リングをなぞって、希望する設定値に変更します。
 - 手順4で選んだパートに対するペダル操作を有効にするには“On”、無効にするには“Off”を選んでください。
6. 手順4、5の操作を、必要なだけ繰り返します。

EXボタンを使う

2つの**EX**ボタンには、それぞれお好みの機能を割り当てることができます。演奏中にボタンに指を置いておき、希望するタイミングに合わせて操作する用途などに適しています。



EX1ボタンを押すたびに、アルペジエーター(71ページ)のオン/オフが切り替わります。

EX2ボタンを押すと、スマートデバイス用アプリ「CASIO MUSIC SPACE」(140ページ)の機能呼び出すことができます。

上記の機能は**EX1**ボタンと**EX2**ボタンの初期設定で、どちらのボタンにも他のさまざまな機能(レイヤーやスプリットのオン/オフ切り替えや、レジストレーションの呼び出しなど)を割り当てることができます。

EXボタンに割り当てる機能を変更する

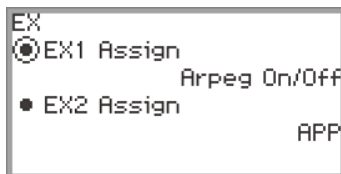


- 下記手順1～2の代わりに、**FUNCTION**ボタンにタッチしたまま**EX1**ボタンまたは**EX2**ボタンを押しても、“EX”画面を表示することができます。(EX1ボタンを押した場合は“EX1 Assign”、EX2ボタンを押した場合は“EX2 Assign”が選ばれた状態となります。)

1. Fボタンセットの“12 Control”を選びます(28ページ[Fボタンセットを変更するには])。

2. F3ボタン(EX)にタッチします。

“EX”画面が表示されます。



3. リングの上、下にタッチして、設定を変更したい項目を選びます。

- EX1**ボタンの機能を変更するには“EX1 Assign”、**EX2**ボタンの機能を変更するには“EX2 Assign”を選んでください。

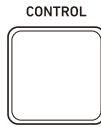
4. リングをなぞって、希望する設定値に変更します。

設定値	設定内容
Arpeg On/Off	アルペジエーター (71ページ) のオン/オフを切り替えます。
APP	スマートデバイス用アプリ「CASIO MUSIC SPACE」(140ページ) の機能呼び出します。割り当てることが可能な機能について詳しくは、アプリの取扱説明書をご参照ください。
Layer	レイヤー (40ページ) のオン/オフを切り替えます。
Split	スプリット (42ページ) のオン/オフを切り替えます。
Arpeg Hold	アルペジオホールド (71ページ) のオン/オフを切り替えます。
Start/Stop	▶/■ボタンと同じ働きをします。
Sustain	サステイン（音の余韻を伸ばす効果）のオン/オフを切り替えます。
REG 1, REG 2, REG 3, REG 4	現在選択されているバンクのレジストレーション (73ページ) を呼び出します。
Seq Recall Inc Seq Recall Dec	EX ボタンを押すたびに、レジストレーションを順番に呼び出します。詳しくは、78ページ「ペダルまたはEXボタンを使ってレジストレーションを呼び出す（シーケンシャルリコール）」をご参照ください。

5. 必要に応じて、手順3、4の操作を繰り返します。

CONTROLボタンを使う

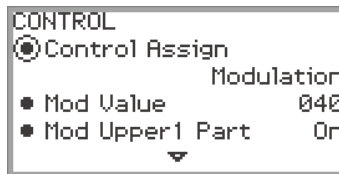
演奏しながら音をコントロールするためのボタンです。



初期設定では、**CONTROL**ボタンを押さえている間はモジュレーションがかかります。設定を変えることで、ポルタメント(音高を滑らかに変化させる効果)のオン/オフ切り替えなど、他の機能を割り当てることもできます。

CONTROLボタンに割り当てる機能を切り替える

1. Fボタンセットの“12 Control”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
2. **F4**ボタン(CTRL)にタッチします。
 “CONTROL”画面が表示されます。
 - “Control Assign”にカーソル(○)があるのをご確認ください。



3. リングをなぞって、希望する設定値に変更します。

設定値	設定内容
Modulation	CONTROL ボタンを押さえている間、モジュレーションがかかります。
Portamento	CONTROL ボタンを押すたびに、Upper 1パートのポルタメントのオン/オフが切り替わります。
Rotary	ロータリーを使用しているDSPトーン*が選択されている場合、 CONTROL ボタンを押すたびに、ロータリースピーカーの設定がSlow/Fastの間で切り替わります。
Arpeg Note Len	CONTROL ボタンを押すたびに、アルペジエーターで鳴らす音(音符)が、通常の長さと半分の長さで切り替わります。

※「DSPトーン」とは、音色に合ったプリセットDSPが組み込まれている内蔵音色です。どの音色がDSPトーンかは、別冊「内蔵音楽データ一覧」の音色リストで確認することができます。

ロータリーを使用しているDSPトーンは、下記番号のオルガン音色です。

105、106、109、110、111、115、116、117、118、119、120、123、124、125

4. “Control Assign”を“Modulation”にした場合は、必要に応じてモジュレーションの設定を変更します。

- リングの上、下にタッチして、“Mod Value”などの各項目を設定します。詳しくは、[65ページ「モジュレーションの各種設定を変更するには」](#)をご参照ください。



- 上記手順1～2の代わりに、**FUNCTION**ボタンにタッチしたまま**CONTROL**ボタンを押しても、“CONTROL”画面を表示することができます。
- “Control Assign”を“Portamento”にした場合のポルタメントタイムの設定については、[65ページ「ポルタメントタイムを設定する」](#)をご参照ください。

■モジュレーションの各種設定を変更するには

[64ページ「CONTROLボタンに割り当てる機能を切り替える」](#)の“CONTROL”画面に表示される下表の設定項目を使って、**CONTROL**ボタンにモジュレーションを割り当てたときの設定を変更することができます。

設定項目	設定値	設定内容
Mod Value	000 ～ 127	モジュレーションがかかる強さを設定します。
Mod Upper1 Part Mod Upper2 Part Mod Lower Part	On, Off	モジュレーションをUpper 1/Upper 2/Lowerの各パートにかける（On）か、かけない（Off）か、選びます。

ポルタメントタイムを設定する

1. **FUNCTION**ボタンにタッチして、FUNCTIONメニューを表示します。
2. リングを使って、“SOUND” > “PORTAMENTO” > “Portamento Time”の順に選びます。

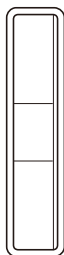


3. リングをなぞって、“Portamento Time”の設定値を変更します。
 - 000～127の間で設定することができます。数値が大きくなるほど、音高がゆっくりと変化します。

ピッチベンドホイールで音の高さを変える

ピッチベンドホイールを上下に動かすことで、現在鳴っている音の音高(ピッチ)を、滑らかに上下させることができます。サックスやエレキギターのチョーキング奏法のような効果を出すことができます。

PITCH BEND



メモ

- ホイールを動かした量に応じて、音の高さが変わります。
- 本機の電源を入れるときには、ホイールに触らないようにしてください。

ピッチベンドレンジを変更する

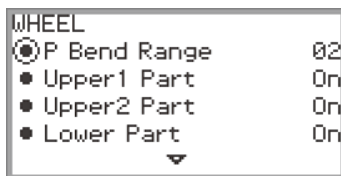
ホイールを上限や下限まで動かしたときの、音の高さの変化量を変更します。値の1は半音に相当します。例えば「2」に設定すると、上限まで動かしたときに2半音上がり、下限まで動かしたときに2半音下がります。

1. Fボタンセットの“13 KB Setting”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。

2. F2ボタン(WHEEL)にタッチします。

“WHEEL”画面が表示されます。

- “P Bend Range”にカーソル(○)があるのをご確認ください。



3. “P Bend Range”の設定値を変更します。

- 0～24の間で設定することができます。

各パート(Upper 1/Upper 2/Lower)に対するピッチベンドホイール操作の有効／無効を切り替える

66ページ「ピッチベンドレンジを変更する」の操作で“WHEEL”画面を表示し、下表の各項目を設定してください。

設定項目	設定値	設定内容
Upper1 Part Upper2 Part Lower Part	On, Off	Upper 1/Upper 2/Lowerの各パートに対するピッチベンドホイール操作を有効にする (On) か、無効にする (Off) か、選びます。

ピッチベンドホイールの照光設定を変更する

ピッチベンドホイールを操作していないときや、操作したときの、光りかたを設定することができます。

66ページ「ピッチベンドレンジを変更する」の操作で“WHEEL”画面を表示し、下表の各項目を設定してください。

設定項目	設定値	設定内容
Wheel Illum	Cool, Colorful, Active	ピッチベンドホイールを操作していないときで、ワイヤレス接続 (135ページ) がない場合のピッチベンドホイールの光りかたを選びます。
Up/Down Color	On, Off	ピッチベンドホイールを操作したときに照光色を変化させる (On) か、させない (Off) か、選びます。



- 本機を電池で使用しているときや、パネル消灯状態 (16ページ) のとき、ピッチベンドホイールは消灯します。

メトロノームを使う

本機のメトロノームは、一般的なメトロノーム音だけでなく、さまざまなドラムパターンを鳴らすこともできます。

メトロノームをスタート／ストップする

1. **FUNCTION**ボタンにタッチしたまま、▶/■ボタンにタッチします。

メトロノームがスタートします。

- メトロノームの拍子に合わせて、▶/■ボタンの左にある赤と白のLEDが点滅します(1拍目:赤、残りの拍:白)。

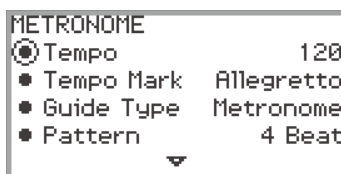
2. メトロノームをストップするには、**FUNCTION**ボタンにタッチしたまま▶/■ボタンにタッチします。

メトロノームの設定を変更する(テンポ・拍子・パターンなどを変える)

1. Fボタンセットの“01 Standard”を選びます(28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。

2. **F2**ボタン(METRO)にタッチします。

“METRONOME”画面が表示されます。



3. リングの上、下にタッチして、設定を変更したい項目を選びます。

- 設定項目ごとの設定値と設定内容は、下表のとおりです。
- “Tempo”と“Tempo Mark”の設定は、連動しています。

設定項目	設定値と設定内容
Tempo	テンポを20 ～ 255（拍/分）の間で設定します。
Tempo Mark	テンポを“Andante”（アンダンテ）や“Allegro”（アレグロ）などの速度標語から選んで設定します。詳細は69ページ「Tempo Mark 設定値一覧」をご参照ください。
Guide Type	下記のいずれかから選びます。 Metronome：メトロノーム音を鳴らします。 Drum：ドラムパターンを鳴らします。

設定項目	設定値と設定内容	
Pattern	“Guide Type”が“Metronome”の場合： メトロノームの拍子を設定します。	
	Bell Off	すべての拍でクリック音だけが鳴ります。
	1 Beat	すべての拍でベル音が鳴ります。
	2 Beat ～ 9 Beat	2拍子～9拍子に設定します。1拍目にベル音が鳴り、残りの拍はクリック音が鳴ります。
	“Guide Type”が“Drum”の場合： 表示されるドラムパターンの一覧から1つを選ぶことができます。 詳細は70ページ「ドラムパターン一覧」をご参照ください。	
Volume	本機全体の音量に対するメトロノームの音量を、0（無音）～127（最大音量）の間の数値で設定します。	
While Playing	SONGモード（94ページ）でMIDIデータの曲を再生中に、メトロノームを鳴らす（On）か、鳴らさない（Off）かを、設定します。	
While Recording	MIDIレコーダー（101ページ）での録音中に、メトロノームを鳴らす（On）か、鳴らさない（Off）かを、設定します。	

4. 選んだ項目の設定値を変更します。

- リングをなぞって、希望する設定値に変更します。

5. 手順3、4の操作を、必要なだけ繰り返します。

■Tempo Mark設定値一覧

設定値	テンポ(拍/分)
Largo（ラルゴ）	46
Lento（レント）	52
Adagio（アダージョ）	56
Andante（アンダンテ）	72
Moderato（モデラート）	96
Allegretto（アレグレット）	108
Allegro（アレグロ）	132
Vivace（ビバーチェ）	160
Presto（プレスト）	184

■ドラムパターン一覧

ドラムパターン名	拍子	内容
8 Beat 1	4	シンプルな8ビート
8 Beat 2	4	シンプルな8ビート
8 Beat Shuffle	4	8ビートのシャッフル
Triplet8Beat 1	4	3連符の8ビート
Triplet8Beat 2	4	3連符の8ビート
6/8 Pop	6	スローなテンポに合う6拍子のリズム
16 Beat	4	シンプルな16ビート
16 Beat Shuffle	4	16ビートのシャッフル
Ballad 8 Beat	4	スローなテンポに合う8ビート
Ballad 16 Beat	4	スローなテンポに合う16ビート
Dance Beat	4	シンプルなダンスビート
Dance Shuffle	4	ダンスビートのシャッフル
Waltz	3	ワルツのリズム
March	2	2拍子のマーチのリズム
Bossa Nova	4	ボサノバのリズム
Salsa	4	パーカッションによるサルサのリズム
Swing	4	ジャズに合うスイングのリズム
Slow Swing	4	スローなジャズに合うスイングのリズム
Jazz Waltz	3	ジャズワルツのリズム
5/4 Jazz	5	5拍子のジャズのリズム

■鍵盤を使ってテンポを調節するには(タップテンポ)

1. **FUNCTION**ボタンにタッチしたまま、**ENTER**ボタンにタッチします。
“TAP TEMPO”画面が表示されます。



2. 鍵盤を2回以上続けて押します。
 • 鍵盤を押した間隔に応じたテンポになり、設定されたテンポ値が表示されます。

アルペジオを自動的に鳴らす(アルペジエーター)

アルペジエーターを使うと、鍵盤を押さえるだけで、アルペジオ(分散和音)や、さまざまなパターンが自動的に再生されます。押さえている和音からアルペジオが再生されるタイプや、さまざまなパターンを自動的に再生するものなど、数多くのタイプから選べます。

アルペジエーターのオン/オフを切り替える

1. Fボタンセットの“12 Control”を選びます(28ページ[Fボタンセットを変更するには])。
2. **F1**ボタン(ARPEG)にタッチします。
アルペジエーターがオンになり、液晶画面に**AP**が表示されます。

アルペジエーターがオンのとき表示されます



- 鍵盤で和音、または単音を押さえると、現在選択されているタイプのアルペジオが再生されます。

3. アルペジエーターをオフにするには、**F1**ボタン(ARPEG)にタッチして、液晶画面の**AP**を消します。

アルペジエーターのパターンや各種設定を変更する

1. Fボタンセットの“12 Control”を選びます(28ページ[Fボタンセットを変更するには])。
2. **F1**ボタン(ARPEG)を長押しします。
“ARPEGGIATOR”画面が表示されます。



3. リングの上、下にタッチして、設定を変更したい項目を選びます。

- 設定項目ごとの設定値と設定内容は、下表のとおりです。

設定項目	設定値	設定内容
Pattern	※1	アルペジエーターで鳴らすパターンを選びます。
Recommended Setup	On, Off※2	アルペジエーターをオフからオンに切り替えたときや、アルペジエーターがオンの状態で“Pattern”を切り替えたとき、この設定が“On”になっていると、アルペジエーターのパターンに応じたおすすめの音色や設定が自動的に適用されます。
Arpeggio Hold	On, Off※3	アルペジオホールドのオン/オフを切り替えます。この設定を“On”にすると、指を鍵盤から離れた後も、アルペジオが鳴り続けるようになります。
Upper1 Part Upper2 Part Lower Part	On, Off※3	アルペジエーターをUpper 1/Upper 2/Lowerの各パートで鳴らす (On) か、鳴らさない (Off) か、選びます。

※1 174ページ「アルペジエーター一覧」をご参照ください。

※2 この設定が“On”のときに自動的に設定される項目には、下記も含まれます。

- アルペジエーターが再生される鍵域 (UpperパートとLowerパートのスプリットポイント) が自動的に設定されます。このため、押さえた鍵盤によっては、アルペジエーターが再生されないことがあります。
- 各パート (Upper 1/Upper 2/Lower) に対するペダル操作の有効/無効が、自動的に設定されます。対象となるペダルは、PEDAL UNIT端子に接続したペダル、および**EXPRESSION/ASSIGNABLE**端子に接続したペダル (ペダルの機能として“Damper”が選択されている場合のみ) です。

※3 これらの設定が“Off”であっても、“Recommended Setup”が“On”の場合は、おすすめ設定が優先的に適用されます。パターンごとのおすすめ設定の詳細は、174ページ「アルペジエーター一覧」をご参照ください。

4. 選んだ項目の設定値を変更します。

- リングをなぞって、希望する設定値に変更します。

5. 手順3、4の操作を、必要なだけ繰り返します。

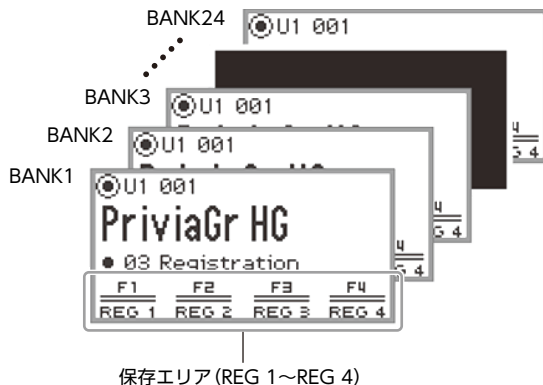


- アルペジオの速さは、テンポの設定に依存します。詳しくは、68ページ「メトロノームの設定を変更する (テンポ・拍子・パターンなどを変える)」をご参照ください。
- アルペジエーターのオン/オフ切り替え操作は**EX**ボタンに、アルペジオホールドのオン/オフ切り替え操作は**EX**ボタンおよび**EXPRESSION/ASSIGNABLE**端子に接続したペダルに割り当てて、実行することもできます。詳しくは、62ページ「EXボタンを使う」、57ページ「ペダルを使う」をご参照ください。
- CONTROL**ボタンの機能として“Arpeg Note Len”を選択すると、アルペジエーターの一部パターンの音の長さを切り替えることができます。詳しくは、64ページ「CONTROLボタンに割り当てる機能を切り替える」をご参照ください。

演奏に使う設定を登録する・呼び出す (レジストレーション)

音色の選択状態やレイヤー、スプリット、エフェクトなどの各種設定状態を、一括して登録しておくことができます。また登録した設定を、一括して呼び出す※ことができます。この機能を「レジストレーション」と呼びます。

※フリーズ機能(77ページ)を併用することで、登録した設定の一部だけを呼び出すことも可能です。



レジストレーションの保存エリアはREG 1～REG 4の4つがあり、それぞれ**F1**ボタン(REG 1)～**F4**ボタン(REG 4)と対応しています。REG 1～REG 4の1セットを「バンク」と呼び、バンクは全部で24個あります。4エリア×24バンクで、最大96個まで、設定状態の登録が可能です。

メモ

- レジストレーションはデモ演奏中(35ページ)、SONGモード(94ページ)、および各種の設定操作中は利用できません。

レジストレーションに登録する

1. 演奏する曲に合う音色やエフェクト、その他レジストレーションに登録できる項目(80ページ)を、必要なだけ設定します。
2. Fボタンセットの“02 Regist Setting”を選びます(28ページ[Fボタンセットを変更するには])。



3. F1ボタン(BANK)にタッチします。
“REGIST BANK”画面が表示されます。



4. リングをなぞって保存先のバンクを選び、EXITボタンにタッチします。
5. F2ボタン(STORE)にタッチします。
“REGIST STORE”画面が表示されます。



6. F1～F4ボタンのいずれか1つにタッチして、保存先のエリア (REG 1～REG 4) を選びます。

確認画面が表示されます。保存せずに操作を終了するには、ここでリングの左 (NO) にタッチします。



7. 保存するには、リングの右 (YES) にタッチします。

“Complete”と表示され、手順5の画面に戻ります。

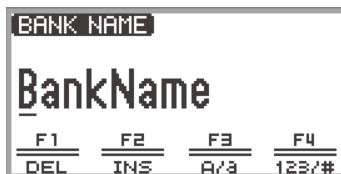
8. EXITボタンにタッチして、トップ画面に戻ります。

レジストレーションのバンク名を変更する

1. 74ページ「レジストレーションに登録する」の手順2～4の操作で、名前を変更したいバンクを選びます。

2. F4ボタン (BNAME) にタッチします。

バンク名の編集画面が表示されます。



3. バンク名を、希望する名前に変更します。

- ここからの操作については、31ページ「文字を入力する」をご参照ください。

レジストレーションを呼び出す

1. 必要に応じて、74ページ「[レジストレーションに登録する](#)」の手順2～4の操作で、呼び出したいエリアのあるバンクを選びます。
 - 現在選択されているバンクからレジストレーションを呼び出したい場合、この操作は不要です。
2. 必要に応じて、フリーズ機能のオン/オフを切り替えます。
 - 詳しくは、77ページ「[フリーズ機能について](#)」をご参照ください。
3. Fボタンセットの“03 Registration”を選びます (28ページ「[Fボタンセットを変更するには](#)」)。



4. F1～F4ボタンのいずれか1つにタッチします。
タッチしたボタンに対応するエリア (REG 1～REG 4) のレジストレーションが、呼び出されます。

[] は、このエリアが呼び出されたことを表します

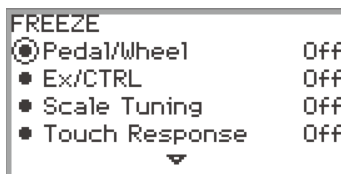


フリーズ機能について

フリーズ機能をオンにすることで、レジストレーションを呼び出したときに、特定の設定項目だけを変更しないようにする (フリーズする) ことができます。下記の操作で、どの設定項目をフリーズの対象にするかを選びます。

■フリーズ対象項目を選ぶには

1. Fボタンセットの“02 Regist Setting”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
2. F3ボタン(FREEZ)を長押しします。
“FREEZE”画面が表示されます。



3. リングの上、下にタッチして、設定を変更したい項目を選びます。
 • 各項目が表す設定内容の詳細は、80ページ「レジストレーションに登録される設定項目」をご参照ください。
4. 選んだ項目の設定値を、“On”(フリーズの対象にする)と“Off”(フリーズの対象にしない)の間で切り替えます。
5. 手順3、4の操作を、必要なだけ繰り返します。

■フリーズ機能のオン/オフを切り替えるには

1. Fボタンセットの“02 Regist Setting”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
2. F3ボタン(FREEZ)にタッチします。
フリーズ機能がオンになり、液晶画面に[FZ]が表示されます。

フリーズがオンのとき表示されます



3. フリーズ機能をオフにするには、F3ボタン(FREEZ)にタッチして、液晶画面の[FZ]を消します。

ペダルまたはEXボタンを使ってレジストレーションを呼び出す (シーケンシャルリコール)

EXPRESSION/ASSIGNABLE端子に接続したペダル、または**EX**ボタンを使って、レジストレーションを順番に呼び出すことができます。

■ペダルを使ってレジストレーションを呼び出すには

1. **EXPRESSION/ASSIGNABLE**端子にペダルを接続します。
 - 接続したペダルに応じて、必ずペダルのタイプを選んでください(58ページ「[ペダルのタイプを選ぶには](#)」を参照)。
2. 77ページ「[フリーズ対象項目を選ぶには](#)」を参照し、“Pedal/Wheel”の設定値を“On”に切り替えます。
3. 77ページ「[フリーズ機能のオン/オフを切り替えるには](#)」を参照し、フリーズ機能をオンにします。
4. 59ページ「[ペダルの機能を選ぶには](#)」を参照し、“Pedal Target”の設定値を“Seq Recall Inc”または“Seq Recall Dec”に変更します。
5. レジストレーションを呼び出したいタイミングで、ペダルを踏みます。
 - 設定値が“Seq Recall Inc”の場合：
ペダルを短く踏むと、バンク番号-エリア番号の昇順(例: 1-1、1-2、1-3、1-4、2-1、2-2…)に呼び出されます。長く踏むと、逆順(例: 2-2、2-1、1-4、1-3…)に呼び出されます。
 - 設定値が“Seq Recall Dec”の場合：
ペダルを短く踏むと、バンク番号-エリア番号の降順(例: 24-4、24-3、24-2、24-1、23-4、23-3…)に呼び出されます。長く踏むと、逆順(例: 23-3、23-4、24-1、24-2…)に呼び出されます。

■EXボタンを使ってレジストレーションを呼び出すには

1. 77ページ「[フリーズ対象項目を選ぶには](#)」を参照し、“EX/CTRL”の設定値を“On”に切り替えます。
2. 77ページ「[フリーズ機能のオン/オフを切り替えるには](#)」を参照し、フリーズ機能をオンにします。
3. 62ページ「[EXボタンに割り当てる機能を変更する](#)」を参照し、下記のとおりを設定します。
 - (1) 呼び出しに**EX1** ボタンを使うには“EX1 Assign”、**EX2** ボタンを使うには“EX2 Assign”を選びます。
 - (2) 設定値を“Seq Recall Inc”または“Seq Recall Dec”に変更します。
4. レジストレーションを呼び出したいタイミングで、EXボタンを押します。
 - 設定値が“Seq Recall Inc”の場合：
EXボタンを押すと、バンク番号-エリア番号の昇順(例：1-1、1-2、1-3、1-4、2-1、2-2…)に呼び出されます。
 - 設定値が“Seq Recall Dec”の場合：
EXボタンを押すと、バンク番号-エリア番号の降順(例：24-4、24-3、24-2、24-1、23-4、23-3…)に呼び出されます。



- **EX**ボタンを使って、現在選択されているレジストレーションバンクの特定のエリアを呼び出すことも可能です。詳しくは、62ページ「[EXボタンに割り当てる機能を変更する](#)」をご参照ください。

レジストレーションに登録される設定項目

設定項目	“FREEZE”画面の項目名※
- ペダルユニット、EXPRESSION/ASSIGNABLEペダル、ピッチベンドホイールのパートOn/Off設定 - EXPRESSION/ASSIGNABLEペダルの機能 - ピッチベンドレンジ	Pedal/Wheel
- EXボタン設定 - EXボタンによるSustain設定 - CONTROLボタン設定 - CONTROLボタン操作によるPortamento On/Off設定、Rotary Slow/Fast設定、モジュレーション値の変更、モジュレーションのパートOn/Off設定	EX/CTRL
音律設定(タイプ、基音、ストレッチチューニング)	Scale Tuning
タッチレスポンス設定	Touch Response
- ホールシミュレーター／リバーブ(On/Off、タイプ) - サラウンド(On/Off、タイプ)	Sound Mode
- コーラスタイプ - ブリリアンス設定 - マイクエフェクト(タイプ、エフェクトOn/Off、M1～M3の設定)	Effect
トランスポーズ設定	Transpose
スプリットポイント設定	Split Point
- アルペジエーター(On/Off、タイプ、その他各種設定) - EXボタンによるArpeggio On/Off設定 - EXPRESSION/ASSIGNABLE端子に接続したペダル操作、またはEXボタン操作によるArpeggio Hold設定 - CONTROLボタン操作によるArpeggio Note Length設定	Arpeggiator
- メトロノーム設定 (テンポ、速度標語、ガイドタイプ、パターン) - EXPRESSION/ASSIGNABLE端子に接続したペダル操作によるTempo設定	Tempo
- 音色番号(Upper 1、Upper 2、Lower) - レイヤーOn/Off、スプリットOn/Off - ポルタメントタイム - ハンマーレスポンス、キーオフレスポンス - オクターブシフト - パートファインチューン - デュエット設定 - EXボタン操作によるLayer, Split設定	Tone
- ミキサーの各種設定 - EXPRESSION/ASSIGNABLE端子に接続したペダル操作によるLayer Balance設定	Mixer

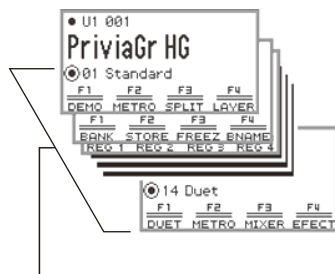
※ 77ページ「フリーズ対象項目を選ぶには」の“FREEZE”画面に表示される項目名です。

外部機器への保存について

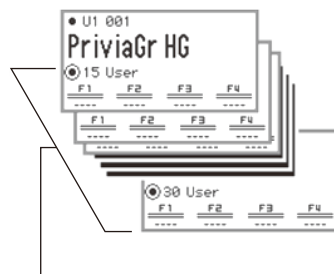
レジストレーションのデータは、バンク単位でUSBメモリーに保存できます。[129ページ「本機のデータをUSBメモリーに保存する」](#)をご参照ください。

F ボタンセットを活用する

4つのFボタンに、それぞれ機能を割り当てたひとまとまりを、Fボタンセットと呼びます。セット名と機能があらかじめ固定で決まっている14個の「プリセットFボタンセット」と、セット名や機能の割り当てを自由に登録できる16個の「ユーザーFボタンセット」があります。



プリセットFボタンセット (01~14)



ユーザーFボタンセット (15~30)

ユーザーFボタンセットに、演奏する曲に応じてよく使う音色や機能などを割り当てて、ご活用ください。

プリセットのFボタンセット一覧

Fボタンセット01~14のセット名と各Fボタンへの機能割り当ては、下表のとおりです。

No.	セット名		F1	F2	F3	F4
01	Standard	スタンダード	DEMO	METRO	SPLIT	LAYER
02	Regist Setting	レジストレーション設定	BANK	STORE	FREEZ	BNAME
03	Registration	レジストレーション	REG 1	REG 2	REG 3	REG 4
04	Listening	リスニング	ADPTR	SMODE	PPOSI	MIXER
05	Song Play	ソング・プレイ	SONG	SMODE	PPOSI	MICFX
06	Song Lesson	ソング・レッスン	SONG	◀◀	▶▶	METRO
07	Piano Collect	ピアノ・コレクション (音色)	001PR	004PR	007PR	011CL
08	E.PianoCollect	エレピ・コレクション (音色)	049SP	044JU	056IN	059WH
09	Favorite Piano	フェイバリット・ピアノ	ACSIM	EFFECT	SMODE	PPOSI
10	Effect	エフェクト	SMODE	PPOSI	EFFECT	MICFX
11	Vocal	ボーカル	ADPTR	MICFX	SMODE	MIXER
12	Control	コントロール	ARPEG	TRANS	EX	CTRL
13	KB Setting	キーボード設定	KEYBD	WHEEL	PEDAL	CTRL
14	Duet	デュエット	DUET	METRO	MIXER	EFFECT

Fボタンからの操作だけが可能な機能です (FUNCTIONメニューには含まれていません)。

専用画面を呼び出します。

Fボタンセットを編集する

Fボタンに機能を割り当てる(ユーザーFボタンセットの作成)

Fボタンに希望する機能を割り当ててユーザーFボタンセットを作成するには、次の2つの方法があります。

- プリセットのFボタンセット(または機能を登録済のユーザーFボタンセット)を編集して、ユーザーFボタンセットとして保存します(【操作例1】を参照)。
- 空のユーザーFボタンセットに、新たに機能を割り当てて保存します(【操作例2】を参照)。

【操作例1】: プリセットのFボタンセット“01 Standard”を編集して、ユーザーFボタンセットとして保存する

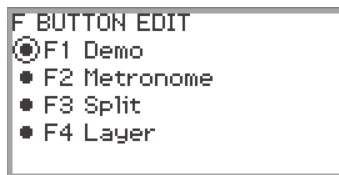
1. Fボタンセットの“01 Standard”を選びます(28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。



2. **FUNCTION**ボタンにタッチしたまま、**F1**ボタンにタッチします。

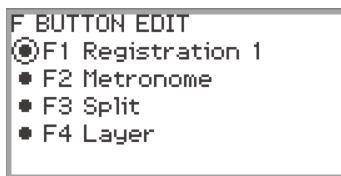
“F BUTTON EDIT”画面が表示されます。

- **F1**ボタンにタッチしたので、**F1**ボタンが機能割り当てを変更する対象として選択されます。



3. リングをなぞって、F1ボタンの設定値を変更します。

- 表示される設定値と、設定値に対応する機能については、[91ページ\[Fボタン機能一覧\]](#)をご参照ください。
- Fボタンに音色を割り当てるには、設定値を“Tone Category”に変更して**ENTER**ボタンにタッチし、音色を選ぶ操作が必要です。詳しくは[87ページ\[Fボタンに音色を割り当てるには\]](#)をご参照ください。



- 他のFボタンの機能割り当てを変更したいときは、“F BUTTON EDIT”画面の表示中にリングの上、下にタッチして“F2”、“F3”、または“F4”を選んでから、各ボタンの設定値を変更してください。

4. 必要な変更が済んだら、EXITボタンにタッチします。

Fボタンセットを保存するか確認する画面が表示されます。保存せずに操作を終了するには、ここでリングの左(NO)にタッチします。



5. 保存するには、リングの右(YES)にタッチします。

保存先のユーザーFボタンセットを選ぶ画面が表示されます。

- すでに機能を割り当てて保存済みのユーザーFボタンセット番号の右側には「*」が付いています。*付きのセットを選ぶと、上書き保存となります。



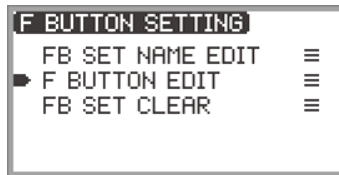
6. リングをなぞって保存先のユーザーFボタンセットを選び、**ENTER**ボタンにタッチします。

“Complete”と表示された後、トップ画面に戻ります。



【操作例2】：空のユーザーFボタンセットに新たに機能を割り当てて保存する

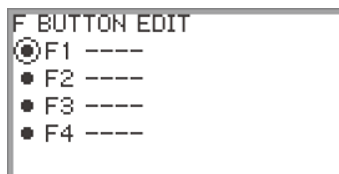
1. 空のユーザーFボタンセットを選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
2. **FUNCTION**ボタンにタッチして、FUNCTIONメニューを表示します。
3. リングを使って、“F BUTTON SETTING” > “F BUTTON EDIT”の順に選びます。



4. **ENTER**ボタンにタッチします。

“F BUTTON EDIT”画面が表示されます。

- このとき、**F1**ボタンが機能割り当てを変更する対象として選択されます。
- 機能が何も登録されていないFボタンの右には、“----”と表示されます。

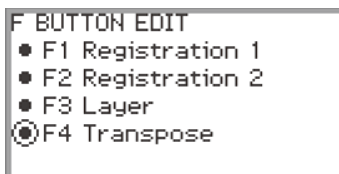


5. リングをなぞって、希望する設定値に変更します。



- 表示される設定値と、設定値に対応してFボタンに割り当てられる機能について詳しくは、[91ページ\[Fボタン機能一覧\]](#)をご参照ください。
- Fボタンに音色を割り当てる場合は、設定値を“Tone Category”に変更して**ENTER**ボタンにタッチし、音色を選ぶ操作が必要です。詳しくは[87ページ\[Fボタンに音色を割り当てるには\]](#)をご参照ください。

6. “F BUTTON EDIT”画面の表示中にリングの上、下にタッチして“F2”、“F3”、または“F4”を選び、各ボタンの設定値を順次変更します。



7. 必要な変更が済んだら、**EXIT**ボタンにタッチします。

Fボタンセットを保存するか確認する画面が表示されます。保存せずに操作を終了するには、ここでリングの左 (NO) にタッチします。



8. 保存するには、リングの右(YES)にタッチします。

保存先のユーザーFボタンセットを選ぶ画面が表示されます。

- すでに機能を割り当てて保存済みのユーザーFボタンセット番号の右側には「*」が付いています。*付きのセットを選ぶと、上書き保存となります。



9. リングをなぞって保存先のユーザーFボタンセットを選び、**ENTER**ボタンにタッチします。

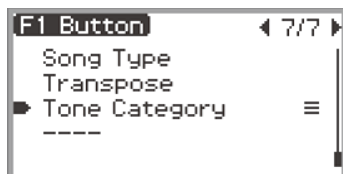
“Complete”と表示された後、“F BUTTON SETTING”画面に戻ります。

10. **EXIT**ボタンを長押しして、トップ画面に戻ります。

■Fボタンに音色を割り当てるには

83ページ【操作例1】の手順3、または85ページ【操作例2】の手順4で、下記を実施してください。

1. **ENTER**ボタンにタッチして値一覧画面を表示し、“Tone Category”を選びます。



2. **ENTER**ボタンにタッチします。

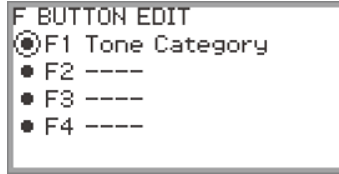
音色カテゴリー名の一覧が表示されます。

3. リングを使って音色カテゴリーを選び、**ENTER**ボタンにタッチします。

音色名の一覧が表示されます。

4. リングを使って音色を選びます。

5. EXITボタンに3回タッチして、“F BUTTON EDIT”画面まで戻ります。

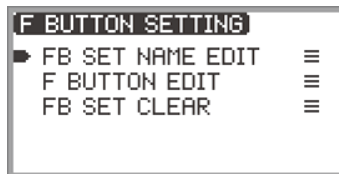


- 上記の手順4で選んだ音色にかかわらず、“F BUTTON EDIT”画面には設定値として“Tone Category”と表示されます。Fボタンセットの保存後にトップ画面に戻ると、下記のように音色番号と音色名の先頭2文字が、Fボタンメニューに表示されます。



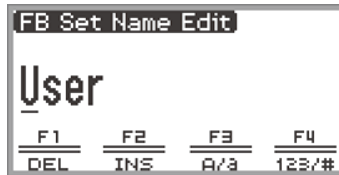
Fボタンセットの名前を変更する

- 名前を変更したいFボタンセットを選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
- FUNCTION**ボタンにタッチして、FUNCTIONメニューを表示します。
- リングを使って、“F BUTTON SETTING” > “FB SET NAME EDIT”の順に選びます。



4. **ENTER**ボタンにタッチします。

Fボタンセット名の編集画面が表示されます。



5. Fボタンセット名を、希望する名前に変更します。

- 操作については、[31ページ「文字を変更するには」](#)、[32ページ「文字を挿入するには」](#)、[32ページ「文字を削除するには」](#)をご参照ください。

6. 必要な変更が済んだら、**ENTER**ボタンにタッチします。

Fボタンセット名を保存するか確認する画面が表示されます。保存せずに編集画面に戻るには、ここでリングの左(NO)にタッチします。



7. 保存するには、リングの右(YES)にタッチします。

保存先のユーザーFボタンセットを選ぶ画面が表示されます。

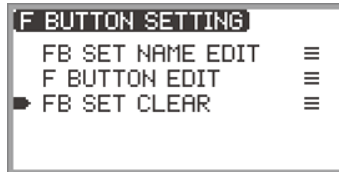
8. リングをなぞって保存先のユーザーFボタンセットを選び、**ENTER**ボタンにタッチします。

“Complete”と表示された後、“F BUTTON SETTING”画面に戻ります。

9. **EXIT**ボタンを長押しして、トップ画面に戻ります。

Fボタンセットを消去する

1. **FUNCTION**ボタンにタッチして、FUNCTIONメニューを表示します。
2. リングを使って、“F BUTTON SETTING” > “FB SET CLEAR”の順に選びます。



3. **ENTER**ボタンにタッチします。
消去するFボタンセットを選ぶ画面が表示されます。



4. リングの上、下にタッチして消去するFボタンセットを選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
Fボタンセットを消去するか確認する画面が表示されます。消去をキャンセルするには、ここでリングの左(NO)にタッチします。
5. 消去するには、リングの右(YES)にタッチします。
“Complete”と表示された後、“F BUTTON SETTING”画面に戻ります。
6. **EXIT**ボタンを長押しして、トップ画面に戻ります。

Fボタン機能一覧

- ・「機能名」の列は、「F BUTTON EDIT」画面に表示される設定値です。
- ・「Fボタン表示」の列は、Fボタンメニューに表示される文字です。
- ・「機能」の列は、Fボタンにタッチしたときに実行される機能です。◆はFボタンを長押ししたときの機能です。

機能名	Fボタン表示	機能	参照先
Demo	DEMO	デモ演奏の開始待ち状態になります。	35ページ「デモ演奏を聴く」
Metronome	METRO	メトロノームの設定画面を表示します。	68ページ「メトロノームを使う」
Split	SPLIT	スプリットのオン/オフを切り替えます。 ◆スプリットポイントの設定画面を表示します。	42ページ「鍵盤を左右に分けて使う（スプリット）」
Layer	LAYER	レイヤーのオン/オフを切り替えます。	40ページ「2つの音色を重ねる（レイヤー）」
Bank	BANK	レジストレーションバンクの選択画面を表示します。	74ページ「レジストレーションに登録する」
Bank Name	BNAME	レジストレーションバンク名の編集画面を表示します。	75ページ「レジストレーションのバンク名を変更する」
Store	STORE	レジストレーションの登録画面を表示します。	74ページ「レジストレーションに登録する」
Freeze	FREEZ	フリーズ機能のオン/オフを切り替えます。 ◆フリーズ機能の設定画面を表示します。	77ページ「フリーズ機能について」
Registration 1	REG 1	レジストレーションのエリア1～エリア4を呼び出します。	76ページ「レジストレーションを呼び出す」
Registration 2	REG 2		
Registration 3	REG 3		
Registration 4	REG 4		
Adaptor	ADPTR	ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターのオン/オフを切り替えます。 ◆ワイヤレスの設定画面を表示します。	135ページ「ワイヤレス機能のオン/オフを切り替える」
Sound Mode	SMODE	サウンドモードの選択画面を表示します。 ◆サウンドモードの設定画面を表示します。	45ページ「ホールシミュレーター／リバーブとサウンドのオン/オフを切り替える」
Piano Position	PPOSI	ピアノポジションの設定画面を表示します。	34ページ「設置場所に合った音響設定を選ぶ（ピアノポジション）」

機能名	Fボタン表示	機能	参照先
Effect	EFFECT	コーラスタイプの選択、およびプリリアンスの調整ができる“EFFECT”画面を表示します。	48ページ「コーラス（コーラス、フランジャー、ショートディレイ）を使う」、49ページ「プリリアンスを調節する」
Mic Effect	MICFX	マイクエフェクトのオン/オフを切り替えます。 ◆マイクエフェクトの設定画面を表示します。	52ページ「マイクエフェクトを使う」
Acoustic Sim.	ACSIM	アコースティックシミュレーターの設定画面を表示します。	50ページ「アコースティックピアノの音の特徴を調整する（アコースティックシミュレーター）」
Mixer	MIXER	ミキサーの設定画面を表示します。	55ページ「ミキサーを使う」
Song	SONG	曲を再生するためのSONGモード画面を表示します。	95ページ「MIDIデータやオーディオデータを再生する」
Arpeggiator	ARPEG	アルペジエーターのオン/オフを切り替えます。 ◆アルペジエーターの設定画面を表示します。	71ページ「アルペジオを自動的に鳴らす（アルペジエーター）」
Duet	DUET	デュエット機能のオン/オフを切り替えます。 ◆デュエット機能の設定画面を表示します。	121ページ「鍵盤を左右に分けて2人で弾く（デュエット）」
Keyboard	KEYBD	FUNCTIONメニューの“KEYBOARD”画面を表示します。	29ページ「FUNCTIONメニューを使う」
EX	EX	EXボタンの設定画面を表示します。	62ページ「EXボタンを使う」
Control	CTRL	CONTROLボタンの設定画面を表示します。	64ページ「CONTROLボタンを使う」
Pedal	PEDAL	EXPRESSION/ASSIGNABLE端子に接続するペダルの設定画面を表示します。	57ページ「EXPRESSION/ASSIGNABLE端子」
Wheel	WHEEL	ピッチベンドホイールの設定画面を表示します。	66ページ「ピッチベンドホイールで音の高さを変える」

機能名	Fボタン表示	機能	参照先
◀◀	◀◀	曲の再生位置を、少し前に戻します。 ◆曲を早戻しします。	95ページ「MIDIデータやオーディオデータを再生する」
▶▶	▶▶	曲の再生位置を、少し先に進めます。 ◆曲を早送りします。	95ページ「MIDIデータやオーディオデータを再生する」
⏸	⏸	再生中の曲を一時停止します。	95ページ「MIDIデータやオーディオデータを再生する」
Song Type	STYPE	ソング設定画面を表示します。	95ページ「MIDIデータやオーディオデータを再生する」
Transpose	TRANS	トランスポーズの設定画面を表示します。	116ページ「半音単位で変更する（トランスポーズ）」
Tone Category	※	指定した音色を呼び出します。	87ページ「Fボタンに音色を割り当てるには」
-----	-----	Fボタンに何も機能を割り当てません。	—

※ 指定した音色の音色番号（3桁）+ 音色名の最初の2文字が表示されます。

曲を聴く (SONG モード)

▶/■ボタンにタッチすると表示されるSONGモード画面で、MIDIデータやオーディオデータを再生できます。

再生できるデータの種類



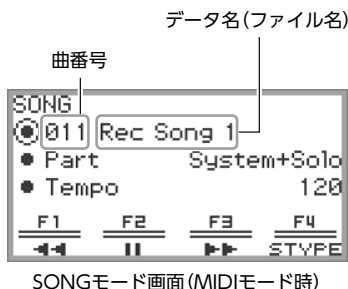
- 本機で再生可能なMIDIデータやオーディオデータをUSBメモリーに保存する操作については、[129ページ](#)「本機で再生するためのMIDIファイルやオーディオファイルをUSBメモリーに保存する」をご参照ください。

■MIDIデータ

本機の内蔵メモリーまたはUSBメモリーに保存されている、下表のMIDIデータを再生することができます。

曲番号※1	曲の種類	拡張子※2
001～010	ユーザー曲：好きな曲を最大10曲まで、本機の内蔵メモリーに保存できます。USBメモリーまたはスマートデバイスから、本機に転送することが可能です。 131ページ 「USBメモリーのファイルを本機に読み込む」および 140ページ 「専用アプリを使う」をご参照ください。	MID, CMF
011～015	MIDIレコーダー曲：本機のカシオMIDIレコーダーで録音した曲です。 101ページ 「MIDIレコーダーで演奏を録音する」をご参照ください。	MRF
016～999	USBメモリー曲：USBメモリーに保存されている標準MIDIファイル (SMFフォーマット0/1) またはカシオMIDIファイル (CMF形式) を、本機に転送しなくても、簡単に再生することができます。	MID, CMF

※1 SONGモード画面で、曲のデータ名の左に表示されます。MIDIデータでは、この番号で曲の種類がわかります。



※2 パソコンなどでファイルを見たときに表示される拡張子です。SONGモード画面には表示されません。

MID：標準MIDIファイル (SMFフォーマット0/1) です。

CMF：カシオMIDIファイル (カシオ独自の拡張MIDIフォーマット) です。

MRF：本機で録音したMIDIレコーダー曲の専用フォーマットです。

■オーディオデータ

本機の内蔵メモリーまたはUSBメモリーに保存されている、下記のオーディオデータを再生することができます。

- WAVファイル (リニアPCM、16bit、44.1kHz、ステレオ、拡張子: .WAV)
- MP3ファイル (MPEG-1 Audio Layer3、44.1kHz/48kHz、ビットレート32～320kbps/可変ビットレート (VBR)対応、モノラル/ステレオ、拡張子: .MP3)

本機で録音したオーディオレコーダー曲は、WAVファイル (ファイル名“TAKE01.wav” ～ “TAKE99.wav”) です。

MIDIデータやオーディオデータを再生する

USBメモリーに保存されている曲を再生したい場合は、あらかじめ本機の**USB Type A**端子にUSBメモリーを装着してください。

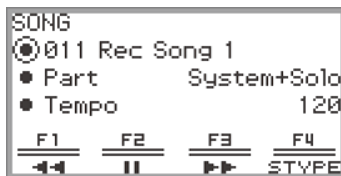
- 本機にUSBメモリーを装着すると、しばらくの間“MOUNTING”と表示されます。表示が消えるまで数十秒間かかることがあります。何も操作せずにお待ちください。
- USBメモリーの取り扱いや、本機への装着、取り外しについては、[124ページ「USBメモリーの準備」](#)をご参照ください。

メモ

- 本機で再生するためのMIDIデータやオーディオデータをUSBメモリーに保存する操作については、[129ページ「本機で再生するためのMIDIファイルやオーディオファイルをUSBメモリーに保存する」](#)をご参照ください。
- USBメモリーから本機の内蔵メモリーにMIDIデータ (ユーザー曲) やオーディオデータを読み込む操作については、[131ページ「USBメモリーのファイルを本機に読み込む」](#)をご参照ください。
- MIDIデータの再生中に、メトロノームを鳴らすことができます。[68ページ「メトロノームの設定を変更する \(テンポ・拍子・パターンなどを変える\)」](#)をご参照ください。“METRONOME”画面で、“While Playing”を“On”にします。

1. ▶/■ボタンにタッチします。

SONGモード画面が表示されます。



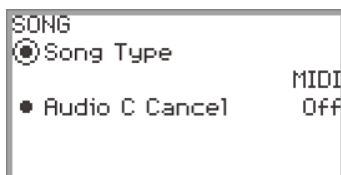
- 本機の電源を入れてから録音 (または再生) した曲がある場合は、最後に録音 (または再生) した曲が再生されます。再生を停止するには▶/■ボタンにタッチします。

メモ

- 下記の操作でも、SONGモード画面を表示できます。
 (1) Fボタンセットの“05 Song Play”を選びます ([28ページ「Fボタンセットを変更するには」](#))。
 (2) **F1**ボタン (SONG) にタッチします。

2. 再生したい曲に応じて、“Song Type”を選びます。

(1) **F4**ボタン (STYPE) にタッチします。



(2) リングをなぞって、“Song Type”の設定値を下記から選びます。

“MIDI” … 内蔵メモリーまたはUSBメモリーのMIDIデータを再生 (MIDIモード)

“Audio(USB Drv)” … USBメモリーのオーディオデータを再生 (オーディオモード)

“Audio(Internal)” … 内蔵メモリーのオーディオデータを再生 (オーディオモード)

(3) **EXIT**ボタンにタッチして、SONGモード画面に戻ります。

3. リングをなぞって、再生したい曲を選びます。

- MIDIデータ、オーディオデータそれぞれの曲については、[94ページ](#)「再生できるデータの種類」をご参照ください。

4. MIDIデータを再生する場合は、必要に応じて再生するパートやテンポを設定します。

- リングの上、下にタッチして設定を変更したい項目を選び、設定値を変更してください。

設定項目	設定値と設定内容
Part	ユーザー曲、USBメモリー曲の場合 L+R：両方のパートを再生します。 L：左手パートだけを再生します。 R：右手パートだけを再生します。
	MIDIレコーダー曲の場合 System+Solo：両方のトラックを再生します。 System：システムトラックだけを再生します。 Solo：ソロトラックだけを再生します。
Tempo	曲を再生するテンポを20 ～ 255（拍/分）の間で設定します。

5. 再生を開始するには、▶/■ボタンにタッチします。

- 再生中は、下記の操作が可能です。
 - F1**ボタン (◀◀) にタッチする：曲の再生位置を、少し前に戻します。
 - F1**ボタン (◀◀) を押さえる：押さえている間、曲を早戻しします。
 - F2**ボタン (||) にタッチする：再生中の曲を一時停止します。一時停止中にタッチすると、再生を再開します。
 - F3**ボタン (▶▶) にタッチする：曲の再生位置を、少し先に進めます。
 - F3**ボタン (▶▶) を押さえる：押さえている間、曲を早送りします。
- 曲の最後までで再生されると、再生は終了します。途中で停止するには▶/■ボタンにタッチします。

MIDIデータ関連の各種操作

MIDIデータの再生中にメトロノームを鳴らす

68ページ「メトロノームの設定を変更する(テンポ・拍子・パターンなどを変える)」をご参照ください。
“METRONOME”画面で、“While Playing”を“On”にすると、MIDIデータの再生中にメトロノームが鳴ります。

MIDIデータの再生音量を調節する(ミキサー設定)

55ページ「各パートの音量・ステレオ定位・エフェクトのかかり方を調節する」をご参照ください。
“MIXER” > “VOLUME” > “MIDI Song”の設定値を変更することで、全体の音量に対するMIDIデータの再生音量を調節することができます。

ユーザー曲を消去する

1. 95ページ「MIDIデータやオーディオデータを再生する」の手順1～3の操作で、消去したいユーザー曲(曲番号001～010)を選びます。
2. ●RECボタンを長押しします。
確認画面が表示されます。操作をキャンセルするには、ここでリングの左(NO)にタッチします。



3. 消去するには、リングの右(YES)にタッチします。
“Complete”と表示され、SONGモード画面に戻ります。



- MIDIレコーダー曲を消去する操作については、106ページ「MIDIレコーダー曲を消去する(曲全体/トラック別)」をご参照ください。

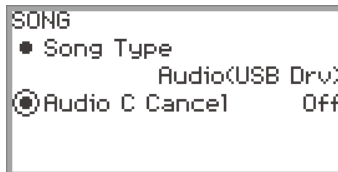
オーディオデータ関連の各種操作

オーディオデータのセンターキャンセル(ボーカルカット)

オーディオセンターキャンセルをオンにすると、再生音のボーカルがカット(消去、低減)されます。センター定位の音をキャンセルする機能なので、ボーカル以外の音もカットされる場合があります。効果の度合いは、再生するオーディオデータによって異なります。

■オーディオセンターキャンセルのオン/オフを切り替えるには

1. ▶/■ボタンにタッチして、SONGモード画面を表示します。
2. F4ボタン(STYPE)にタッチします。
3. リングの上、下にタッチして“Audio C Cancel”を選びます。



4. リングをなぞって、設定値を“On”と“Off”の間で切り替えます。
5. EXITボタンにタッチして、SONGモード画面に戻ります。

オーディオデータの再生音量や再生時のエフェクトのかかり方を調節する (ミキサー設定)

55ページ[各パートの音量・ステレオ定位・エフェクトのかかり方を 調節する]をご参照ください。

- “MIXER” > “VOLUME” > “Audio Song”の設定値を変更することで、全体の音量に対するオーディオデータの再生音量を調節することができます。
- “MIXER” > “HALL/REV.” > “AudioSongSend”の設定値を変更することで、オーディオデータのホールシミュレーター／リバーブへのセンド値を調節することができます。

演奏を録音する

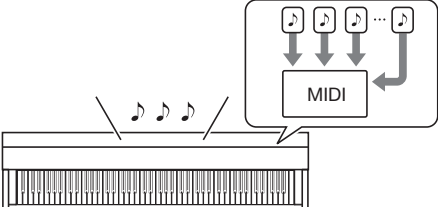
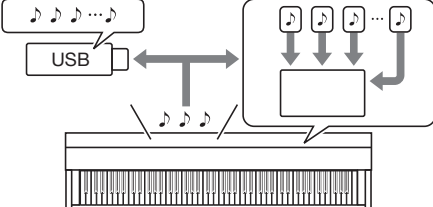
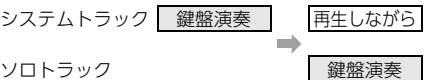
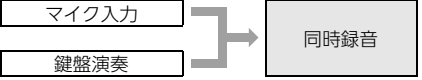
鍵盤演奏を本機で録音し、再生できます。録音方法は「MIDIレコーダー」と「オーディオレコーダー」の2種類があり、それぞれの特長に合わせて選ぶことができます。

重要

- 本機の故障、修理などによる録音内容の消去により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 録音中に電源が切れると、録音してあった内容はすべて消去されます。

MIDIレコーダーとオーディオレコーダーの特長

■録音の特長

MIDIレコーダー	オーディオレコーダー
MIDIデータ※¹にして、内蔵メモリーにある2つのトラック（演奏が記録されるデータ領域）へ録音します。  • 鍵盤の演奏情報（鍵盤の押鍵や離鍵、タッチの強さなど）をMIDIデータとして記録します。 • MIDIデータは、オーディオデータと比較すると極めてデータサイズが小さく、コンピューターなどで後から編集することができるという利点があります。 • 1ファイルあたり約30,000音符（システムトラックとソロトラックの合計）、最大5ファイルまで録音可能です。	オーディオデータ※²にして、内蔵メモリーまたはUSBメモリーへ録音します。  • 携帯音楽プレーヤーやテープレコーダーで録音するのと同様に、音そのものをオーディオデータとして記録します。 • オーディオデータのファイルは、MIDIデータと比較するとサイズが極めて大きいです。しかし、パソコンや携帯音楽プレーヤーなどで簡単に聴けるという利点があります。 • 内蔵メモリーには最長約18分、最大99ファイルまで録音可能です（全ファイル合計で18分以内）。 • USBメモリーには最長約25分、最大99ファイルまで録音可能です。
<u>こんなこともできます</u> ⇒トラックを再生しながら、もう片方のトラックに録音 	<u>こんなこともできます</u> ⇒マイクを接続して、歌と演奏を同時に録音 

■再生の特長

MIDIレコーダー	オーディオレコーダー
システムトラックとソロトラック (両方またはどちらか) を再生します。 MIDIレコーダーは、MIDIデータとして記録されている演奏情報に従って、本機の内蔵音源を自動演奏することで再生しています。	内蔵メモリーまたはUSBメモリーのオーディオデータを再生します。 オーディオレコーダーは、オーディオデータとして記録されている音の波形そのものを再生しています。
<u>こんなこともできます</u> ⇒ システムトラックやソロトラックの再生に合わせて、鍵盤演奏 システムトラック 再生しながら ソロトラック 再生しながら 鍵盤演奏 ⇒ 録音した後、テンポを変える 例えば、遅いテンポで録音しておいて、速いテンポで再生できます。	<u>こんなこともできます</u> ⇒ オーディオデータを再生しながら、鍵盤演奏 オーディオデータを再生 + 鍵盤演奏

※1 MIDIについて

MIDI(ミディ)とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略で、メーカーを問わず、電子楽器同士あるいは電子楽器とコンピューター機器との間で演奏情報(鍵盤の押鍵や離鍵、タッチの強さなど)をやり取りできるように定めた統一規格のことです。やり取りする演奏情報をMIDIデータと呼びます。

※2 オーディオデータについて

本機で録音したオーディオデータは、WAVファイル(リニアPCM、16bit、44.1kHz、ステレオ)の形式で保存されます。



- 本機で扱うことのできるデータのファイル形式について詳しくは、[125ページ「本機で扱えるデータの種類」](#)を参照してください。
- 本機に録音したデータは、USBメモリーに保存できます。[129ページ「本機のデータをUSBメモリーに保存する」](#)をご参照ください。

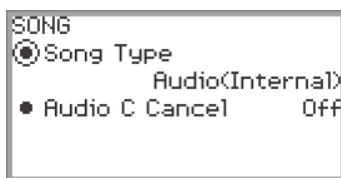
MIDIレコーダーで演奏を録音する

MIDIレコーダーは、鍵盤演奏やペダル操作などをMIDIデータとして記録します。

MIDIレコーダーで録音する

1. 本機をMIDIモードにします。

- 本機をお買い上げ後のままの設定では、本機はMIDIモードです。この場合は、手順2にお進みください。
- (1) **FUNCTION**ボタンにタッチして、FUNCTIONメニューを表示します。
- (2) リングを使って“SONG”を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。



- (3) リングをなぞって、“Song Type”の設定値を“MIDI” (MIDIモード) にします。
- (4) **EXIT**ボタンを長押しして、設定を終了します。

2. 必要に応じて、録音時の音色やエフェクト、テンポなどの設定をします。

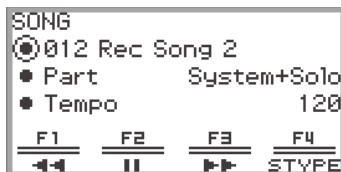
- 拍子やテンポの設定、録音中にメトロノームを鳴らすかどうかの設定については、[68ページ](#)[メトロノームの設定を変更する (テンポ・拍子・パターンなどを変える)]をご参照ください。録音中にメトロノームを鳴らしたいときは、“METRONOME”画面で“While Recording”を“On”にします。
- MIDIレコーダー曲には2つの録音トラック (システムトラックとソロトラック) があり、一部の設定 (エフェクトなど) は、システムトラックだけに記録されます。トラックごとの記録内容については、[107ページ](#)[MIDIレコーダー曲に記録される内容について]をご参照ください。

3. 必要に応じて、録音する前に録音先の曲番号を選びます。

- この操作は省略しても構いません。
- この操作で録音済みの曲番号を選ぶと、前回録音した内容は上書きされます。意図的に上書きしたいときや、特定の曲番号を選びたいときに限り、下記のとおり to 操作します。
- (1) **▶/■**ボタンにタッチして、SONGモード画面を表示します。



(2) リングをなぞって、曲番号011～015のいずれかを選びます。



- MIDIレコーダー曲の曲番号については、[103ページ](#)の「メモ」をご参照ください。

4. ●RECボタンにタッチします。

- RECボタンが赤色で点滅し、録音待ちの状態になります。



- ここでもう一度●RECボタンにタッチすると、録音待ちがキャンセルされます。
- ここで●RECボタンを長押しすると、録音トラックの選択とプリカウント設定ができます。詳しくは[103ページ「MIDIレコーダー録音設定について」](#)をご参照ください。

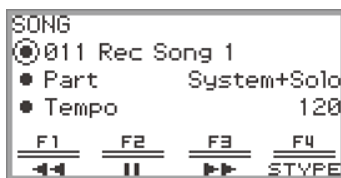
5. 録音を開始するには、▶/■ボタンにタッチします。

録音が始まると、●RECボタンが赤色で点灯します。

- 鍵盤を押して演奏を始めることで、自動的に録音を開始することもできます。また下記の操作でも、録音が始まります。
 - ーペダルを踏む
 - ーレジストレーションを呼び出す ([76ページ](#))
 - ーEXボタンまたはCONTROLボタンを押す
 - ーピッチベンドホイールを上下に動かす
- 録音中に残り容量がわずかになると、●RECボタンが点滅します。残り容量がなくなると●RECボタンが消灯し、自動的に録音が止まります。
- 演奏ミスなどで録音をやり直したい場合は、録音中に●RECボタンを長押ししてください。録音していたデータが破棄され、録音待ちの状態に戻ります。

6. 録音を終了するには、●RECボタンにタッチします。

- RECボタンが白色の点灯に戻り、SONGモード画面が表示されます。



- 録音されたMIDIレコーダー曲をすぐに再生したい場合は、▶/■ボタンにタッチします。
- 再生の操作について詳しくは、[105ページ「MIDIレコーダー曲を再生する」](#)をご参照ください。

メモ

- MIDIレコーダー曲は、曲番号011～015 (内蔵メモリーの“011 Rec Song 1”～“015 Rec Song 5”)に保存されます (最大5曲まで録音できます)。録音するたびに、まだ録音されていない最小の曲番号が自動的に選択されます。ただし、下記にご注意ください。
 - 手順3や手順6のようにSONGモード画面が表示されており、曲番号011～015が選ばれている状態から●RECボタンにタッチして録音を開始すると、選ばれている曲番号に上書き録音されます。
 - 5曲とも録音済みで、手順3の操作を省略した場合、手順4で●RECボタンにタッチすると、“Data Full”と表示され、録音は開始されません。[106ページ「MIDIレコーダー曲を消去する \(曲全体/トラック別\)」](#)の操作で曲を消去することで、録音できるようになります。
- 録音中は、**FUNCTION**ボタンは使えなくなります。また、録音中に操作できないFボタンメニューの機能名は、“----”と表示されます。

■MIDIレコーダー録音設定について

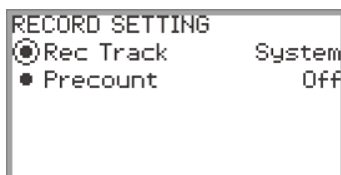
MIDIレコーダー曲には2つの録音トラック (システムトラックとソロトラック) があり、どちらのトラックに録音するかを選ぶことができます。また、録音が始まるタイミングを知らせるプリカウントを鳴らす設定ができます。

1. [101ページ「MIDIレコーダーで録音する」](#)の手順1～4を実行します。

●RECボタンが赤色で点滅し、録音待ちの状態になります。

2. ●RECボタンを長押しします。

“RECORD SETTING”画面が表示されます。(このとき、録音待ちの状態は維持されています。)



3. リングの上、下にタッチして、設定を変更したい項目を選びます。

- 設定項目ごとの設定値と設定内容は、下表のとおりです。

設定項目	設定値と設定内容
Rec Track	System：システムトラックに録音します。 Solo：ソロトラックに録音します。 トラックごとの記録内容については、 107ページ「MIDIレコーダー曲に記録される内容について」 をご参照ください。
Precount	録音を始める前のプリカウントを設定します。 Off：プリカウントを鳴らしません。 1 Measure：1小節分のプリカウントを鳴らします。 2 Measure：2小節分のプリカウントを鳴らします。

4. 選んだ項目の設定値を変更します。

- リングをなぞって、希望する設定値に変更します。

5. 手順3、4の操作を、必要なだけ繰り返します。

6. 変更後の設定で録音を開始するには、101ページ「MIDIレコーダーで録音する」の手順5から操作を再開してください。

- ここで録音するのをやめるには、●RECボタンにタッチします。●RECボタンが白色の点灯に戻ります。

2つめのトラックに重ねて録音する(システムトラック+ソロトラック)

MIDIレコーダー曲の録音済みのトラックを再生しながら、もう片方のトラックに録音することができます。



- 重ね録音に失敗しても、失敗したトラックだけを消去して録音し直すことができます。106ページ「MIDIレコーダー曲を消去する(曲全体/トラック別)」をご参照ください。

1. 105ページ「MIDIレコーダー曲を再生する」の操作で、録音済みのMIDIレコーダー曲を選びます。

- 選んだ曲を再生して、録音内容や録音済みのトラックなどを確認します。

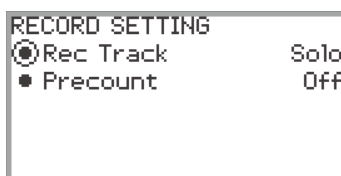
2. ●RECボタンにタッチします。

- RECボタンが赤色で点滅し、録音待ちの状態になります。

3. ●RECボタンを長押しして、“RECORD SETTING”画面を表示します。

4. リングをなぞって、“Rec Track”の設定値を“System”または“Solo”にします。

- 録音済みのシステムトラックを再生しながらソロトラックに重ねて録音するには“Solo”、録音済みのソロトラックを再生しながらシステムトラックに重ねて録音するには“System”を選んでください。

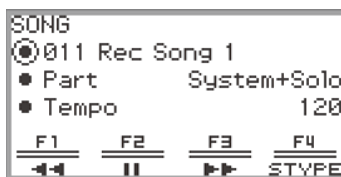


5. この後は、101ページ「MIDIレコーダーで録音する」の手順5以降と同様の操作で、録音を開始、終了してください。

MIDIレコーダー曲を再生する

1. ▶/■ボタンにタッチします。

SONGモード画面が表示されます。



- 本機の電源を入れてから録音（または再生）した曲がある場合は、最後に録音（または再生）した曲が再生されます。再生を停止するには▶/■ボタンにタッチします。
- SONGモード画面ではMIDIレコーダー曲だけでなく、さまざまな形式のMIDIデータやオーディオデータを再生することができます。詳しくは、[94ページ「曲を聴く（SONGモード）」](#)をご参照ください。

2. オーディオモードになっている場合は、MIDIモードに変更します。

- SONGモード画面に“Part”、“Tempo”の表示がない場合は、オーディオモードです。下記操作でMIDIモードにしてください。
 - (1) **F4**ボタン（STYPE）にタッチします。
 - (2) リングをなぞって、“Song Type”の設定値を“MIDI”に変更します。
 - (3) **EXIT**ボタンにタッチして、SONGモード画面に戻ります。

3. リングをなぞって、再生したいMIDIレコーダー曲を選びます。

MIDIレコーダー曲は、“011 Rec Song 1”～“015 Rec Song 5”の5つです。録音済みの曲番号を選んでください。

4. 必要に応じて、再生するパートやテンポを設定します。

リングの上、下にタッチして設定を変更したい項目を選び、設定値を変更してください。

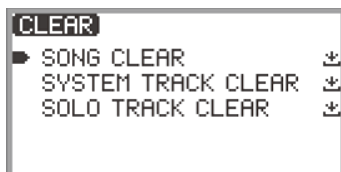
設定項目	設定値と設定内容
Part	System+Solo：両方のトラックを再生します。 System：システムトラックだけを再生します。 Solo：ソロトラックだけを再生します。
Tempo	曲を再生するテンポを20 ～ 255（拍/分）の間で設定します。

5. 再生を開始するには、▶/■ボタンにタッチします。

- 再生中は、下記の操作が可能です。
 - F1**ボタン（◀◀）にタッチする：再曲の再生位置を、少し前に戻します。
 - F1**ボタン（◀◀）を押さえる：押さえている間、曲を早戻しします。
 - F2**ボタン（||）にタッチする：再生中の曲を一時停止します。一時停止中にタッチすると、再生を再開します。
 - F3**ボタン（▶▶）にタッチする：曲の再生位置を、少し先に進めます。
 - F3**ボタン（▶▶）を押さえる：押さえている間、曲を早送りします。
- 曲の最後までで再生されると、再生は終了します。途中で停止するには▶/■ボタンにタッチします。

MIDIレコーダー曲を消去する(曲全体/トラック別)

1. 105ページ「MIDIレコーダー曲を再生する」の操作で、消去したいMIDIレコーダー曲を選びます。
2. ●RECボタンを長押しします。
“CLEAR”画面が表示されます。



3. リングの上、下にタッチして、消去の対象(曲全体またはトラック)を選びます。

メニュー項目	消去の対象
SONG CLEAR	曲全体を消去します。
SYSTEM TRACK CLEAR	システムトラックだけを消去します。
SOLO TRACK CLEAR	ソロトラックだけを消去します。

4. ENTERボタンにタッチします。
確認画面が表示されます。操作をキャンセルするには、ここでリングの左(NO)にタッチします。



5. 消去するには、リングの右(YES)にタッチします。
“Complete”と表示され、SONGモード画面に戻ります。

MIDIレコーダー曲に記録される内容について

「システム」列はシステムトラック、「ソロ」列はソロトラックへの各項目の記録可否を表します。

○ … 記録されます。× … 記録されません。

操作または設定	システム	ソロ
鍵盤操作	○	○
ペダル操作※ ¹	○※ ²	○※ ²
ピッチベンドホイール操作	○	○
ピッチベンドレンジ	○	○
EXボタン操作	○	○※ ³
CONTROLボタン操作	○	○
アコースティックシミュレーター	○	×
コーラストイプ	○	×
ブリリアンス	○	×
ホールシミュレーター／リバーブ		
On/Off	○	×
タイプ	○	×
サラウンド設定	○	×
ポルタメント		
ポルタメントOn/Off	○	○※ ⁴
ポルタメントタイム	○	○※ ⁴
音色変更	○	○※ ⁴
レイヤー、スプリット	○	×
ミキサー		
音量		
鍵盤全体の音量	○	×
鍵盤各パートの音量	○	○※ ⁴
ステレオ定位（パン）		
鍵盤各パートのパン	○	○※ ⁴
ホールシミュレーター／リバーブ		
全体としてのリバーブの深さ（リターン値）	○	×
鍵盤各パートからのセンド値	○	○※ ⁴
コーラス		
鍵盤各パートからのセンド値	○	○※ ⁴
オクターブシフト	○※ ⁵	○※ ⁴ ※ ⁵

操作または設定	システム	ソロ
パートファインチューン	○	○※4
音律設定	○	×
デュエット設定	○	×
メトロノーム		
テンポ	○	×
拍子	○	×

※1 本機に接続されているペダルによる操作

※2 **EXPRESSION/ASSIGNABLE**端子に接続したペダルへの割り当て機能によっては記録されません。

※3 **EX**ボタンへの割り当て機能によっては記録されません。

※4 Upper1のみ

※5 オクターブシフトしたノートが録音されます。

オーディオレコーダーで演奏を録音する

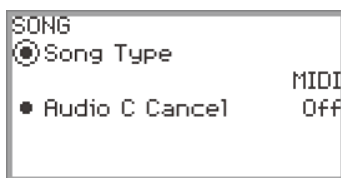
オーディオレコーダーは、下記のような本機から出力される音を、オーディオデータとして録音します。

- 鍵盤演奏
- Bluetoothオーディオ接続したスマートデバイスからの入力音 (内蔵メモリーへの録音時のみ)
- マイクからの入力音声 など

オーディオレコーダーで録音する

1. 本機をオーディオモードにします。

- (1) **FUNCTION**ボタンにタッチして、**FUNCTION**メニューを表示します。
- (2) リングを使って“**SONG**”を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。



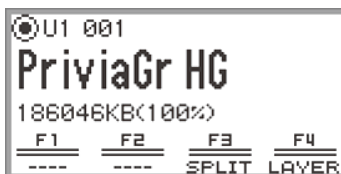
- (3) リングをなぞって、“Song Type”の設定値を下記から選びます。
 “Audio(USB Drv)”オーディオモードでUSBメモリーに録音
 “Audio(Internal)”オーディオモードで内蔵メモリーに録音
- (4) **EXIT**ボタンを長押しして、設定を終了します。

2. 手順1で“Audio(USB Drv)”を選んだ場合は、本機の**USB** Type A端子にUSBメモリーを装着します。

- 本機にUSBメモリーを装着すると、しばらくの間 “MOUNTING”と表示されます。表示が消えるまで数十秒間かかることがあります。何も操作せずにお待ちください。
- USBメモリーの取り扱いや、本機への装着や取り外しについては、[127ページ「USBメモリーを本機に装着する・取り外す」](#)をご参照ください。

3. ●**REC**ボタンにタッチします。

- REC**ボタンが赤色で点滅し、録音待ちの状態になります。
- ここでもう一度●**REC**ボタンにタッチすると、録音待ちがキャンセルされます。
- 内蔵メモリーに録音する場合のみ、画面上に内蔵メモリーの残り容量が表示されます。



- 内蔵メモリーに録音する場合、本機の状態によって、しばらくの間 “Wait...” と表示される場合があります。この場合は、表示が消えるまでお待ちください。

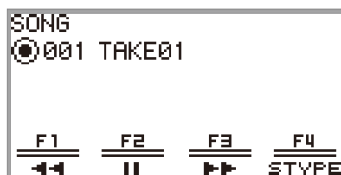
4. 録音を開始するには、▶/■ボタンにタッチします。

録音が始まると、●RECボタンが赤色で点灯します。

- 鍵盤を押して演奏を始めることで、自動的に録音を開始することもできます。また下記の操作でも、録音が始まります。
 - ーペダルを踏む
 - ーレジストレーションを呼び出す(76ページ)
 - ーEXボタンまたはCONTROLボタンを押す
 - ーピッチベンドホイールを上下に動かす
- 録音中に録音可能な残り時間がわずかになると、●RECボタンが点滅します。残り容量がなくなると●RECボタンが消灯し、自動的に録音が止まります。
- 演奏ミスなどで録音をやり直したい場合は、録音中に●RECボタンを長押ししてください。録音していたデータが破棄され、録音待ちの状態に戻ります。

5. 録音を終了するには、●RECボタンにタッチします。

●RECボタンが白色の点灯に戻り、SONGモード画面が表示されます。



- 録音されたオーディオレコーダー曲をすぐに再生したい場合は、▶/■ボタンにタッチします。
- 再生の操作について詳しくは、111ページ「オーディオレコーダー曲を再生する」をご参照ください。



- オーディオレコーダー曲は、“TAKE**.wav”(**は01～99)というファイル名で保存されます(内蔵メモリーとUSBメモリーそれぞれ最大99曲まで録音できます)。録音するたびに、保存先のメモリー(内蔵メモリーまたはUSBメモリー)内にある、**の数値が最も大きい番号に1を加えた番号のファイルが、自動的に作成されます。なお、“Too Many Files”というメッセージが表示されて録音を開始できない場合の対処については、151ページ「エラー表示一覧」をご参照ください。
- 録音中は、FUNCTIONボタンは使えなくなります。また、録音中に操作できないFボタンメニューの機能名は、“—”と表示されます。
- 本機のオーディオレコーダーは、WAV形式で録音します。MP3形式での録音には対応していません。
- 本機で録音・再生することが可能なオーディオデータは、下表のとおりです。

WAV形式 (録音・再生)	USBメモリー	• 1ファイルあたり最長約25分、最大99ファイルまで録音可能です(ただし、使用するUSBメモリーの空き容量に依存します)。 • 1ファイルの再生時間に制限はありません(USBメモリーの空き容量に依存)。
	内蔵メモリー	• 内蔵メモリーに何もデータがないとき、最長約18分まで録音可能です。録音時間の合計が約18分以内の範囲で、最大99ファイルまで録音できます。 • 1ファイルの再生時間は、最長で約18分までです。

MP3形式 (再生のみ)	USBメモリー	1ファイルの再生時間に制限はありません (USBメモリーの空き容量に依存)。
	内蔵メモリー	ファイルサイズが186046KB以内のMP3ファイルを再生することが可能です。最長再生時間は、MP3ファイルのビットレートによって変わります。

- WAV形式、MP3形式のオーディオデータは、USBメモリーから内蔵メモリーに読み込んだり、内蔵メモリーからUSBメモリーに保存したりすることができます。詳しくは、[124ページ「USBメモリーを使用する」](#)をご参照ください。
- 本機で再生することが可能なオーディオデータのフォーマットは、下記のとおりです。再生の操作については、[111ページ「オーディオレコーダー曲を再生する」](#)をご参照ください。

WAV形式のオーディオデータ

ファイル拡張子	.WAV
フォーマット	リニアPCM
サンプリング周波数	44.1kHz
量子化ビット数	16bit
チャンネル	ステレオ

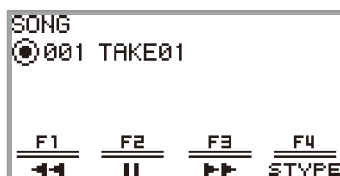
MP3形式のオーディオデータ

ファイル拡張子	.MP3
フォーマット	MPEG-1 Audio Layer3
サンプリング周波数	44.1kHz/48kHz
ビットレート	32～320kbps/可変ビットレート(VBR)対応
チャンネル	モノラル/ステレオ

オーディオレコーダー曲を再生する

1. ▶/■ボタンにタッチします。

SONGモード画面が表示されます。



- 本機の電源を入れてから録音 (または再生) した曲がある場合は、最後に録音 (または再生) した曲が再生されます。再生を停止するには▶/■ボタンにタッチします。
- SONGモード画面ではオーディオレコーダー曲だけでなく、さまざまな形式のMIDIデータやオーディオデータを再生することができます。詳しくは、[94ページ「曲を聴く \(SONGモード\)」](#)をご参照ください。

2. MIDIモードになっている場合は、オーディオモードに変更します。

- SONGモード画面に“Part”、“Tempo”の表示がある場合は、MIDIモードです。下記操作でオーディオモードにしてください。

- (1) **F4**ボタン(STYPE)にタッチします。
- (2) リングをなぞって、“Song Type”の設定値を“Audio(USB Drv)”(USBメモリーの曲を再生する場合)または“Audio(Internal)”(内蔵メモリーの曲を再生する場合)に変更します。
- (3) **EXIT**ボタンにタッチして、SONGモード画面に戻ります。

3. リングをなぞって、再生したいオーディオレコーダー曲を選びます。

4. 再生を開始するには、▶/■ボタンにタッチします。

- 再生中は、下記の操作が可能です。
 - F1**ボタン(◀◀)にタッチする：曲の再生位置を、少し前に戻します。
 - F1**ボタン(◀◀)を押さえる：押さえている間、曲を早戻しします。
 - F2**ボタン(■)にタッチする：曲を一時停止します。一時停止中にタッチすると、再生を再開します。
 - F3**ボタン(▶▶)にタッチする：曲の再生位置を、少し先に進めます。
 - F3**ボタン(▶▶)を押さえる：押さえている間、曲を早送りします。
- 曲の最後まで再生されると、再生は終了します。途中で停止するには▶/■ボタンにタッチします。

オーディオレコーダー曲を消去する

1. 111ページ「オーディオレコーダー曲を再生する」の操作で、消去したいオーディオレコーダー曲を選びます。

2. ●RECボタンを長押しします。

下記の確認画面が表示されます。操作をキャンセルするには、ここでリングの左(NO)にタッチします。



3. 消去するには、リングの右(YES)にタッチします。

消去中は“Wait...”と表示されます。消去が完了すると“Complete”と表示され、SONGモード画面に戻ります。

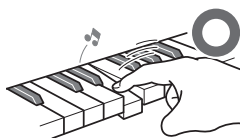
鍵盤の感度を調節する

鍵盤を押す強弱で音量を変える(タッチレスポンス)

タッチレスポンス機能とは、鍵盤を押す強さ(速さ)で音量を変化させる機能です。タッチレスポンス機能を使うとアコースティックピアノのように鍵盤を押す強さ(速さ)で音量や音質が変化し、演奏の表現が豊かになります。



すばやく押すと大きな音が出ます



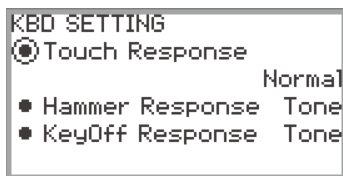
ゆっくり押すと小さな音が出ます



強く押しすぎないようにしましょう

タッチレスポンスの感度を変更する

1. **FUNCTION**ボタンにタッチして、**FUNCTION**メニューを表示します。
2. リングを使って、“**KEYBOARD**” > “**KBD SETTING**”の順に選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
“**KBD SETTING**”画面が表示されます。
 - “**Touch Response**”にカーソル(O)があるのをご確認ください。



3. “Touch Response”の設定値を変更します。

設定値	設定内容
Off	タッチレスポンスを解除します。鍵盤を押す速度が変化しても音量は一定のままです。
Light 2 Light 1	大きな音を出しやすい設定になり、“Normal”よりもタッチが軽く感じられます。“Light 2”は“Light 1”よりもタッチが軽くなります。
Normal	標準的な設定です。
Heavy 1 Heavy 2	大きな音を出しにくい設定になり、“Normal”よりもタッチが重く感じられます。“Heavy 2”は“Heavy 1”よりもタッチが重くなります。

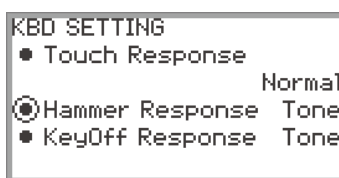
- リングをなぞって、希望する設定値に変更します。

押鍵から音が鳴るまでのタイミングを調節する (ハンマーレスポンス)

アコースティックピアノは鍵域ごとに弦をたたくハンマーの大きさが違うため、発音のタイミングが鍵域により異なります。FUNCTIONメニューの“Hammer Response”を使って、この発音のタイミングを選ぶことができます。

ハンマーレスポンスを調節する

1. **FUNCTION**ボタンにタッチして、FUNCTIONメニューを表示します。
2. リングを使って、“KEYBOARD” > “KBD SETTING” > “Hammer Response”の順に選びます。



3. “Hammer Response”の設定値を変更します。

設定値	設定内容
Tone	選択した音色に合った値が自動的に設定されます。
Off	鍵域にかかわらず全鍵域で最も早く反応します。
1 ～ 10	数値が大きくなるにつれて、発音のタイミングが遅くなります。

- リングをなぞって、希望する設定値に変更します。

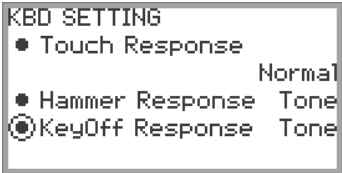
離鍵中の消音タイミングを調節する(キーオフレスポンス)

グランドピアノでは鍵盤を離すと弦にダンパーが降りて音が鳴り止みます。離鍵中の鍵盤の動きをもとに、グランドピアノの音が鳴り止むタイミングをデジタル的にシミュレートするのが、本機のキーオフレスポンス機能です。この機能によって、グランドピアノのように同音連打の際に鍵盤を戻しきらなくても次の音がしっかりと発音され、音と音のつなぎ方や切り方などの細かなタッチ表現を可能にし、自然な感覚で演奏できます。

また、FUNCTIONメニューの“KeyOff Response”を使って、消音までのタイミングを調節することができます。

キーオフレスポンスを調節する

- 1. FUNCTIONボタンにタッチして、FUNCTIONメニューを表示します。
- 2. リングを使って、“KEYBOARD” > “KBD SETTING” > “KeyOff Response”の順に選びます。



- 3. “KeyOff Response”の設定値を変更します。

設定値	設定内容
Tone	選択した音色に合った値が自動的に設定されます。
1 ～ 3	数値が大きくなるほど、消音までのタイミングが遅くなります。

- リングをなぞって、希望する設定値に変更します。

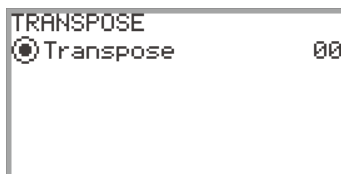
音の高さを調節する

半音単位で変更する(トランスポーズ)

音の高さを半音単位で全体的に上げたり下げたりします。弾いた鍵盤に対して実際に鳴る音の調(キー)を移調して演奏することができます。

トランスポーズする

1. Fボタンセットの“12 Control”を選びます(28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
2. **F2**ボタン(TRANS)にタッチします。
“TRANPOSE”画面が表示されます。



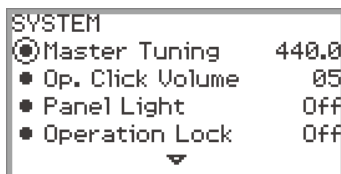
3. リングをなぞって、設定値を変更します。
 - -12～+12半音の間で変更できます。

音の高さを微調整する(マスターチューニング)

楽器の音の高さを、全体的に少しだけずらします。

- A4の音の周波数を設定します。周波数の設定範囲は415.5～465.9Hz(初期値440.0Hz)です。
- 0.1Hz単位で変更することができます。

1. **FUNCTION**ボタンにタッチして、FUNCTIONメニューを表示します。
2. リングの上、下にタッチして“SYSTEM”を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
“SYSTEM”画面が表示されます。
 - “Master Tuning”にカーソル(O)があるのをご確認ください。



3. “Master Tuning”の設定値を変更します。
 - リングをなぞって、希望する設定値に変更します。

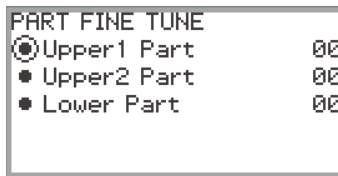
各パート(Upper 1/Upper 2/Lower)を個別にチューニングする (パートファインチューン)

楽器全体のチューニングに対して、各パートのチューニングを-99～+99セント(100セント=1半音)の間で個別に微調整することが可能です。各パートのチューニングを少しずらすことで、厚みのあるアンサンブル感を出すことができます。



- パートについては、[40ページ「2つの音色を重ねる\(レイヤー\)」](#)および[42ページ「鍵盤を左右に分けて使う\(スプリット\)」](#)をご参照ください。

- 1. FUNCTION**ボタンにタッチして、FUNCTIONメニューを表示します。
- 2. リング**を使って、“KEYBOARD” > “PART FINE TUNE”の順に選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
“PART FINE TUNE”画面が表示されます。



- 3. リング**の上、下にタッチして、チューニングを微調整したいパートを選びます。
- 4. 選んだパートの設定値を変更**します。
 - リングをなぞって、希望する設定値に変更します。
- 5. 手順3、4の操作を、必要なだけ繰り返します。**

音の高さをオクターブ単位で変更する(オクターブシフト)

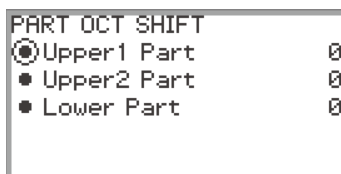
音の高さを、オクターブ単位で上げたり下げたりすることができます。レイヤーやスプリットを使ったときの各パート(Upper 1、Upper 2、Lower)個別に設定することが可能です。



- パートについては、[40ページ「2つの音色を重ねる\(レイヤー\)」](#)および[42ページ「鍵盤を左右に分けて使う\(スプリット\)」](#)をご参照ください。

各パート(Upper 1/Upper 2/Lower)を個別にオクターブシフトする

1. **FUNCTION**ボタンにタッチして、FUNCTIONメニューを表示します。
2. リングを使って、“KEYBOARD” > “PART OCT SHIFT”の順に選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
“PART OCT SHIFT”画面が表示されます。



3. リングの上、下にタッチして、オクターブシフトしたいパートを選びます。
4. 選んだパートの設定値を変更します。
 - リングをなぞって、希望する設定値に変更します。
5. 手順3、4の操作を、必要なだけ繰り返します。

鍵盤の音律を変える(スケールチューニング)

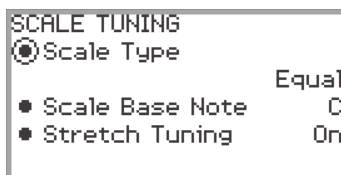
鍵盤の音律を設定して通常の音律(12平均律)以外の音律を使う音楽(インド音楽、アラビア音楽、クラシック音楽など)の演奏ができます。下記の17種類のプリセットの音律から、好きな音律を選ぶことができます。

音律を変える

1. **FUNCTION**ボタンにタッチして、**FUNCTION**メニューを表示します。
2. リングを使って、“**KEYBOARD**” > “**SCALE TUNING**”の順に選び、**ENTER**ボタンにタッチします。

“**SCALE TUNING**”画面が表示されます。

- “Scale Type”にカーソル(O)があるのをご確認ください。



3. “Scale Type”(音律のタイプ)の設定値を変更します。

- リングをなぞって、希望する設定値に変更します。
- 下表の音律から選ぶことができます。

設定値	音律
Equal	平均律
Pure Major	純正律長調
Pure Minor	純正律短調
Pythagorean	ピタゴラス音律
Kirnberger 3	キルンベルガー第三法
Werckmeister	ヴェルクマイスター第一技法第三法
Mean-Tone	ミーントーン
Rast	ラスト
Bayati	バヤティ
Hijaz	ヒジャーズ
Saba	サバ
Dashti	ダシュティ
Chahargah	チャハルガー
Segah	セガー
Gurjari Todi	グジャリ・トーディ
Chandrakauns	チャンドラコونس
Charukeshi	チャルケシ

4. 必要に応じて、音律の基音を変更します。

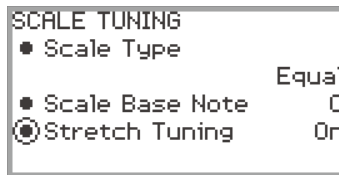
- (1) “SCALE TUNING”画面でリングの上、下にタッチして、“Scale Base Note”を選びます。
- (2) リングをなぞって、希望する基音に変更します。

ストレッチチューニングのオン/オフを切り替える

一般的にピアノでは高音はより高めに、低音はより低めに調律します。この調律をストレッチチューニングといいます。本機では、ストレッチチューニングをかけずに演奏したいときは、オフにすることができます。

1. FUNCTIONボタンにタッチして、FUNCTIONメニューを表示します。

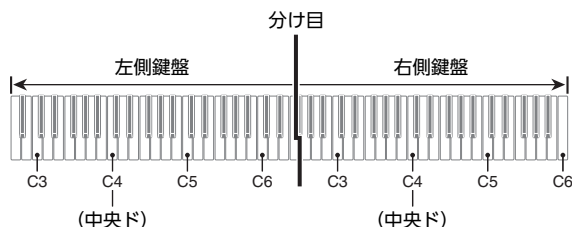
2. リングを使って、“KEYBOARD” > “SCALE TUNING” > “Stretch Tuning”の順に選びます。



3. リングをなぞって、設定値を“On”と“Off”の間で切り替えます。

鍵盤を左右に分けて2人で弾く(デュエット)

鍵盤の中央から右側と左側で同じ音域にすることができます。左側で先生がお手本演奏をして、右側で生徒さんが同じメロディーを弾く、といった活用ができます。また、左右の鍵盤それぞれの音域は、オクターブ単位で変更できます。

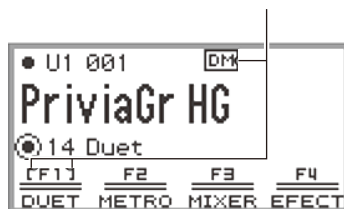


デュエット機能を使う

1. Fボタンセットの“14 Duet”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
2. F1ボタン(DUET)にタッチします。

デュエットがオンになり、液晶画面に **DM** インジケーターが表示されます。

デュエットがオンのとき表示されます

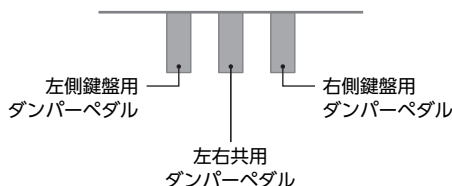


3. 必要に応じて、デュエット機能の設定を変更します。

- 鍵盤の音域をオクターブ単位で変更したり、左側鍵盤と右側鍵盤それぞれの出力音を左右のスピーカーに分けたりすることが可能です。123ページ「デュエット機能の設定を変更する」をご参照ください。

4. 鍵盤の左側と右側それぞれを使って、デュエット演奏しましょう。

- デュエットでは、両端のペダルがそれぞれ左側鍵盤用と右側鍵盤用のダンパーペダル、中央のペダルが左右共用のダンパーペダルになります。ペダルの効果は、踏み込む深さに応じて連続的に変化します (付属のペダルユニット使用時)。



5. デュエットをオフにするには、**F1**ボタン(DUET)にタッチして、液晶画面の**DM**インジケーターを消します。



- **EXPRESSION/ASSIGNABLE**端子に別売のサステインペダルを接続して、左右共用ダンパーペダルとして使うことができます。ただし、ハーフペダルには対応していません。
- デュエットの使用中は、一部の設定が変更できなくなります。
- デュエットの使用中は、**CONTROL**ボタン、**EX1**ボタンおよび**EX2**ボタンに、それぞれ下記の機能が割り当てられます(変更することはできません)。

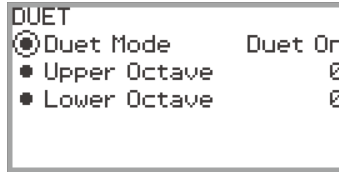
CONTROLボタン:Modulation

EX1ボタン:Sustain

EX2ボタン:Start/Stop

デュエット機能の設定を変更する

1. Fボタンセットの“14 Duet”を選びます(28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
2. F1ボタン(DUET)を長押しします。
“DUET”画面が表示されます。



3. リングの上、下にタッチして、設定を変更したい項目を選びます。

- 設定項目ごとの設定値と設定内容は、下表のとおりです。

設定項目	設定値	設定内容
Duet Mode	Duet On	左側鍵盤と右側鍵盤の音が、両方のスピーカーから出力されます。
	Duet Pan	左側鍵盤の音は左スピーカーからのみ、右側鍵盤の音は右スピーカーからのみ出力されます。
Upper Octave, Lower Octave	-2、-1、0、 +1、+2	“Upper Octave”は右側鍵盤、“Lower Octave”は左側鍵盤の音域を、オクターブ単位で上げ下げします。設定値を1上げると1オクターブ上がり、1下げると1オクターブ下がります(初期値0)。

4. 選んだ項目の設定値を変更します。
• リングをなぞって、希望する設定値に変更します。

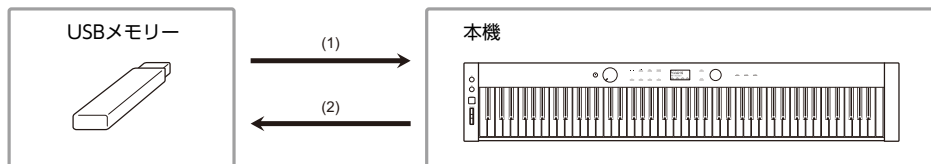
5. 手順3、4の操作を、必要なだけ繰り返します。



- “Duet Mode”の設定が“Duet Pan”の場合、ホールシミュレーター／リバーブ(45ページ)、サラウンド(45ページ)、コーラス(48ページ)、アコースティックシミュレーター(50ページ)の各機能、およびミキサー(55ページ)の一部の設定は利用できません。

USB メモリーを使用する

本機では、市販のUSBメモリーを使用して下記のことができます。



(1) USBメモリーにあるファイルを、本機で使う

- USBメモリーのオーディオファイルを再生
[94ページ「曲を聴く \(SONGモード\)」](#)
- USBメモリーのMIDIファイルを再生
[94ページ「曲を聴く \(SONGモード\)」](#)
- 互換性のあるファイルをUSBメモリーから本機に読み込む
[131ページ「USBメモリーのファイルを本機に読み込む」](#)
- USBメモリーのファイルを消去する
[132ページ「USBメモリーのファイルを消去する」](#)
- USBメモリーのファイルの名前を変更する
[133ページ「USBメモリーのファイルの名前を変える」](#)

(2) 本機のデータを、USBメモリーに保存する

本機で記録した下記のデータをUSBメモリーに保存しておくことで、後からそのデータを本機に読み込んで利用することができます。

- オーディオレコーダー曲
- MIDIレコーダー曲
- レジストレーションデータ
- 全ユーザーデータ
[129ページ「本機のデータをUSBメモリーに保存する」](#)

USBメモリーの準備

ここでは下記のことを説明します。

- 本機で使用可能なUSBメモリー
- USBメモリーを介して、本機で扱えるデータの種類
- USBメモリーの本機への装着と取り外し
- USBメモリーのフォーマット

使用可能なUSBメモリー

容量:32GB以下を推奨

❗ 重要

- FAT (FAT32またはexFAT) フォーマットのUSBメモリーをご使用ください。
- パソコン上で複数のドライブとして認識されるUSBメモリーは、使用できないことがあります。
- パソコン上でCD-ROMとして認識されるUSBメモリーは使用できません。
- アンチウイルス機能やセキュリティー機能などの特殊機能付きUSBメモリーは使用できません。

本機で扱えるデータの種類

USBメモリーを介して本機で扱えるデータには、曲データ（MIDIデータとオーディオデータ）、レジストレーションデータ、および本機に保存されている全ユーザーデータがあります。

■曲データ

オーディオデータ

- WAV形式：
主にWindowsで使われている標準音声ファイルフォーマットです。本機で扱うことができるのは、「リニアPCM、16bit、44.1kHz、ステレオ」のWAVファイルです（拡張子：.WAV）。
- MP3形式：
音楽配信などで広く使われている、一般的な音声ファイルフォーマットです。本機で扱うことができるのは、「44.1/48kHz、ビットレート32～320kbps、可変ビットレート（VBR）対応」のMP3ファイルです（拡張子：.MP3）。

MIDIデータ

- MRF形式（カシオオリジナルのファイル形式）：
本機のMIDIレコーダーで録音したMIDIデータです（拡張子：.MRF）。
- CMF形式（カシオオリジナルのファイル形式）：
カシオ独自の演奏情報が加えられているMIDIデータです（拡張子：.CMF）。
- SMF（Standard MIDI File）形式 フォーマット0/1：
他社のMIDI機器と互換性がある標準MIDIファイル形式です（拡張子：.MID）。

データの種類		拡張子	保存 (内蔵メモリー → USBメモリー)	読み込み (USBメモリー → 内蔵メモリー)	USBメモリー に直接録音	USBメモリー から直接再生
オーディオ	オーディオレコーダー曲 (109ページ) のファイル	.WAV	○	○	○	○
	一般のオーディオファイル	.WAV	○※1		—	
		.MP3				
MIDI	MIDIレコーダー曲 (101ページ) のファイル	.MRF	○※2	○	—	—
	カシオMIDIファイル※3	.CMF	—	○※4	—	○
	標準MIDIファイル (SMF形式)	.MID				

※1 USBメモリーから本機の内蔵メモリーに読み込んだWAVファイルやMP3ファイルを、内蔵メモリーからUSBメモリーにそのまま保存することが可能です。

※2 標準MIDIファイル（SMFフォーマット0、拡張子：.MID）に変換して保存することもできます。

— MRF形式で保存する場合

演奏情報だけでなく、本機固有機能の設定（アコースティックシミュレーターの設定など）も一緒に保存されます。この形式で保存したファイルを本機で再生すると、元通りの演奏が再現されます。

ただし、MRFファイルは他の楽器では利用できません。

– SMF形式で保存する場合

演奏情報は保存されますが、本機固有機能の設定は保存されません。従って、この形式で保存したファイルを本機で再生しても、本機固有機能の設定については元通りに再現されません。しかし、この形式で保存したファイルは、他のSMFに対応した楽器でも利用が可能です。(他の楽器で、本機と同じ演奏が再現できるわけではありません。)

※3 カシオホームページからダウンロードした曲など。

※4 ユーザー曲(曲番号001～010)として読み込まれます。[94ページ](#)「再生できるデータの種類」の「MIDIデータ」をご参照ください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製(データ形式の変換を含む)、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをなされる場合には、著作権法を遵守の上、適切なご使用を心がけていただきますよう、お願いいたします。

■レジストレーションデータ

本機のレジストレーションデータを、バンク単位でUSBメモリーにファイルとして保存できます(拡張子: .RBK)。保存したRBKファイルは、USBメモリーから本機に読み込むことができます。

レジストレーションについて詳しくは、[73ページ](#)「演奏に使う設定を登録する・呼び出す(レジストレーション)」をご参照ください。

■本機的全ユーザーデータ

本機に保存されている全ユーザーデータを、一括してUSBメモリーにファイルとして保存できます(拡張子: .DAL)。保存したDALファイルは、USBメモリーから本機に読み込むことができます。

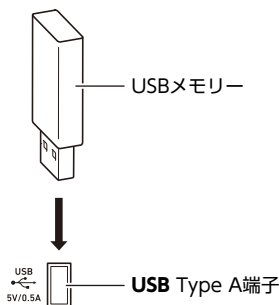
USBメモリーを本機に装着する・取り外す

- USBメモリーに付属している取扱説明書の注意事項をお守りください。
- 以下のような場所での保管や使用は避けてください。USBメモリー上のデータが壊れる場合があります。
 - 高温多湿、または腐食性のある場所
 - 強い静電気や電氣的ノイズの発生しやすい場所
- データを保存したり読み込んでいるときには、本機を操作したりUSBメモリーを取り外したりしないでください。USBメモリーのデータが壊れたり、**USB Type A**端子が故障したりする場合があります。
- **USB Type A**端子には、本書で指定されている機器以外は決して入れないでください。故障の原因となります。
- USBメモリーを本機に装着して最初にUSBメモリーを操作するとき、本機のシステムがUSBメモリーとデータをやり取りする準備(マウント)を行うため、一時的に本機の操作がしにくくなる場合があります。マウント中は、液晶画面に“MOUNTING”と表示されます。本機がマウントを完了し、操作が可能になるまで数十秒間かかることがあります。マウント中は、本機を操作しないでください。マウントは、本機にUSBメモリーを装着するたびに実行されます。

■装着するとき

1. 下図のように、USBメモリーを本機の**USB Type A**端子へ差し込みます。

- 確実に奥まで差し込んでください。また、無理な挿入はしないでください。



- **USB Type A**端子に、手やUSBメモリーから静電気が伝わると、本機が誤動作する場合があります。このような場合は、一度本機の電源を切ってから、再び電源を入れてください。

■取り外すとき

1. 本機とUSBメモリーとの間でデータをやり取り中でないことを確認します。

- 下記の場合はデータをやり取り中ですので、手順2に進まないでください。
 - 液晶画面に“MOUNTING”または“Wait...”と表示されている
 - オーディオレコーダーやSONGモードでUSBメモリーを使っている

2. USBメモリーを抜きます。

- 長時間使用すると、取り外したUSBメモリーが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。

USBメモリーをフォーマットする

本機でUSBメモリーをフォーマットすると、ルートディレクトリに“MUSICDAT”という名前のフォルダーが作成されます。本機とUSBメモリーの間でデータをやりとりする際は、常にこのフォルダーを使います。

❗ 重要

- 最初に、必ず本機でUSBメモリーをフォーマットしてください。
- USBメモリーをフォーマットすると、USBメモリーに保存されているファイルはすべて削除されます。フォーマットする前に、USBメモリーに大切なデータが保存されていないことをご確認ください。
- 本機でのフォーマットは、クイックフォーマットを実行します。データを完全に消去するには、本機でフォーマットする前にパソコンなどで通常のフォーマットを行ってください。
- exFATフォーマットの場合、長い名前のファイルがあると、読み込めるファイル数に制限がかかる場合があります。

1. フォーマットするUSBメモリーを、本機の**USB** Type A端子に装着します。
2. **FUNCTION**ボタンにタッチして、**FUNCTION**メニューを表示します。
3. リングを使って“**MEDIA**” > “**FORMAT**”の順に選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
下記の確認画面が表示されます。操作をキャンセルするには、ここでリングの左(NO)にタッチします。



4. フォーマットを実行するには、リングの右(YES)にタッチします。
 - フォーマットが開始され、“Wait...”と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。容量の大きなUSBメモリーをフォーマットするには、数分ほどかかる場合があります。
 - フォーマットが終了すると、“Complete”と表示されます。

本機で再生するためのMIDIファイルやオーディオファイルをUSBメモリーに保存する

ファイル形式が「SMF」または「CMF」のMIDIファイル、「WAV」または「MP3」のオーディオファイルを、下記の操作でUSBメモリーに保存し、本機で再生できます。

1. USBメモリーをパソコンに装着します。
2. USBメモリーのルートディレクトリに、“MUSICDAT”という名前のフォルダーを作成します。
 - すでに“MUSICDAT”フォルダーがある場合は、この手順は不要です。
3. 本機で再生したいMIDIファイルやオーディオファイルを、USBメモリーのMUSICDATフォルダーに保存します。
 - 再生について詳しくは、[94ページ「曲を聴く \(SONGモード\)」](#)をご参照ください。

著作権について

個人で楽しむなどのほかは、音声／音楽フォーマットファイルを権利者に無断で複製することは著作権法や国際条約で固く禁じられています。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず権利者に無断でネット上で記載したり、第三者に配布することも著作権法や国際条約で固く禁止されています。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

本機の手機データをUSBメモリーに保存する

1. **FUNCTION**ボタンにタッチして、**FUNCTION**メニューを表示します。
2. リングを使って“MEDIA” > “SAVE”の順に選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
“MEDIA SAVE”画面に、保存が可能なデータの種類の選ぶメニューが表示されます。



“MIDI REC SONG” … MIDIレコーダー曲

“AUDIO REC SONG” … オーディオレコーダー曲、一般のオーディオファイル

“REGIST BANK” … レジストレーションバンク

“ALL” … 全ユーザーデータ

3. リングの上、下にタッチして保存するデータの種類の選び、**ENTER**ボタンにタッチします。

- “ALL”を選んだ場合は、**ENTER**ボタンにタッチするとファイル名の編集画面が表示されますので、手順5に進んでください。それ以外の場合は、保存するデータを選ぶ画面が表示されますので、手順4に進んでください。

4. 選んだデータのタイプに応じて、下記を操作します。

■ “MIDI REC SONG”を選んだ場合

- (1) リングの上、下にタッチして保存するデータを選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
保存するファイル形式(MRFまたはMID)を選ぶ画面が表示されます。
- (2) リングの上、下にタッチして“MRF”(本機専用形式)または“MID”(SMF形式)を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
ファイル名の編集画面が表示されます。

■ “AUDIO REC SONG”または“REGIST BANK”を選んだ場合

- (1) リングの上、下にタッチして保存するデータを選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
ファイル名の編集画面が表示されます。

5. 必要に応じて、ファイル名を変更します。

- 操作については、[31ページ「文字を変更するには」](#)、[32ページ「文字を挿入するには」](#)、[32ページ「文字を削除するには」](#)をご参照ください。

6. ファイル名を確定するには、**ENTER**ボタンにタッチします。

保存するか確認する画面に、“Sure?”または“Replace?”と表示されます。

“Sure?” 保存先のUSBメモリーに同名のファイルが無いときに表示されます。

“Replace?” 保存先のUSBメモリーに同名のファイルがあるため、上書きしてよいかを確認しています。

- 保存せずに操作を終了するには、ここでリングの左(NO)にタッチします。

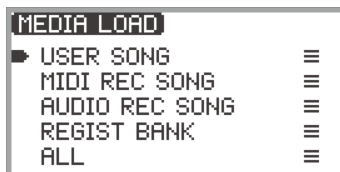
7. 保存するには、リングの右(YES)にタッチします。

保存中は“Wait...”と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。保存が終了すると、“Complete”と表示されます。

- オーディオレコーダー曲、全ユーザーデータを保存する場合、データのサイズによって処理に数分かかることがあります。

USBメモリーのファイルを本機に読み込む

1. **FUNCTION**ボタンにタッチして、**FUNCTION**メニューを表示します。
2. リングを使って“**MEDIA**” > “**LOAD**”の順に選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
“**MEDIA LOAD**”画面に、読み込みが可能なデータの種類の選ぶメニューが表示されます。



“**USER SONG**” … ユーザー曲

“**MIDI REC SONG**” … MIDIレコーダー曲

“**AUDIO REC SONG**” … オーディオレコーダー曲、一般のオーディオファイル

“**REGIST BANK**” … レジストレーションバンク

“**ALL**” … 全ユーザーデータ

3. リングの上、下にタッチして読み込むデータの種類、ファイルを選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
本機のどのエリアに読み込むかを選ぶ画面が表示されます。
 - “**ALL**”を選んだ場合は、**ENTER**ボタンにタッチすると、すぐに手順4の確認画面 (“**Replace?**”)が表示されます。
4. リングの上、下にタッチして読み込み先のエリアを選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
読み込むか確認する画面に、“**Sure?**”または“**Replace?**”と表示されます。
“**Sure?**” ……………… 読み込み先にデータがないときに表示されます。
“**Replace?**” ……………… 読み込み先にデータがあるため、上書きしてよいかを確認しています。
 - 読み込まずに操作を終了するには、ここでリングの左 (**NO**) にタッチします。
5. ファイルを本機に読み込むには、リングの右 (**YES**) にタッチします。
読み込み中は“**Wait...**”と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。読み込みが終了すると、“**Complete**”と表示されます。
 - オーディオレコーダー曲、全ユーザーデータを読み込む場合、データのサイズによって処理に数分かかることがあります。

USBメモリーのファイルを消去する

1. **FUNCTION**ボタンにタッチして、**FUNCTION**メニューを表示します。
2. リングを使って“MEDIA” > “DELETE”の順に選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
“MEDIA DELETE”画面に、消去が可能なファイルの種類を選ぶメニューが表示されます。



“USER SONG” … ユーザー曲

“MIDI REC SONG” … MIDIレコーダー曲

“AUDIO REC SONG” … オーディオレコーダー曲、一般のオーディオファイル

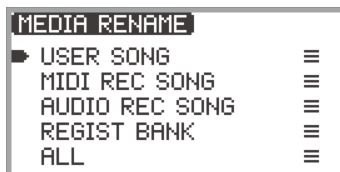
“REGIST BANK” … レジストレーションバンク

“ALL” … 全ユーザーデータ

3. リングの上、下にタッチして消去するファイルの種類を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
4. リングの上、下にタッチして、消去するファイルを選びます。
5. **ENTER**ボタンにタッチします。
消去するか確認する画面 (“Sure?”)が表示されます。
 - 消去せずに操作を終了するには、ここでリングの左(NO)にタッチします。
6. 消去するには、リングの右(YES)にタッチします。
消去中は“Wait…”と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。消去が終了すると、“Complete”と表示されます。
 - オーディオレコーダー曲、全ユーザーデータを消去する場合、データのサイズによって処理に数分かかることがあります。

USBメモリーのファイルの名前を変える

1. **FUNCTION**ボタンにタッチして、**FUNCTION**メニューを表示します。
2. リングを使って“**MEDIA**” > “**RENAME**”の順に選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
“**MEDIA RENAME**”画面に、名前の変更が可能なファイルの種類を選ぶメニューが表示されます。



“**USER SONG**” … ユーザー曲

“**MIDI REC SONG**” … MIDIレコーダー曲

“**AUDIO REC SONG**” … オーディオレコーダー曲、一般のオーディオファイル

“**REGIST BANK**” … レジストレーションバンク

“**ALL**” … 全ユーザーデータ

3. リングの上、下にタッチして名前を変更するファイルの種類を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
4. リングの上、下にタッチして、名前を変更するファイルを選びます。
5. **ENTER**ボタンにタッチします。
ファイル名の編集画面が表示されます。
6. ファイル名を変更します。
 - 操作については、[31ページ「文字を変更するには」](#)、[32ページ「文字を挿入するには」](#)、[32ページ「文字を削除するには」](#)をご参照ください。
7. ファイル名を確定するには、**ENTER**ボタンにタッチします。
確認画面に、“**Sure?**”または“**Replace?**”と表示されます。
“**Sure?**” …………… 保存先のUSBメモリーに同名のファイルが無いときに表示されます。
“**Replace?**” ……… 保存先のUSBメモリーに同名のファイルがあるため、上書きしてよいかを確認しています。
 - 名前の変更(または同名ファイルの上書き)をせずに操作を終了するには、ここでリングの左(**NO**)にタッチします。
8. 名前の変更(または同名ファイルの上書き)をするには、リングの右(**YES**)にタッチします。
処理中は“**Wait...**”と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。処理が終了すると、“**Complete**”と表示されます。

MIDI 設定を変更する

本機のMIDI設定を変更するには、FUNCTIONメニュー(29ページ)の下表の設定項目を使います。

設定項目	設定値と設定内容
"MIDI" > "Keyboard Ch"	キーボードチャンネルは、本機の演奏情報を外部機器に送信するときに使うMIDI送信チャンネルです。 01 (初期値) ~16の間で設定します。
"MIDI" > "Local Control"	ローカルコントロールは、本機の鍵盤と内部音源との接続を切って、MIDIデータを外部機器のみに送信するための設定です。初期値は"On"です。"Off"に切り替えると、本機による演奏情報 (MIDIデータ) は出力されますが、本機自体の音は出なくなります。
"MIDI" > "Hi-Reso MIDI Out"	ハイレゾリューションベロシティー MIDIアウト (High Resolution Velocity MIDI Out) のオンオフ。鍵盤の押鍵や離鍵時のタッチ強弱 (ベロシティー) を高分解能でMIDI出力するかしないかを設定します。 • オンにすると、MIDI規格のハイレゾリューションベロシティープリフィックスに対応した高分解能ベロシティー情報をMIDI OUTに出力します。 • オフにすると、高分解能ベロシティー情報はMIDI OUTしません。(通常の127段階のベロシティーをMIDI OUTします。) • この項目のオンオフはMIDIアウトにのみ効果があります。この項目のオンオフにかかわらず、本機の内蔵音源は常に高分解能ベロシティーで発音します。

ワイヤレス接続する

付属のワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを使って、本機と外部機器をワイヤレスで接続することができます。この接続にはBluetooth®無線技術を利用しており、下記2種類の接続が可能です。

- Bluetooth Low Energy MIDI接続 … 本機とスマートデバイス*の間でMIDIデータを送受信します。
- Bluetoothオーディオ接続 … 外部機器の再生音を、本機で鳴らします。

※スマートデバイスに専用アプリ(140ページ)をインストールすることが必要です。

ワイヤレス(Bluetooth)接続の設定

ワイヤレス接続状態を確認する

ワイヤレスの接続状態は、トップ画面の右上に表示されるインジケーターで確認できます。



Bluetooth Low Energy MIDI対応機器との接続中に点灯します。

Bluetoothオーディオ対応機器との接続中に点灯します。

ワイヤレス機能のオン/オフを切り替える

本機のワイヤレス機能は、初期設定でオンになっています。電波の発生を止めたい場合など必要なときは、ワイヤレス機能をオフにすることができます。

1. Fボタンセットの“04 Listening”を選びます(28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。

- ワイヤレス機能がオンのとき、Fボタンメニューの**F1**ボタン(ADPTR)が [] で囲まれています。また、ワイヤレス接続状態に応じて、インジケーターが点灯しています。詳しくは、135ページ「ワイヤレス接続状態を確認する」をご参照ください。



2. F1ボタン (ADPTR) にタッチします。

ワイヤレス機能がオフに切り替わります。



- F1ボタン (ADPTR) にタッチするたびに、ワイヤレス機能がオンとオフの間で切り替わります。

ワイヤレス接続時・切断時の通知音について

ワイヤレス接続の状態が変わったときは、通知音が鳴ります。

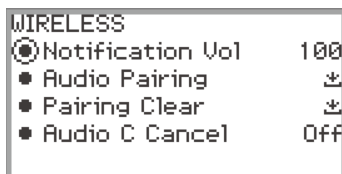
通知内容	通知音
Bluetoothオーディオ対応機器と接続した	メロディーが上がっていくピアノの音が鳴ります。
Bluetoothオーディオ対応機器との接続が切断した	メロディーが下がってくるピアノの音が鳴ります。
Bluetooth Low Energy MIDI対応機器と接続した	メロディーが上がっていくビブラフォンの音が鳴ります。
Bluetooth Low Energy MIDI対応機器との接続が切断した	メロディーが下がってくるビブラフォンの音が鳴ります。

■ワイヤレス接続時・切断時の通知音の音量を調節するには

1. Fボタンセットの“04 Listening”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。

2. F1ボタン (ADPTR) を長押しします。

“WIRELESS”画面が表示されます。



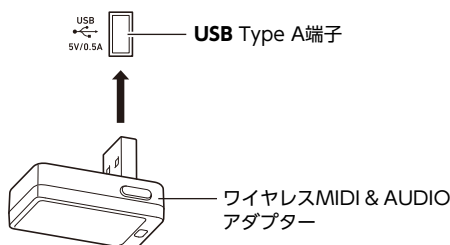
3. リングをなぞって、“Notification Vol”の設定値を変更します。

- 音量は、0～127の間で変更できます。

Bluetooth Low Energy MIDI接続する

本機とスマートデバイスをBluetooth Low Energy MIDI接続することで、専用アプリを使ったさまざまな操作が可能になります。専用アプリについて詳しくは、[140ページ「スマートデバイス用アプリ \(CASIO MUSIC SPACE\) について」](#)をご参照ください。

1. 本機のワイヤレス機能をオフにしている場合は、オンに切り替えます。
 - [135ページ「ワイヤレス機能のオン/オフを切り替える」](#)をご参照ください。
2. 付属のワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを本機の**USB Type A**端子に接続します。



3. スマートデバイスの設定画面を開き、Bluetooth機能がオフの場合はオンに切り替えます。
4. スマートデバイスにインストールした専用アプリの設定画面で、「WU-BT10 MIDI」を選びます。
 - スマートデバイスとの接続待ちの間は、本機の操作をしないでください。
 - 接続すると、本機のトップ画面の右上に **[M]** インジケーターが表示され、通知音が鳴ります。

メモ

- 上記手順4の操作は、専用アプリを使うたびに必要です。
- 本機と外部機器をBluetooth Low Energy MIDIとBluetoothオーディオで同時に接続すると、接続相手の外部機器やOSのバージョンによっては、MIDIの動作が不安定になることがあります。このような場合は、Bluetoothオーディオ接続を外部機器の操作で切断してください。

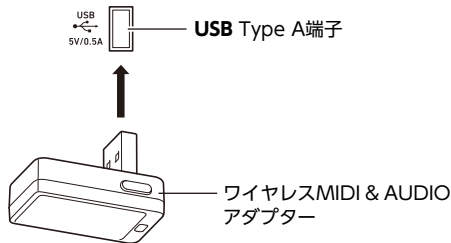
Bluetoothオーディオ接続する

本機と外部機器※をBluetoothオーディオ接続することで、外部機器の再生音を本機で鳴らすことができます。Bluetoothオーディオ接続するには、はじめに本機と外部機器の間で「オーディオペアリング」という操作が必要です。

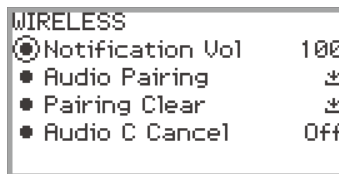
※外部機器とは、Bluetoothオーディオに対応したスマートデバイス（iPhone、iPad、Androidスマートフォンなど）やiPod、MP3プレーヤーなどです。

オーディオペアリングする

1. 付属のワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを本機の**USB Type A**端子に接続します。



2. 外部機器の設定画面を開き、Bluetooth機能がオフの場合はオンに切り替えます。
3. Fボタンセットの“04 Listening”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
4. **F1**ボタン(ADPTR)を長押しします。
“WIRELESS”画面が表示されます。



5. リングを使って“Audio Pairing”を選び、**ENTER**ボタンにタッチします。
本機の液晶画面に“Pairing...”と表示され、ペアリング待ちの状態になります。
 - 本機のワイヤレス機能がオフの場合、自動的にオンに切り替わります。
6. 外部機器のBluetooth設定画面で、[WU-BT10 AUDIO]を選びます。
 - ペアリングが完了すると、本機のトップ画面の右上に  インジケーターが表示され、通知音が鳴ります。

メモ

- 最後にBluetoothオーディオ接続した外部機器の情報は、ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターに登録されます。その後は上記の操作をしなくても、自動的にBluetoothオーディオ接続されます。
- Bluetoothオーディオ接続がうまくいかない場合は、下記の操作をお試しください。
 - (1) 139ページ「ペアリング登録を消去する」を実行する。
 - (2) 外部機器に本機とのペアリング登録情報が残っている場合は、削除する。
外部機器のBluetooth設定画面で、「WU-BT10 AUDIO」を削除します。操作については、外部機器の取扱説明書をご覧ください。
 - (3) 上記「オーディオペアリングする」の操作をやり直す。

ペアリング登録を消去する

下記操作で、本機とBluetoothオーディオ接続した外部機器とのペアリング登録が消去されます。

メモ

- 下記操作の実行後は、本機とBluetoothオーディオ接続していた外部機器でも、本機とのペアリング登録情報を削除してください。外部機器のBluetooth設定画面で、「WU-BT10 AUDIO」を削除します。操作については、外部機器の取扱説明書をご覧ください。

1. 付属のワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターをUSB Type A端子に接続します。
 - 接続していないと、Bluetoothオーディオペアリング登録は消去できません。
2. Fボタンセットの“04 Listening”を選びます (28ページ「Fボタンセットを変更するには」)。
3. F1ボタン (ADPTR) を長押しします。
“WIRELESS”画面が表示されます。
4. リングを使って“Pairing Clear”を選び、ENTERボタンにタッチします。
確認画面が表示されます。操作をキャンセルするには、ここでリングの左(NO)にタッチします。



5. ペアリング登録を消去するには、リングの右(YES)にタッチします。
“Complete”と表示され、“WIRELESS”画面に戻ります。

専用アプリを使う

ここでは、本機と連動してさまざまな楽しみ方ができる専用アプリ「CASIO MUSIC SPACE」について説明します。

スマートデバイス用アプリ (CASIO MUSIC SPACE) について

専用アプリ「CASIO MUSIC SPACE」を使って、本機と連携する下記の機能が利用できます。

- ピアノロールで練習する
- 楽譜を見る
- 曲に合わせて弾く
- ライブ体験をする
- ピアノリモートコントローラー
- 情報を見る

各機能についての詳細は、専用アプリの取扱説明書をご覧ください。

専用アプリは、下記の流れでご利用いただけます。

1. スマートデバイスにCASIO MUSIC SPACEをインストールする

- 下記ウェブサイトの「CASIO MUSIC SPACE ダウンロード」をご覧ください。

<https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S7000/>



2. 本機とスマートデバイスを接続する

接続方法により、使える機能が異なります。

- Bluetooth Low Energy MIDI接続とUSB MIDI接続は、同時に行わないでください。

使える機能	ワイヤレスで接続		ケーブルで接続
	Bluetooth Low Energy MIDI接続※2	Bluetoothオーディオ接続※3	USB MIDI接続※4
ピアノロールで練習する※1	○	×	○
楽譜を見る	○ (ペダル譜めくりを使用する場合)	○	○ (ペダル譜めくりを使用する場合)
曲に合わせて弾く	×	○	×
ライブ体験をする	○	○	○
ピアノリモートコントローラー	○	×	○
情報を見る	○	×	○

※1 ユーザー曲 (94ページ) を本機に転送するには、この機能を使います。

※2 137ページ「Bluetooth Low Energy MIDI接続する」をご参照ください。

※3 138ページ「Bluetoothオーディオ接続する」をご参照ください。

※4 145ページ「スマートデバイスとUSB MIDI接続する」をご参照ください。

外部機器と接続する

ここでは専用アプリ ([140ページ](#)) を使わなくてもできる接続のしかたとして、下記のことを説明します。

- スマートデバイスの音を鳴らす (Bluetoothオーディオ接続)
スマートデバイスや、Bluetoothオーディオに対応した各種デバイスの再生音を、本機から鳴らします。
- パソコンやスマートデバイスと接続してMIDIを使う
本機とパソコンまたはスマートデバイスの間で、MIDIデータを送受信します。
- 本機の音をアンプやオーディオ機器に出力する (**LINE OUT**端子)
ケーブル接続で、本機の音を**LINE OUT**端子から外部に出力します。

スマートデバイスの音を鳴らす (Bluetoothオーディオ接続)

本機とスマートデバイス※をBluetoothオーディオ接続することで、スマートデバイスの再生音を本機で鳴らすことができます。

※スマートデバイスだけでなく、Bluetoothオーディオに対応した各種デバイス (iPod、MP3プレーヤーなど) と本機を接続できます。

スマートデバイスなどBluetoothオーディオ対応デバイスの音を本機で鳴らす

1. 本機とスマートデバイス (またはその他Bluetoothオーディオ対応デバイス) をオーディオペアリングします。
 - [138ページ「オーディオペアリングする」](#)をご参照ください。
2. オーディオペアリングしたデバイスで、曲を再生します。

Bluetoothオーディオの再生音量や再生時のエフェクトのかかり方を調節する (ミキサー設定)

[55ページ「各パートの音量・ステレオ定位・エフェクトのかかり方を調節する」](#)をご参照ください。

- “MIXER” > “VOLUME” > “Wireless Audio”の設定値を変更することで、全体の音量に対するオーディオデータの再生音量を調節することができます。
- “MIXER” > “HALL/REV.” > “Wireless A Send”の設定値を変更することで、オーディオデータのホールシミュレーター/リバーブへのセンド値を調節することができます。

Bluetoothオーディオのセンターキャンセル(ボーカルカット)について

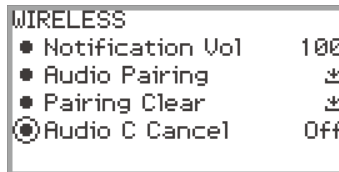
オーディオセンターキャンセルをオンにすると、スマートデバイスからの入力音のボーカルがカット(消去、低減)されます。センター定位の音をキャンセルする機能なので、ボーカル以外の音もカットされる場合があります。効果の度合いは、入力音によって異なります。



- 本機のSONGモードでオーディオデータを再生するときのオーディオセンターキャンセル(98ページ)と、ここでのセンターキャンセルは、設定対象が異なります。

■Bluetoothオーディオのセンターキャンセルのオン/オフを切り替えるには

1. Fボタンセットの“04 Listening”を選びます(28ページ[Fボタンセットを変更するには])。
2. F1ボタン(ADPTR)を長押しします。
“WIRELESS”画面が表示されます。
3. リングの上、下にタッチして“Audio C Cancel”を選びます。



4. リングをなぞって、設定値を“On”と“Off”の間で切り替えます。

パソコンやスマートデバイスと接続してMIDIを使う

本機とパソコンまたはスマートデバイスを接続して、演奏情報 (MIDIデータ) の送受信ができます。パソコンの音楽ソフトやスマートデバイスアプリを使って本機の演奏を録音したり、パソコンやスマートデバイスから本機へデータを送って音を鳴らしたりすることができます。



- 本機のMIDIデータ送受信の詳しい仕様や、接続についての最新のサポート情報は、下記の弊社ウェブサイトをご覧ください。

<https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S7000/>



- MIDI関連の設定については、[134ページ「MIDI設定を変更する」](#)をご参照ください。

パソコンとUSB MIDI接続する

■パソコンの動作環境

MIDIデータを送受信するために必要な動作環境は下記のとおりです。お手持ちのパソコンの環境を、必ず事前にご確認ください。

- USB端子
 - 対応OS
 - Windows 10※
 - Windows 11
 - macOS 10.15、11、12、13
- ※Windows 10 (32bit版、64bit版)



- 最新の対応OS情報につきましては、下記ホームページの「各種対応状況 (パソコン)」をご覧ください。

<https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S7000/>



■パソコンとの接続のしかた

⚠ 重要

- 正しい手順で接続しないとデータの送受信ができなくなる場合があります。必ず次の手順に従って接続してください。
- 接続後は、パソコンの音楽ソフトを起動させる前に、必ず本機の電源を入れておいてください。
- 本機で曲を再生している間は、データを送受信することができません。

1. 本機の電源を切り、パソコンを起動させておきます。
 - パソコンの音楽ソフトは起動させないでください。
2. 市販のUSBケーブルで、パソコンと本機の**USB Type B**端子を接続します。
 - ケーブルは、USB2.0または1.1のA-Bコネクタータイプを使用してください。

パソコンの端子	接続ケーブル	本機の端子
USB Type A 		USB Type B  USB 

3. 本機の電源を入れます。
 - 初めての接続では、データを送受信するために必要なドライバーが自動でパソコンにインストールされます。
4. パソコンの音楽ソフト(市販品)を起動させます。
5. パソコンの音楽ソフト(市販品)の設定で、MIDIデバイスとして「CASIO USB-MIDI」を選びます。
 - MIDIデバイスの選択方法については、お使いの音楽ソフトのマニュアルをご覧ください。

メモ

- 1回接続に成功した後は、USBケーブルを接続したままでパソコンや本機の電源を入れなおすことができます。

スマートデバイスとUSB MIDI接続する

■スマートデバイスの動作環境

スマートデバイスと接続して、MIDI規格を利用したアプリを使用することができます。
動作確認端末につきましては、下記ホームページの「各種対応状況(スマートデバイス)」をご覧ください。

<https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S7000/>



- ・「動作確認端末(USB-MIDI接続)」に掲載されている端末での使用を推奨しております。
- ・動作確認結果は、その端末での動作を保証するものではありません。
- ・お使いの環境によっては正しく接続できない場合があります。
- ・動作確認済み端末であっても、端末やOSのバージョンアップなどにより正しく動作しなくなる場合があります。

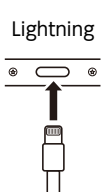
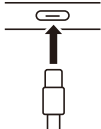
■スマートデバイスとの接続のしかた

- ・データ通信に対応したケーブルを使用してください。
- ・充電専用のケーブルはお使いいただけません。

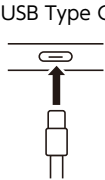
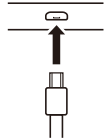
1. 本機とスマートデバイスの電源を入れます。

2. 接続ケーブルで、スマートデバイスと本機の**USB** Type B端子を接続します。

iPhone/iPadをお使いの場合

デバイスの端子	接続ケーブル	本機の端子
 Lightning	 Apple Lightning - USBカメラアダプター USBケーブル A-B タイプ	 USB Type B
 USB Type C	 Apple USB Type C - USBアダプター USBケーブル A-B タイプ	 USB

Androidをお使いの場合

デバイスの端子	接続ケーブル	本機の端子
USB Type C 	 USBケーブル C-Bタイプ または   USB Type C - USBケーブル USBアダプター A-B タイプ	USB Type B 
USB Micro-B 	  USB OTGケーブル USBケーブル (micro B-A) A-B タイプ	

3. スマートデバイスでMIDI対応アプリを起動します。

- カシオ専用アプリをご使用の場合、正常に接続できると、スマートデバイスの画面に「接続中」と表示された後、「接続しました」というメッセージが表示されます。

本機の音をアンプやオーディオ機器に出力する (LINE OUT端子)

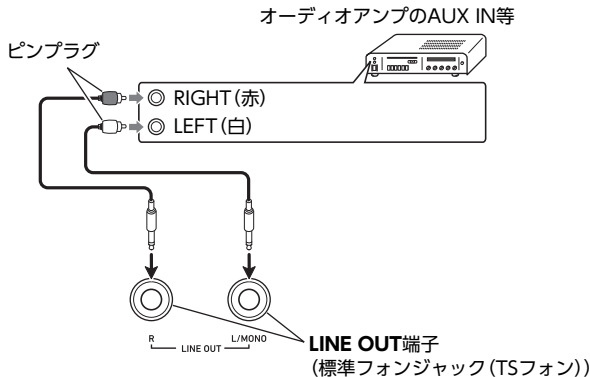
オーディオ機器や楽器用アンプと接続すれば、それらの機器のスピーカーの能力に応じた、より迫力のある音量や音質で、演奏を楽しめます。接続には、市販の接続コードを使用します。

❗ 重要

- 接続するときはすべての外部機器の電源を切ってください。また、電源のオンオフ操作のときは本機と外部機器の音量設定を最小に絞っておいてください。
- 接続した後は本機、外部機器の順番で電源を入れてください。
- 外部機器で鳴らした本機の音が歪んだ音で聴こえる場合は、本機の音量を下げてください。

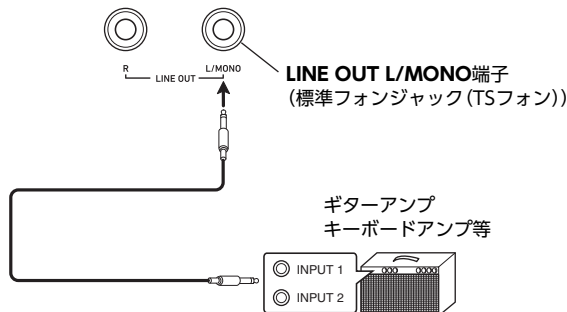
オーディオ機器と接続する場合

LINE OUT R (Right) が右チャンネル、**LINE OUT L/MONO** (Left) が左チャンネルの音です。市販の接続コードで図のように、両方とも接続してください。通常はオーディオ機器のインプットセレクターを、接続した端子 (AUX IN等) に切り替えます。



楽器用アンプと接続する場合

LINE OUT L/MONO だけに接続すれば、両方のチャンネルの混ざった音になります。市販の接続コードで図のように接続してください。



本機に記録されているデータをまとめて消去する

データや設定などシステムの内容をすべてリセットして、工場から出荷したときの状態に戻すことができます。

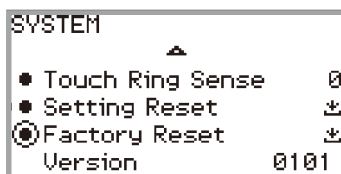
■本機のすべての設定やデータを工場出荷時の状態に戻すには(ファクトリーリセット)

❗ 重要

- ・ 下記を実行すると、ユーザー曲、MIDIレコーダー曲、内蔵メモリーに録音したオーディオレコーダー曲、レジストレーションデータ、ユーザーFボタンセットも消去されます。大切なデータは、USBメモリーへの保存(129ページ)をおすすめします。

1. **FUNCTION**ボタンにタッチして、FUNCTIONメニューを表示します。

2. リングを使って、“SYSTEM” > “Factory Reset”の順に選びます。



3. **ENTER**ボタンにタッチします。

下記の確認画面が表示されます。操作をキャンセルするには、ここでリングの左(NO)にタッチします。



4. 本機を工場出荷時の状態に戻すには、リングの右(YES)にタッチします。

本機が再起動して、トップ画面に戻ります。

■本機のすべての設定を工場出荷時の状態に戻すには(設定リセット)

本機のすべての設定内容を、工場から出荷したときの状態に戻すことができます。この操作では設定だけがリセットされ、ユーザー曲、MIDIレコーダー曲、内蔵メモリーに録音したオーディオレコーダー曲、レジストレーションデータは削除されません。

148ページ「本機のすべての設定やデータを工場出荷時の状態に戻すには(ファクトリーリセット)」の手順2で、“Factory Reset”の代わりに“Setting Reset”を選んでください。

困ったときは

● タッチボタンが反応しない。

-
- 原因:**
- a. 爪やスタイラスなどでボタンにタッチした。
タッチボタン対応でない手袋をした手でボタンにタッチした。
 - b. タッチボタンの感度が低めに設定されている。
-
- 対処:**
- a. ボタンを素手の指でしっかりタッチする。
 - b. タッチボタンの感度設定を変更する。[23ページ](#)[タッチボタンとタッチリングの感度設定]をご参照ください。
-

● 鍵盤を押しても音が出ない。

-
- 原因:**
- a. 音量つまみで音量が絞られている。
 - b. ヘッドホンが接続されている。またはヘッドホンの変換プラグが**PHONES**端子に残っている。
 - c. "Speaker Out" ([18ページ](#)) が"Off"になっている。
 - d. ローカルコントロールの設定がオフになっている。
 - e. 本機に接続しているエクスプレッションペダルが、かかと側に踏み込んで止まる位置(最小値となる位置)になっている。
-
- 対処:**
- a. 音量つまみを動かす。
 - b. ヘッドホンまたは変換プラグを**PHONES**端子から抜く。
 - c. "Speaker Out"を"Auto"または"On"にする。
 - d. ローカルコントロール ([134ページ](#)) の設定をオンにする。
 - e. エクスプレッションペダルに "Expression" または "Master Vol" の機能が割り当てられている場合、ペダルが かかと側に踏み込んで止まる位置(最小値となる位置)にあると音が出ません。ペダルをつま先側に踏みこんで音量を上げてください。
-

● ピッチがずれて聴こえる。

-
- 原因:**
- a. 鍵盤の調(トランスポーズ)が初期値から変更されている。
 - b. 音の高さの微調整(マスターチューニング)の設定が440.0Hz以外になっている。
 - c. オクターブシフトが設定されている。
 - d. 音律が"平均律"以外に設定されている。
 - e. ピッチバンドホイールの位置がずれている。
-
- 対処:**
- a. トランスポーズ ([116ページ](#)) の設定を初期値に戻す。または、電源を入れ直す。
 - b. チューニング ([116ページ](#)) の設定を440.0Hzにする。または、電源を入れ直す。
 - c. オクターブシフト ([118ページ](#)) の設定を"0"にする。
 - d. 音律 ([119ページ](#)) の設定を"平均律"にする。
 - e. ピッチバンドホイールに何も触れていないか確認する。
-

● ペダルを踏んでも効果がかからない。

原因:	a. PEDAL UNIT 端子、または EXPRESSION/ASSIGNABLE 端子に、ペダルのコードが正しく接続されていない。または、プラグの差し込み方が不完全になっている。 b. ペダルを接続した端子へのペダルタイプ割り当てや機能割り当てが正しくない。
対処:	a. ペダルのコードが正しく接続されているか、プラグがしっかりと端子に差し込まれているかを確認する。 b. 正しい設定に変更する。 57ページ [EXPRESSION/ASSIGNABLE端子]をご参照ください。

● 弾き方(タッチ)を変えても音に強弱がつかない。

原因:	“Touch Response”(114ページ)が“Off”になっている。
対処:	“Touch Response”を“Off”以外の設定にする。

● 電源を入れ直しても、音の鳴り方やエフェクトなどが変わらない(本機の初期設定に戻らない)。

原因:	“Auto Resume”(15ページ)が“On”になっている。
対処:	“Auto Resume”を“Off”にして、電源を入れ直す。

● パソコンと接続したとき、MIDIの送受信ができない。

対処:	a. 本機とパソコンがUSBケーブルで正しく接続されているか、あるいはパソコンの音楽ソフトの設定でデバイスが正しく選ばれているか確認する。 b. 本機の電源を切ってパソコンの音楽ソフトを終了させてから、本機の電源を入れてパソコンの音楽ソフトを再起動させてみる。
-----	---

● 同じ音色で鍵盤の位置によって音質や音量が若干異なる音色がある。

原因:	デジタルサンプリングという電子処理*によって発生する音域の境目で、故障ではありません。 ※元になっている楽器音の音域ごとの音質を再現するために、低域・中域・高域など複数の音域ごとに元の楽器音を録音し、ひとつの音色に仕上げる処理。
-----	---

● ボタン操作をすると、鳴っている音が一時的に途切れたり、音質が若干変わったように聴こえたりする。

原因:	レイヤー機能、デュエット機能、曲の再生、録音機能などを使用しているときは、複数のパートの音が同時に鳴っています。こうした場合にボタンを操作すると、音色固有の内部エフェクト設定が自動的に変更されて、パートによってはこのような現象が発生することがありますが、故障ではありません。
-----	---

エラー表示一覧

表示	原因	解決方法
Limit	MIDIレコーダーで1000小節以上録音しようとした。	MIDIレコーダーによる録音は、999小節までで終わってください。
	オーディオレコーダーで録音時に、録音時間の上限になった。	オーディオレコーダーによる録音は、約18分以内* ¹ (内蔵メモリー使用時) または約25分以内 (USBメモリー使用時) で終わってください。
Memory Full	MIDIレコーダーで1曲あたりの容量 (320KB) を超えて録音しようとした。	1曲あたりの容量内で録音してください。
Data Full	MIDIレコーダー曲を上限 (5曲) を超えて録音しようとした。	曲を消去してください (106ページ)。
No Media	本機の USB Type A端子にUSBメモリーが正しくセットされていない。	USB Type A端子にUSBメモリーを正しくセットしてください。
	操作の途中でUSBメモリーが抜き差しされた。	本機の操作中にはUSBメモリーを動かさないでください。
	USBメモリーがプロテクトされている。	USBメモリーのプロテクトを解除してください。
	USBメモリーにウイルス対策ソフトが入っている。	ウイルス対策ソフトが入っていないUSBメモリーを使ってください。
No File	"MUSICDAT"フォルダーの中に読み込みや再生ができるファイルが無い。	読み込みや再生したいファイルを "MUSICDAT"フォルダーへ移動してください (129ページ)。
No Data	録音データが無い曲番号を指定して、USBメモリーに保存しようとした。	録音済みの曲番号を指定してください。
Read Only	USBメモリーに入っている読み込み専用ファイルと同じ名前で、別データを保存しようとしている。	- 別の名前に変えてから保存してください。 - USBメモリーのファイルから読み込み専用属性を外して、上書き保存してください。 - 別のUSBメモリーを使ってください。
Not Enough Memory	内蔵メモリーへの録音や保存時にこのエラーが表示された場合は、内蔵メモリーの空き領域が足りない。	内蔵メモリーのデータを消去して、空き領域を増やしてください。
	USBメモリーへの録音や保存時にこのエラーが表示された場合は、USBメモリーの空き領域が足りない。	USBメモリーに保存しているファイルを消去して空き領域を増やすか、別のUSBメモリーを使ってください。

表示	原因	解決方法
Too Many Files	オーディオレコーダーでの録音時に、上限曲数(99曲)を超えて録音を開始しようとしたか、下記の状態である。 - USBメモリーへの録音時の場合： USBメモリーの“MUSICDAT”フォルダー内に、TAKE99.WAVがある。 - 内蔵メモリーへの録音時の場合： “TAKE99”に*が付いており、TAKE99に録音済みのデータがある。	USBメモリーへの録音時の場合： パソコンを使って“MUSICDAT”フォルダー内のTAKE01.WAV～TAKE99.WAVの全部または一部を消去するか、別のフォルダーやドライブに移動してください。一部を消去または移動するときは、番号の大きいファイルを優先してください※2。 内蔵メモリーへの録音時の場合： 内蔵メモリーのTAKE01～TAKE99の全部または一部を消去してください。一部を消去するときは、番号の大きなデータを優先してください※2。
Not SMF 0/1	SMFフォーマット2のファイルを読み込もうとしたり、再生しようとした。	本機で読み込みや再生が可能なSMFのフォーマットは、“0”または“1”です。
Large Size	USBメモリーのSMFファイルのサイズが大きすぎて本機で再生できない。	本機では最大で約320KBのSMFファイルまで再生できます。
Wrong Data	USBメモリーのデータが壊れている。	—
Version	USBメモリーのファイルのバージョンが、本機で対応していないバージョンになっている。	本機が対応しているバージョンのファイルを用意する。
Format	USBメモリーのフォーマットが本機に適合していない。	パソコン等を使って、USBメモリーを本機に対応したフォーマットに変更する(128ページ)。 別のUSBメモリーを使う。
	USBメモリーが壊れている。	別のUSBメモリーを使う。
No Wireless Adptr	ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターがUSB Type A端子に挿さっていない。	USB Type A端子にワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを挿す。

※1 内蔵メモリー使用時の録音時間は、内蔵メモリー内の全ファイル合計で約18分です。すでに内蔵メモリーに録音済みのファイルがある場合は、その分だけ内蔵メモリーに録音できる時間は少なくなります。

※2 オーディオレコーダー曲は、“TAKE**”(**は01 ～ 99)という名前で保存されます。録音するたびに、USBメモリーまたは内蔵メモリーにある、**の数値が最も大きい番号に1を加えた番号のデータが自動的に作成されるため、SONGモード画面の“TAKE99”に「*」が付いている(“TAKE99”のデータがある)場合は、録音を開始することができなくなります。

製品仕様

型式	PX-S7000BK/PX-S7000WE/PX-S7000HM
鍵盤	88鍵
設定	ハンマーレスポンス、キーオフレスポンス
デュエット	音域変更可(−2〜+2オクターブ)
トランスポーズ	−12〜0〜+12半音
オクターブシフト	−2〜0〜+2オクターブ
音源	
音色数	400 (レイヤー可、スプリット可)
同時発音数	最大256音
タッチレスポンス機能	感度設定5種類、オフ
チューニング	415.5Hz〜440.0Hz〜465.9Hz (0.1Hz単位)
音律	平均律+16種類
ピアノポジション	4種類
アコースティック シミュレーター	キーオフシミュレーター、ストリングレゾナンス、ダンパーレゾナンス、 オープンストリングレゾナンス、アリコートレゾナンス、ダンパーノイズ、 キーオンアクションノイズ、キーオフアクションノイズ
サウンドモード	ホールシミュレーター(8種)、リバーブ(8種)、サラウンド(3種)
エフェクト	コーラス(12種)、プリリアンス(−12〜0〜+12)
マイクエフェクト	25種類、エフェクトパラメーター設定可変
ミキサー	ボリューム、パン、ホールシミュレーター/リバーブセンド、 ホールシミュレーター/リバーブリターン、コーラスセンド
デモ曲	3
曲再生機能 (SONGモード)	
MIDIモード時	再生可能な曲: ユーザー曲 ^{*1} (SMF ^{*2} 、CMF ^{*3})、 MIDIレコーダー録音曲 (MRF ^{*4})、 USBメモリーの曲データ (SMF ^{*2} 、CMF ^{*3}) 再生パート: L+R、L、R (2トラック同時再生、個別トラック再生)
オーディオモード時	再生可能な曲: オーディオレコーダー録音曲 (WAV ^{*5})、 一般のオーディオファイル (WAV ^{*5} 、MP3 ^{*6}) 再生時の機能: センターキャンセル
曲の音量	MIDIモード、オーディオモード個別に調節可
MIDIレコーダー	MIDIデータとしてリアルタイム録音、再生
曲数	5曲
ファイル形式	MRF ^{*4}
録音トラック数	2トラック
容量	1曲あたり約30,000音符 (2トラック合計)
録音内容の保持	内蔵フラッシュメモリー

オーディオレコーダー	オーディオデータとしてリアルタイム録音、再生
曲数	99曲(ファイル)
ファイル形式	WAV※5
最大録音時間	USBメモリーへの録音時:1曲あたり約25分 内蔵フラッシュメモリーへの録音時:約18分(全曲の合計)
録音内容の保持	内蔵フラッシュメモリーまたはUSBメモリー
アルペジエーター	50種類
メトロノーム	
拍子ベル音	オフ、1～9(拍子)
ドラムパターン	20種類
テンポ範囲	20～255
速度標語によるテンポ設定	9種類
メトロノームの音量	調節可
レジストレーション機能	最大96セット(4セット×24バンク)
ペダル	
PEDAL UNIT端子	付属または別売のペダルユニットを接続 ダンパー(連続可変)、ソステヌート(オフ、オン)、 ソフト(付属のペダルユニット: オフ、ハーフ、オン/別売のペダル ユニット: オフ、オン)
EXPRESSION/ ASSIGNABLE端子	市販のエクスプレッションペダル、または別売のサステインペダルを 接続、機能割り当ての変更可(エクスプレッション、マスターボリューム、 テンポ、レイヤーバランス、ダンパー(オフ、オン)、ソステヌート(オフ、 オン)、ソフト(オフ、オン)、アルペジオホールド(オフ、オン)、演奏/停止、 レジストレーションのシーケンシャルリコール)
その他の機能	オートレジューム、操作のロック
MIDI	16chマルチティンバー受信、GMレベル1準拠
ピッチベンドホイール	ピッチベンドレンジ: 0～24半音
EXボタン	2個、機能割り当ての変更可
CONTROLボタン	1個、機能割り当ての変更可
入出力端子	
PHONES端子	ステレオ標準フォンジャック(TRSフォン)×1、 ステレオミニフォンジャック(ミニTRSフォン)×1
電源端子	DC24V
LINE OUT R、L/MONO 端子	標準フォンジャック(TSフォン)×2 (出力インピーダンス470Ω、出力電圧 1.7V(RMS) MAX)
MIC IN端子	標準フォンジャック(TSフォン) (入力インピーダンス 3kΩ、入力感度 10mV)
USB端子	Type A、Type B
EXPRESSION/ ASSIGNABLE端子	ステレオ標準フォンジャック(TRSフォン)
PEDAL UNIT端子	専用形状
音響	
アンプ出力	8W×2 + 8W×2(電池使用時: 3W×2 + 3W×2)
スピーカー	16cm×8cm(楕円形)×2 + 16cm×8cm(楕円形)×2

電源	2電源方式
電池	単3形アルカリ乾電池または単3形充電式ニッケル水素電池、8本使用
電池持続時間	約4時間(アルカリ乾電池使用時)、 約4時間(充電式ニッケル水素電池使用時) ^{※7} ご使用の電池の種類や演奏方法によっては連続動作時間が短くなることがあります。
家庭用AC100V電源 オートパワーオフ機能	ACアダプターAD-E24250LW使用 約4時間後(ACアダプター使用時)、約6分後(電池使用時)、 キャンセル可能
消費電力	24V --- 20W
サイズ	本体+スタンド+譜面立て: 幅134.0×奥行44.9×高さ90.3cm
質量	本体+スタンド+譜面立て: 約29.1kg(電池含まず)
ペダルコード長さ	70cm
付属品	3本ペダル付きピアノスタンド、ACアダプター(AD-E24250LW)、 電源コード、ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプター、譜面立て、 ピアノカバー、クイックスタートガイド、スタンドの組み立て方、 保証書、お客様へ

- ※1 10曲まで内蔵フラッシュメモリーに保存可、1曲あたり最大約320KB
(表記容量は1KB=1024バイト、1MB=1024²バイト換算)
- ※2 標準MIDIファイル(SMFフォーマット0/1、拡張子:.MID)
- ※3 カシオ独自の演奏情報が加えられているMIDIデータ(拡張子:.CMF)
- ※4 本機のMIDIレコーダーで録音したMIDIデータ(拡張子:.MRF)
- ※5 WAV形式のオーディオデータ(リニアPCM、16bit、44.1kHz、ステレオ、拡張子:.WAV)
- ※6 MP3形式のオーディオデータ(MPEG-1 Audio Layer3、44.1kHz/48kHz、ビットレート32～320kbps/可変ビットレート(VBR)対応、モノラル/ステレオ、拡張子:.MP3)
- ※7 eneloop(エネルーブ)使用時の測定値
「eneloop」は、パナソニックグループの登録商標です。

- ・改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。

【別売品のご案内】

商品名	品番
ペダル	SP-3、SP-20、SP-34
イス	CB-5、CB-7、CB-30
ソフトケース	SC-900P

カシオ電子楽器取扱店で購入可能。

- ・別売品の詳しい情報は、下記の弊社ウェブサイトをご覧ください。

<https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S7000/>



ご使用上の注意

■設置環境について

- 安定した水平な場所に設置してください。また付属のスタンドを使用せずにテーブルなどに設置する場合は、底面全体を乗せることができる安定した水平な場所に設置してください。
- カビを予防するために、風通しに配慮して設置場所の温度・湿度を保ってください。
 - 推奨温度範囲: 15～25℃
 - 推奨湿度範囲: 40～60%RH
- 極端な温・湿度変化の起きる場所には設置しないでください。
金属部分の錆び、塗装面の劣化、部品の反りや割れの原因になります。

■本機のお手入れについて

- 乾いた柔らかい布で拭いてください。ティッシュは傷がつきやすいのでご使用にならないでください。
- 汚れが気になる時は、薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸し固く絞ってから軽く拭き取り、乾いた柔らかい布で軽く製品表面を拭いてください。
- 変色、変質、塗装はがれ、ひび割れ等の恐れがありますので、ベンジン、有機溶剤、アルコール等が含まれるクリーナー剤、塩素系消毒液、アルコールタイプの除菌シート等はご使用にならないでください。

■除菌・消毒方法について

- ノンアルコールの除菌シートで2～3回拭き取りをした後、乾いた柔らかい布で軽く拭いて仕上げてください。
- 乾拭きをしないで放置すると痕が残りますので、ご注意ください。
- 複数の方が製品をご利用する場合は、ご利用前後に手を消毒していただくことをおすすめします。

■付属品・別売品

付属品や別売品は、本機指定のものをご使用ください。

指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

■ウエルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の“ウエルドライン”と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

■ACアダプターについて

- 本機指定のACアダプター（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）は、本機にのみご使用ください。他の機器への接続は絶対に行わないでください。故障の原因となります。
- ACアダプターは、修理することができません。
破損・故障時は、修理に関するお問い合わせ先に連絡してください。
- ACアダプターの使用環境: 温度0～40℃
湿度10%～90%RH
- 出力形式: 
- 他のACアダプターを使用すると発煙や故障の原因になることがあります。

■電池を使う

❗ 重要

- 本機は電池ケースのフタを閉じてから使用してください。けがの原因となります。
- 使用中に本機の裏面(電池ケースのフタ周辺)が熱くなることがありますが、故障ではありません。

■充電電池について

充電電池を使用するときは、次のことに注意してください。

- 充電電池は、パナソニックグループ製の単3形eneloop(エネループ)をご使用ください。
これ以外の充電電池は使用しないでください。
- 充電電池の充電は、必ず専用の充電器をご使用ください。
- 充電電池を製品本体にセットしたままでは充電できません。
- eneloopおよび専用の充電器を使用する場合は、各製品に付属の取扱説明書や注意書きをお読みいただき、条件を守ってご使用ください。

電池消耗告知が表示されなくても、1年に一度は必ず電池交換をしてください。

特に消耗した充電電池(eneloop)を本機に入れたままにすると、充電電池を劣化させる恐れがあるので、すぐに取り出してください。

■フロントパネルについて

フロントパネルにゴミやホコリが付着したまま操作すると、傷をつけることがあります。

きれいな柔らかい布で力を入れずに拭いて、ゴミやホコリを取り去ってから操作してください。

また、操作は指で行ってください。先の尖ったものや爪での操作は傷の原因になります。

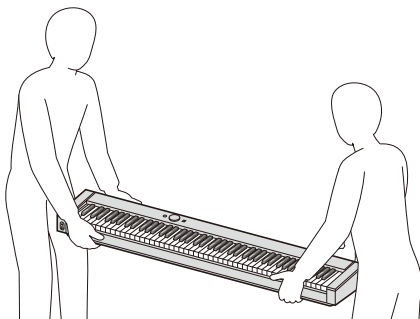
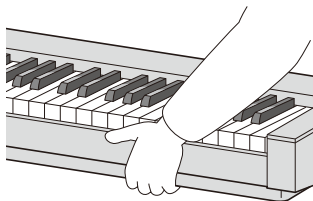
■付属のピアノカバーについて

素材の特性上、表面に糸が混ざることがありますが、品質や機能に問題はありません。

■移動、設置について

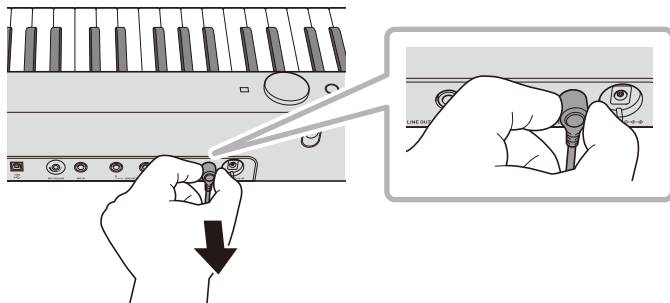
本機の設置や移動の際は、必ず本体を両手で下から持ってください。特にスタンド付きのモデルは、接続されているコードを本体より外し、必ず大人2人で水平を保ちながら、両端を持って移動してください。

周囲の人を傷つけたり落下などの思わぬ事故の原因となります。



■プラグの抜き差しについて

- プラグは根元を持って、水平にまっすぐに抜き差ししてください。
- ケーブルを持って引き抜かないでください。
- 製品の移動の際は、必ずプラグを抜いてから移動してください。
事故や故障の原因となります。



FUNCTIONメニュー項目一覧

FUNCTIONメニューの全項目名と設定値、本書中での参照先の一覧です。

一部のメニュー項目はボタン操作で直接呼び出せます。下表「参照先」欄に、下記の要領で記載されています。

- 先頭に「◆」が付いています。
- “[WHEEL]”のように [] で括られた名前は、Fボタンの表示名(82ページ)です。
- “FUNCTION + F1”は、「**FUNCTION**ボタンにタッチしたまま、**F1**ボタンにタッチする」ことを表します。

FUNCTIONボタンにタッチしたまま、タッチリングの上下左右のいずれかをタッチすることで、各メニュー項目の初期値が呼び出されます。

メニュー項目	設定値	参照先
SOUND		45ページ「音に効果をかける」
ACOUSTIC SIM.		50ページ「アコースティックピアノの音の特徴を調整する (アコースティックシミュレーター)」 (◆[ACSIM])
String Reso.	Tone, Off, 1 ~ 10	51ページ「アコースティックピアノ音の設定項目一覧」
Damper Reso.		
Open String Reso.		
Aliquot Reso.		
Damper Noise		
Key On Noise		
Key Off Noise		
EFFECT		(◆[EFFECT])
Chorus Type	Tone, ほか選択肢 ^{*1}	48ページ「コーラス (コーラス、フランジャー、ショートディレイ) を使う」
Brilliance	-12 ~ 0 ~ +12	49ページ「ブリリアンスを調節する」
SOUND MODE		45ページ「サウンドモード (ホールシミュレーター/リバーブとサラウンド) を使う」 (◆[SMODE]長押し)
Sound Mode	Off, Hall/Rev., Surround, Hall/Rev. + Srnd	45ページ「ホールシミュレーター/リバーブとサラウンドのオン/オフを切り替える」 (◆[SMODE])
Hall/Rev. Type	選択肢 ^{*1}	46ページ「ホールシミュレーター/リバーブのタイプを選ぶ」
Suround Type	Type 1 ~ Type 3	47ページ「サラウンドのタイプを選ぶ」
PIANO POSITION		(◆[PPOS])
Piano Position	Standard, Wall, Center, Table	34ページ「設置場所に応じた音響設定を選ぶ (ピアノポジション)」

メニュー項目	設定値	参照先
MIC FX		(◆[MICFX]長押し)
Mic Fx Type	選択肢 ^{*2}	52ページ「マイクエフェクトのタイプを選ぶ」
Fx On/Off	On, Off	53ページ「マイクエフェクトの設定を変更する」
M1 ~ M3	選択肢 ^{*3}	
PORTAMENTO		—
Portamento Time	0 ~ 127 ^{*4}	65ページ「ポルタメントタイムを設定する」

MIXER		55ページ「ミキサーを使う」 (◆[MIXER])
VOLUME		55ページ「各パートの音量・ステレオ定位・エフェクトのかかり方を調節する」
KB Group	0 ~ 127	56ページ「ミキサー設定項目一覧」
U1 Part		
U2 Part		
L Part		
Audio Song		
Wireless Audio		
Mic In		
MIDI Song		
PAN		55ページ「各パートの音量・ステレオ定位・エフェクトのかかり方を調節する」
U1 Part	-64 ~ 0 ~ +63	56ページ「ミキサー設定項目一覧」
U2 Part		
L Part		
Mic In		
HALL/REV.		55ページ「各パートの音量・ステレオ定位・エフェクトのかかり方を調節する」
Hall/Rev. Return	0 ~ 127	56ページ「ミキサー設定項目一覧」
U1 Part Send		
U2 Part Send		
L Part Send	0 ~ 127	
AudioSongSend		
Wireless A Send		
Mic In Send		

メニュー項目	設定値	参照先
CHORUS		55ページ「各パートの音量・ステレオ定位・エフェクトのかかり方を調節する」
U1 Part Send	0 ～ 127	56ページ「ミキサー設定項目一覧」
U2 Part Send		
L Part Send		
KEYBOARD		(◆[KEYBD])
TRANPOSE		—
Transpose	−12 ～ 0 ～ +12	116ページ「半音単位で変更する（トランスポーズ）」 (◆[TRANS])
KBD SETTING		—
Touch Response	Off, Light 2, Light 1, Normal, Heavy 1, Heavy 2	113ページ「タッチレスポンスの感度を変更する」
Hammer Response	Tone, Off, 1 ～ 10	114ページ「ハンマーレスポンスを調節する」
KeyOff Response	Tone, 1 ～ 3	115ページ「キーオフレスポンスを調節する」
PART OCT SHIFT		—
Upper1 Part	−2 ～ 0 ～ +2	118ページ「各パート（Upper 1/Upper 2/Lower）を個別にオクターブシフトする」
Upper2 Part		
Lower Part		
PART FINE TUNE		—
Upper1 Part	−99 ～ 0 ～ +99	117ページ「各パート（Upper 1/Upper 2/Lower）を個別にチューニングする（パートファインチューン）」
Upper2 Part		
Lower Part		
SCALE TUNING		119ページ「鍵盤の音律を変える（スケールチューニング）」
Scale Type	選択肢※1	119ページ「音律を変える」
Scale Base Note	C, C#, ... , Bb, B	
Stretch Tuning	Off, On	120ページ「ストレッチチューニングのオン/オフを切り替える」
SPLIT POINT		43ページ「スプリットポイントを変更する」
Split Point	A0 ～ C8	(◆[SPLIT]長押し)

メニュー項目	設定値	参照先
PEDAL/WHEEL		57ページ「演奏しながら音の鳴らし方を変える」
EXP/ASGN. PEDAL		57ページ「EXPRESSION/ASSIGNABLE端子」 (◆[PEDAL])
Pedal Type	SW, Exp.Type1, Exp.Type2	58ページ「ペダルのタイプを選ぶには」
Pedal Target	選択肢※1	59ページ「ペダルの機能を選ぶには」
Upper1 Part	Off, On	61ページ「各パート（Upper 1/Upper 2/ Lower）に対するペダル操作の有効／無効を 切り替える」
Upper2 Part		
Lower Part		
Exp Calibration	—	60ページ「エクスプレッションペダルのキャ リブレーション」
PEDAL UNIT		57ページ「PEDAL UNIT端子」
Upper1 Part	Off, On	61ページ「各パート（Upper 1/Upper 2/ Lower）に対するペダル操作の有効／無効を 切り替える」
Upper2 Part		
Lower Part		
WHEEL		66ページ「ピッチベンドホイールで音の高さ を変える」 (◆[WHEEL])
P Bend Range	0 ～ 24	66ページ「ピッチベンドレンジを変更する」
Upper1 Part	Off, On	67ページ「各パート（Upper 1/Upper 2/ Lower）に対するピッチベンドホイール操作 の有効／無効を切り替える」
Upper2 Part		
Lower Part		
Wheel Illum	Cool, Colorful, Active	67ページ「ピッチベンドホイールの照光設定 を変更する」
Up/Down Color	Off, On	
EX		62ページ「EXボタンに割り当てる機能を変 更する」 (◆[EX])
EX1 Assign	選択肢※1	(◆FUNCTION + EX1)
EX2 Assign		(◆FUNCTION + EX2)

メニュー項目	設定値	参照先	
CONTROL		64ページ「CONTROLボタンに割り当てる機能を切り替える」 (◆[CTRL])	
Control Assign	選択肢※1	64ページ「CONTROLボタンに割り当てる機能を切り替える」 (◆FUNCTION + CONTROL)	
Mod Value	0 ～ 127	65ページ「モジュレーションの各種設定を変更するには」	
Mod Upper1 Part	Off, On		
Mod Upper2 Part			
Mod Lower Part			
F BUTTON SETTING		83ページ「Fボタンセットを編集する」	
FB SET NAME EDIT		88ページ「Fボタンセットの名前を変更する」	
F BUTTON EDIT			
F1 {機能}	選択肢※1	(◆FUNCTION + F1)	83ページ「Fボタンに機能を割り当てる(ユーザーFボタンセットの作成)」
F2 {機能}		(◆FUNCTION + F2)	
F3 {機能}		(◆FUNCTION + F3)	
F4 {機能}		(◆FUNCTION + F4)	
FB SET CLEAR		90ページ「Fボタンセットを消去する」	
DUET		121ページ「鍵盤を左右に分けて2人で弾く(デュエット)」 (◆[DUET]長押し)	
Duet Mode	Duet On, Duet Pan	123ページ「デュエット機能の設定を変更する」	
Upper Octave	-2 ～ 0 ～ +2		
Lower Octave			
ARPEGGIATOR		—	
Pattern	選択肢※1	71ページ「アルペジエーターのパターンや各種設定を変更する」 (◆[ARPEG]長押し)	
Recommended Setup	Off, On		
Arpeggio Hold	Off, On		
Upper1 Part	Off, On		
Upper2 Part	Off, On		
Lower Part	Off, On		

メニュー項目	設定値	参照先
REGISTRATION		73ページ「演奏に使う設定を登録する・呼び出す（レジストレーション）」
FREEZE		77ページ「フリーズ機能について」 (◆[FREEZ]長押し)
Pedal/Wheel	Off, On	80ページ「レジストレーションに登録される設定項目」
EX/CTRL		
Scale Tuning		
Touch Response		
Sound Mode		
Effect		
Transpose		
Split Point		
Arpeggiator		
Tempo		
Tone		
Mixer		
BANK NAME EDIT		75ページ「レジストレーションのバンク名を変更する」
SONG		94ページ「曲を聴く（SONGモード）」
Song Type	MIDI, Audio(USB Drv), Audio(Internal)	95ページ「MIDIデータやオーディオデータを再生する」 (◆[STYLE])
Audio C Cancel	Off, On	98ページ「オーディオデータのセンターキャンセル（ボーカルカット）」 (◆[STYLE])
METRONOME		(◆[METRO])
Tempo	20 ～ 255	68ページ「メトロノームの設定を変更する（テンポ・拍子・パターンなどを変える）」
Tempo Mark	選択肢 ^{※1}	
Guide Type	Metronome, Drum	
Pattern	Bell Off, 1 Beat ～ 9 Beat / 選択肢 ^{※1}	
Volume	0 ～ 127	
While Playing	Off, On	
While Recording	Off, On	

メニュー項目	設定値	参照先
MEDIA		124ページ「USBメモリーを使用する」

WIRELESS		(◆[ADPTR]長押し)
Notification Vol	0 ~ 127	136ページ「ワイヤレス接続時・切断時の通知音について」
Audio Pairing	—	138ページ「オーディオペアリングする」
Pairing Clear	—	139ページ「ペアリング登録を消去する」
Audio C Cancel	Off, On	142ページ「Bluetoothオーディオのセンサーキャンセル（ボーカルカット）について」

MIDI		—
Keyboard Ch	1 ~ 16	134ページ「MIDI設定を変更する」
Local Control	Off, On	
Hi-Reso MIDI Out	Off, On	

SYSTEM		—
Master Tuning	415.5 ~ 465.9	116ページ「音の高さを微調整する（マスターチューニング）」
Op. Click Volume	0 ~ 10	23ページ「タッチリング操作音の音量設定」
Panel Light	Off, 5, 30, 60, 120	16ページ「フロントパネルの消灯について」
Operation Lock	Off, On, Auto	19ページ「ボタン操作のロックについて（オペレーションロック）」
Speaker Out	Off, On, Auto	18ページ「ヘッドホンの接続中にスピーカーから音を出す」
Headphone Mode	Off, On	18ページ「ヘッドホンモードについて」
Auto Resume	Off, On	15ページ「オートレジューム機能」
Auto Power Off	Off, On	15ページ「オートパワーオフ機能」
Power On Alert	Off, On	16ページ「電源切り忘れお知らせ機能とイルミネーション演出」
Battery Type	Alkaline, Ni-MH	12ページ「電池の種類を設定するには」
Close-up	Off, On	25ページ「値の拡大表示について」
LCD Contrast	1 ~ 17	17ページ「液晶画面のコントラストを調整する」

メニュー項目	設定値	参照先
Touch Btn Sense	-1, 0, +1	23ページ「タッチボタンとタッチリングの感度設定」
Touch Ring Sense	-3 ~ 0 ~ +3	23ページ「タッチボタンとタッチリングの感度設定」
Setting Reset	—	148ページ「本機のすべての設定を工場出荷時の状態に戻すには（設定リセット）」
Factory Reset	—	148ページ「本機のすべての設定やデータを工場出荷時の状態に戻すには（ファクトリーリセット）」
Version ^{※4}	—	—

※1 選択肢の一覧は、各項目右側に記載の「参照先」をご覧ください。

※2 167ページ「マイクエフェクトのタイプ一覧」をご参照ください。

※3 168ページ「マイクエフェクトのモジュール内エフェクト一覧」をご参照ください。

※4 本機のソフトウェアバージョンが表示されます。

マイクエフェクト一覧

マイクエフェクトのタイプ一覧

下表はマイクエフェクトのタイプと、タイプごとにM1～M3の各モジュールに入っているエフェクトの一覧です。

M1～M3の各列に記載されているエフェクトの内容について詳しくは、[168ページ「マイクエフェクトのモジュール内エフェクト一覧」](#)をご参照ください。

No.	マイクエフェクト タイプ名(表示)	M1	M2	M3
1	Powerful	Mono 3-Band EQ	Mono 3-Band EQ	Delay
2	Presence	Mono 3-Band EQ	Mono 3-Band EQ	Delay
3	Clear	Mono 3-Band EQ	Mono 3-Band EQ	Delay
4	Soft	Limiter	Mono 3-Band EQ	Delay
5	Rock	Limiter	Mono 3-Band EQ	Delay
6	Bright Enh	Enhancer	Mono 3-Band EQ	Delay
7	Presence Enh	Enhancer	Mono 3-Band EQ	Delay
8	AmbientDelay	Mono 3-Band EQ	Mono 3-Band EQ	Delay
9	Short Delay	Mono 3-Band EQ	Mono 3-Band EQ	Delay
10	Echo	Mono 3-Band EQ	Mono 3-Band EQ	Delay
11	Middle Delay	Mono 3-Band EQ	Mono 3-Band EQ	Delay
12	Long Delay	Mono 3-Band EQ	Mono 3-Band EQ	Delay
13	Pan Delay	Mono 3-Band EQ	Auto Pan	Delay
14	Chorus	Mono 3-Band EQ	Chorus	Delay
15	Phaser	Mono 3-Band EQ	Phaser	Delay
16	Deep Phaser	Mono 3-Band EQ	Phaser	Delay
17	PhaserChorus	Mono 3-Band EQ	Phaser	Chorus
18	FlangerDelay	Mono 3-Band EQ	Flanger	Delay
19	FlangerPhase	Mono 3-Band EQ	Flanger	Phaser
20	Upper Octave	Mono 3-Band EQ	PitchShifter	Delay
21	Lower Octave	Mono 3-Band EQ	PitchShifter	Delay
22	Tremolo	Mono 3-Band EQ	Tremolo	Delay
23	Vibrato	Mono 3-Band EQ	Chorus	Delay
24	Distortion	Drive	Mono 3-Band EQ	Mono 3-Band EQ
25	RingMod LoFi	Drive	Ring Modulator	Mono 3-Band EQ

マイクエフェクトのモジュール内エフェクト一覧

下表はマイクエフェクトのモジュールに入っている、全エフェクトの一覧です。

各エフェクトで設定可能なパラメーターと設定範囲の詳細は、[169ページ「モジュール内のエフェクト別パラメーター一覧」](#)をご参照ください。

番号	表示	名称	内容
①	Mono 3BandEQ	Mono 3-Band EQ	3バンドで構成されるモノラル・イコライザーです。
②	Tremolo	Tremolo	入力信号の音量をLFOによって動かします。
③	Auto Pan	Auto Pan	入力信号の定位をLFOによって動かします。
④	Limiter	Limiter	入力された信号のレベルが設定値以上にならないように制限をかけます。
⑤	Enhancer	Enhancer	入力された信号の低域音と高域音の輪郭を際立たせる効果を与えます。
⑥	Phaser	Phaser	入力信号の位相をLFOによって動かし、入力信号に加えることにより、音に独特なうねりや広がりを与えます。
⑦	Chorus	Chorus	音に厚みと広がりを与えます。
⑧	Flanger	Flanger	音に激しいうなりや金属的な響きを与えます。LFO波形を選択できます。
⑨	Pitch	PitchShifter	入力信号のピッチを変換するエフェクトです。
⑩	Ring Mod	Ring Modulator	入力信号と内蔵オシレータを乗算して、金属的な音色をつくります。
⑪	Delay	Delay	入力信号を遅延しフィードバックさせることにより繰り返し効果を発生します。
⑫	Drive	Drive	楽器アンプのドライブ部分をシミュレートします。

モジュール内のエフェクト別パラメーター一覧

エフェクト		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
① Mono 3-Band EQ		3バンドで構成されるモノラル・イコライザーです。	
EQ1 Freq	EQ1 Frequency	EQ1の中心周波数を調整します。	※1
EQ1 Gain	EQ1 Gain	EQ1のゲインを調整します。	−12〜00〜12
EQ2 Freq	EQ2 Frequency	EQ2の中心周波数を調整します。	※1
EQ2 Gain	EQ2 Gain	EQ2のゲインを調整します。	−12〜00〜12
EQ3 Freq	EQ3 Frequency	EQ3の中心周波数を調整します	※1
EQ3 Gain	EQ3 Gain	EQ3のゲインを調整します。	−12〜00〜12
Input Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000〜127
Wet Level	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
Dry Level	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127
② Tremolo		入力信号の音量をLFOによって動かします。	
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000〜127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000〜127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine, Triangle, Trapezoid
Wet Level	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
Dry Level	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000〜127
③ Auto Pan		入力信号の定位をLFOによって動かします。	
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000〜127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000〜127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine, Triangle, Trapezoid 1, Trapezoid 2, Trapezoid 3, Trapezoid 4
Manual	Manual	定位の中心位置を調整します。−64で左、0で中央、+63で右となります。	−64〜00〜63
Wet Level	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
Dry Level	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127

エフェクト		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
④ Limiter		入力された信号のレベルが設定値以上にならないように制限をかけます。	
Limit	Limit	制限をかける音量レベルを調整します。	000～127
Attack	Attack	圧縮が効き始めるまでの時間を調整します。値が小さくなるほど、リミッターの動作が機敏になり、入力信号のアタックを抑えることができます。値が大きくなるほど、リミッターの動作が遅れて入力信号のアタックをそのまま出力するように動作します。	000～127
Release	Release	入力信号が所定のレベル以下になって圧縮が開放されるまでの時間を調整します。	000～127
Wet Level	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。Limitの設定と入力された音色の特性によって出力音量が変化します。このパラメーターによって補正してください。	000～127
Dry Level	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑤ Enhancer		入力された信号の低域音と高域音の輪郭を際立たせる効果を与えます。	
Low Freq	Low Frequency	低域音エンハンサーの周波数を調整します。	000～127
Low Gain	Low Gain	低域音エンハンサーのゲインを調整します。	000～127
High Freq	High Frequency	高域音エンハンサーの周波数を調整します。	000～127
High Gain	High Gain	高域音エンハンサーのゲインを調整します。	000～127
Input Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
Wet Level	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
Dry Level	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑥ Phaser		入力信号の位相をLFOによって動かし、入力信号に加えることにより、音に独特なうねりや広がりを与えます。	
Resonance	Resonance	音の癖の強さを調整します。	000～127
Manual	Manual	フェイザーの基準となるシフト量を調整します。	－64～00～63
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000～127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000～127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine, Triangle, Random
Input Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
Wet Level	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
Dry Level	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127

エフェクト		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
⑦ Chorus		音に厚みと広がりを与えます。	
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000～127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000～127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine, Triangle
Feedback	Feedback	音の癖の強さを調整します。	－64～00～63
Wet Level	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
Polarity	Polarity	片側チャンネルのLFOを反転し、音の広がり具合を切り替えます。	Negative, Positive
Input Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
Dry Level	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑧ Flanger		音に激しいうなりや金属的な響きを与えます。LFO波形を選択できます。	
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000～127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000～127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine, Triangle, Random
Feedback	Feedback	音の癖の強さを調整します。	－64～00～63
Wet Level	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
Input Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
Dry Level	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑨ PitchShifter		入力信号のピッチを変換するエフェクトです。	
PitchQuarter	PitchQuarter	四分音単位でのピッチ・シフト量を調整します。	－24～00～24
High Damp	High Damp	高域のダンプを調整します。値が小さいときに高域が速く減衰します。	000～127
Feedback	Feedback	フィードバック量を調整します。	000～127
Input Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
Wet Level	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
Dry Level	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
Pitch Fine	Pitch Fine	ピッチ・シフト量を微調整します。－50で四分音下がり、+50で四分音上がります。	－50～00～50

エフェクト		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
⑩ Ring Modulator		入力信号と内蔵オシレータを乗算して、金属的な音色をつくります。	
OSC Freq	OSC Frequency	内蔵オシレータの基準周波数を設定します。	000～127
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000～127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000～127
Tone	Tone	リング・モジュレーターの入力音の音質を調整します。	000～127
Wet Level	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
Dry Level	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑪ Delay		入力信号を遅延しフィードバックさせることにより繰り返し効果が発生します。	
Time	Delay Time	トータル・ディレイ・タイムを1ミリ秒単位で設定します。	0001～1099
L.Time Ratio	Delay Ratio L	トータル・ディレイ・タイムに対する左チャンネルの比率を調整します。	000～127
R.Time Ratio	Delay Ratio R	トータル・ディレイ・タイムに対する右チャンネルの比率を調整します。	000～127
L.Level	Delay Level L	左チャンネルのレベルを調整します。	000～127
R.Level	Delay Level R	右チャンネルのレベルを調整します。	000～127
FeedbackType	Feedback Type	フィードバックのタイプを選択します。 Stereo：ステレオ・フィードバック Cross：クロス・フィードバック	Stereo, Cross
Feedback Lvl	Feedback	フィードバック量を調整します。	000～127
High Damp	High Damp	高域のダンピングを調整します。値が小さいときに高域が速く減衰します。	000～127
Tmpo Sync	Delay Tempo Sync	実際のトータル・ディレイ・タイムをどのようにテンポに同期させるかを設定します。 Offのとき：Delay Timeの値に設定されます。 1/4～1のとき：拍数に応じた値に設定されます。	Off, 1/4, 1/3, 3/8, 1/2, 2/3, 3/4, 1
Input Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
Dry Level	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
Wet Level	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127

エフェクト		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
⑫ Drive		楽器アンプのドライブ部分をシミュレートします。	
Type	Drive Type	ドライブのタイプを選択します※2。	1～20
Gain	Gain	ドライブの入力信号のゲインを調整します。	000～127
Output Level	Level	ドライブの出力レベルを調整します。	000～127
Wet Level	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
Dry Level	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127

※1 100Hz、125Hz、160Hz、200Hz、250Hz、315Hz、400Hz、500Hz、630Hz、800Hz、1.0kHz、
1.3kHz、1.6kHz、2.0kHz、2.5kHz、3.2kHz、4.0kHz、5.0kHz、6.3kHz、8.0kHz

※2

設定範囲	ドライブタイプ	表示	説明
1～4	Clean1～4	Clean 1～4	歪みの少ないクリーン・サウンドをシミュレートします。
5～8	Crunch1～4	Crunch 1～4	少し歪んだ歯切れのよいクランチサウンドをシミュレートします。
9～12	Overdrive1～4	Overdrive 1～4	メローに歪んだオーバードライブサウンドをシミュレートします。
13～16	Distortion1～4	Distort 1～4	ハードでストレートなディストーションサウンドをシミュレートします。
17～20	Metal1～4	Metal 1～4	ヘビーメタルに適した過激で重量感のあるディストーションサウンドをシミュレートします。

アルペジエーター一覧

下表はアルペジエーターのパターン一覧です。“Recommended Setup”が“On”の場合、アルペジエーターをオフからオンに切り替えたときや、アルペジエーターがオンの状態で“Pattern”を切り替えたとき、下表の「おすすめ設定」が自動的に適用されます。

No.	パターン名 (Pattern)	おすすめ設定 (Recommended Setup)					備考
		アルペジエーターの対象パート			スプリット ポイント※1	アルペジオ ホールド	
		Upper 1	Upper 2	Lower			
01	Piano Sequence 1	○			F#3		※2
02	Piano Sequence 2			○	C5	○	※2
03	Piano Sequence 3		○		F#3	○	※2
04	Piano Sequence 4		○		F#3	○	※2
05	Piano Sequence 5	○			F#3		
06	Piano Triplet Sequence	○			F#3		※2
07	Piano Odd Sequence	○			F#3	○	※2
08	Chordal Phrase 1	○			F#3	○	
09	Chordal Phrase 2		○		F#3	○	※2
10	Chordal Phrase 3		○		F#3	○	※2
11	Ambient FX 1	○			F#3	○	※2
12	Ambient FX 2	○			F#3	○	※2
13	Single Note Sequence		○		F#3		
14	Lower EP Phrase			○	C3	○	
15	Layered EP Phrase		○		F#3	○	
16	Layered EP Arpeggio		○		F#3	○	
17	Layered Arpeggio 1		○		F#3	○	
18	Layered Arpeggio 2		○		F#3	○	※2
19	Layered Arpeggio 3		○		F#3	○	※2
20	Layered Arpeggio 4		○		F#3	○	
21	Synth Sequence	○			F#2	○	
22	Lower Strings Phrase			○	C3	○	
23	Walking Bass			○	C3	○	
24	Simple Bass			○	C3	○	
25	Odd Phrase Bass			○	C3	○	
26	Latin Piano	○	○		F#3	○	
27	Screw Up	○	○		F#3		
28	Screw Down	○	○		F#3		
29	Skip Up	○	○		F#3		
30	Skip Down	○	○		F#3		

No.	パターン名 (Pattern)	おすすめ設定 (Recommended Setup)					備考
		アルペジエーターの対象パート			スプリット ポイント※1	アルペジオ ホールド	
		Upper 1	Upper 2	Lower			
31	Up Up Down	○	○		F#3		
32	Down Down Up	○	○		F#3		
33	Sequence Line 1	○	○		F#3		
34	Sequence Line 2	○	○		F#3		
35	Sequence Line 3	○	○		F#3		
36	Arpeggio 2Octave	○	○		F#3		※2
37	9th Arpeggio	○	○		F#3		
38	Ragtime	○	○		F#3		
39	8 Beat	○			F#3		
40	12/8	○	○		F#3		
41	Waltz	○	○		F#3		
42	Shuffle Pop	○			F#3	○	※2
43	Up 1Octave 1	○	○		F#3		
44	Up 2Octave 1	○	○		F#3		
45	Up 1Octave 2	○	○		F#3		
46	Up 2Octave 2	○	○		F#3		
47	Down 1Octave 1	○	○		F#3		
48	Down 2Octave 1	○	○		F#3		
49	Down 1Octave 2	○	○		F#3		
50	Down 2Octave 2	○	○		F#3		

※1 “Recommended Setup”が“On”の場合、パターンを切り替えると、スプリットポイントが自動的にこの列の鍵盤に設定されます。このため、パターンによってアルペジエーターが再生される鍵域は変わります。

※2 これらのパターンには、アルペジエーターで再生されるノートに、適切なサステイン効果が加えられています。

MIDI インプリメンテーション・チャート

ファンクション		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 ~ 16	1 ~ 16 1 ~ 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代 用	モード3 × *****	モード3 × *****	
ノート ナンバー	音 域	0 ~ 127 *****	0 ~ 127 0 ~ 127*1	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH v = 1 ~ 127 ○ 8nH v = 0 ~ 127	○ 9nH v = 1 ~ 127 ○ 9nH v = 0, 8nH v = 0 ~ 127	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ○	
ピッチ・ベンド		○	○	
コントロール チェンジ	0, 32	○	○	バンク・セレクトLSB/MSB モジュレーション ホルタメント・タイム データ・イベント・LSB/MSB ポリューム パン エクスプレッション ホールド1 ホルタメント・オン/オフ システム ソフト フィルタ・レゾナンス リリース・タイム アタック・タイム ブライネス ビブラート・レート ビブラート・デプス ビブラート・ディレイ ホルタメント・コントロール ハイ・レゾリューション・ベロシティ・プリフィクス リバーブ・センド・レベル コーラス・センド・レベル ディレイ・センド・レベル RPN LSB/MSB
	1	○ *4	○	
	5	○	○ *3	
	6, 38	○ *3	○	
	7	○ *2	○	
	10	○	○	
	11	○ *2	○	
	64	○ *2	○	
	65	○ *4	○	
	66	○ *2	○	
	67	○ *2	○	
	71	×	○	
	72	○	○	
	73	×	○	
	74	×	○	
	76	×	○	
	77	×	○	
	78	×	○	
	84	×	○	
	88	○	○	
	91	○	○	
	93	○	○	
	94	×	○ *3	
	100, 101	○ *3	○	
プログラム・チェンジ 設定可能範囲		○ *****	○ 0 ~ 127	
エクスクルーシブ		○ *3	○ *3	
コモン	ソング・ポジション	×	×	
	ソング・セレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアル タイム	クロック	×	×	
	コマンド	×	×	
その他	オール・サウンド・オフ	×	○	
	リセット・オール・コントローラー	×	○	
	ローカル ON/OFF	×	×	
	オール・ノート・オフ	×	○	
	アクティブ・センシング	×	○	
	システム・リセット	×	×	
備 考	*1: 音色による *2: EXPRESSION/ASSIGNABLE端子に接続されているペダルについては、ペダルの設定により振一 *3: 送受信対応RPN、システム・エクスクルーシブ・メッセージの詳細はMIDI Implementation (https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S7000/) 参照 *4: EXボタンの設定による • 一部の操作に付随して「送信: ×」のメッセージが出力されることがあります			

モード1 : オムニ・オン、ポリ
モード3 : オムニ・オフ、ポリ

モード2 : オムニ・オン、モノ
モード4 : オムニ・オフ、モノ

○ : あり
× : なし

CASIO®

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

PXS7000-JA-2B

MA2311-B

© 2022 CASIO COMPUTER CO., LTD.